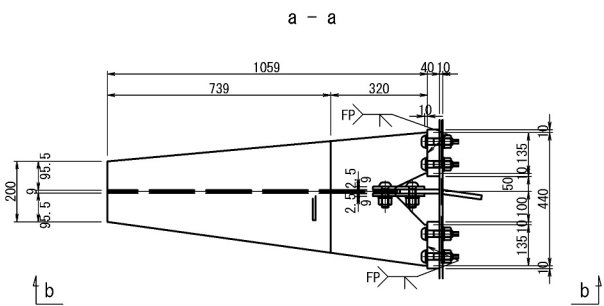
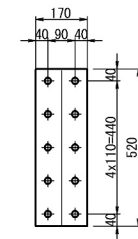


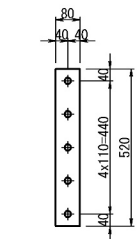
ブラケットA 詳細図



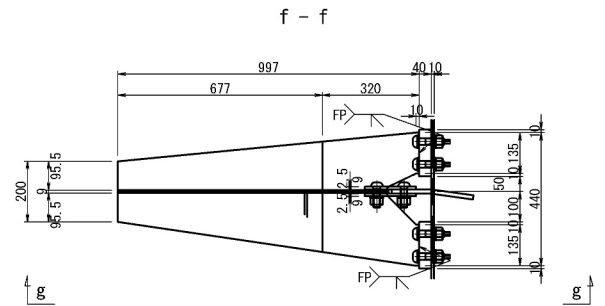
補剛材接合板



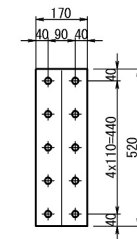
フィラープレート



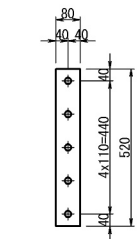
ブラケットB 詳細図



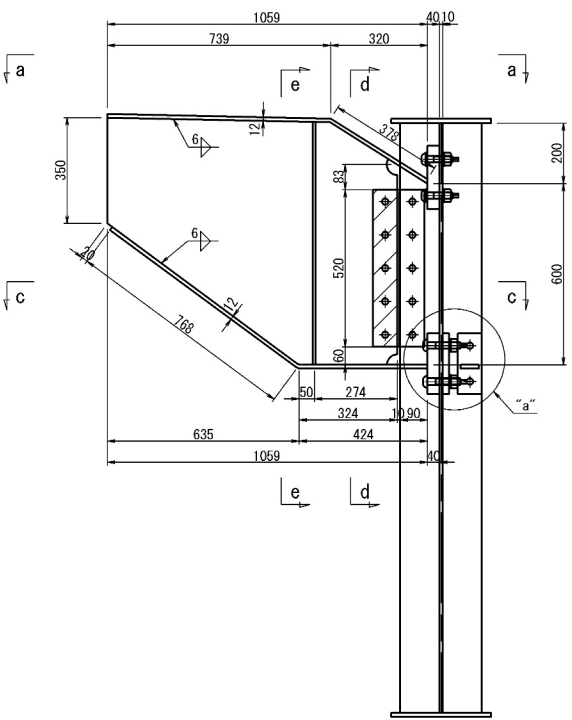
補剛材接合板



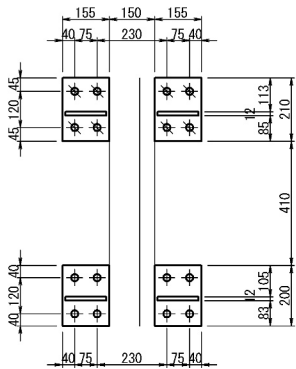
フィラープレート



b - b

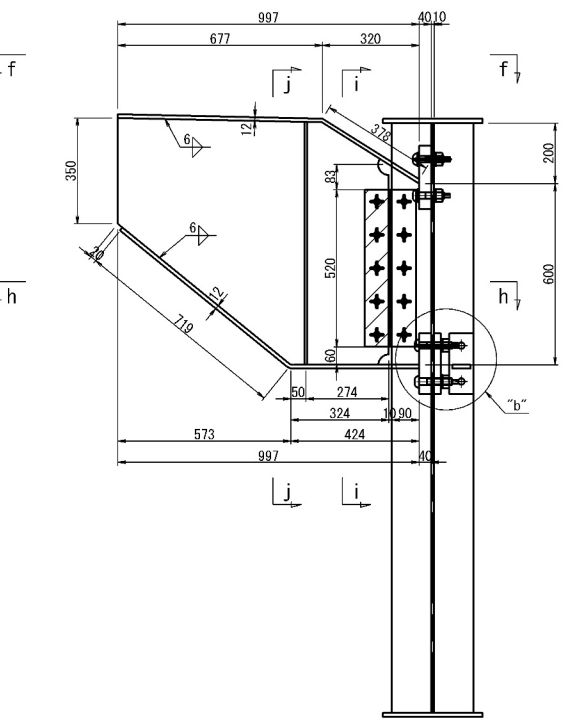


d - d

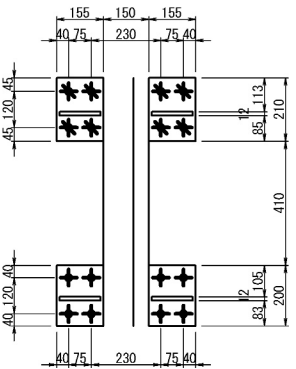


製作数: 1組
1-UFLG, PL 440x12x1117
1-WEB, PL 959x9x818
1-LFLG, PL 440x12x1192
2-BASE, PL 210x40x155 (SM400B)
2-BASE, PL 200x40x155 (SM400B)
2-SPL, PL 170x9x520 (SS400)
1-STIF, PL 90x9x804
10-TGB M22x70 (S10T)
8-TGB M22x90 (S10T) (2-W)
8-TGB M22x110 (S10T)
2-Fill, PL 80x2.3x520 (SS400)

g - g

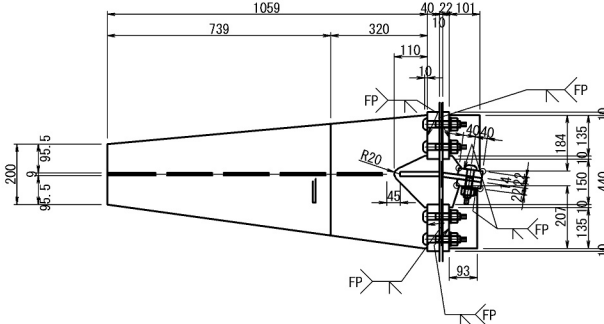


i - i

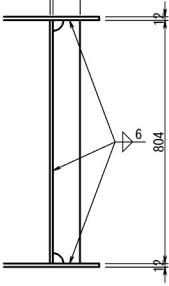


製作数: 1組
1-UFLG, PL 440x12x1055
1-WEB, PL 897x9x817
1-LFLG, PL 440x12x1143
2-BASE, PL 210x40x155 (SM400B)
2-BASE, PL 200x40x155 (SM400B)
2-SPL, PL 170x9x520 (SS400)
1-STIF, PL 90x9x804
10-TGB M22x70 (S10T)
8-TGB M22x90 (S10T) (2-W)
8-TGB M22x110 (S10T)
2-Fill, PL 80x2.3x520 (SS400)

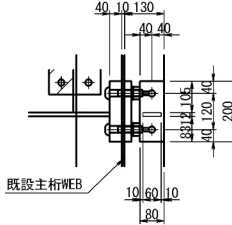
c - c



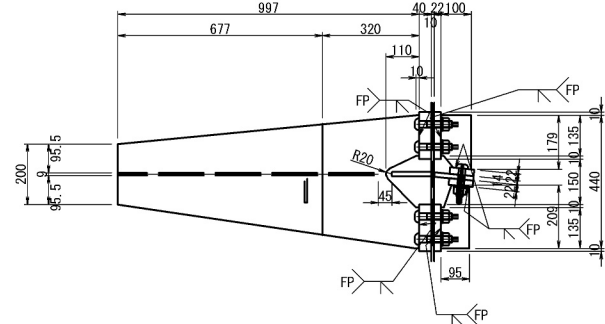
e - e



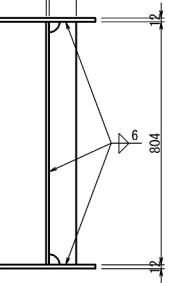
"a"部詳細



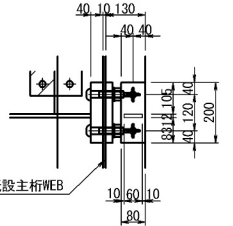
h - h



j - j



"b"部詳細



製作数: 1組
2-BASE, PL 155x22x200
2-BASE, PL 80x22x200
1-RIB, PL 100x12x179
1-RIB, PL 95x12x209
2-TGB M22x95 (S10T)

特記:

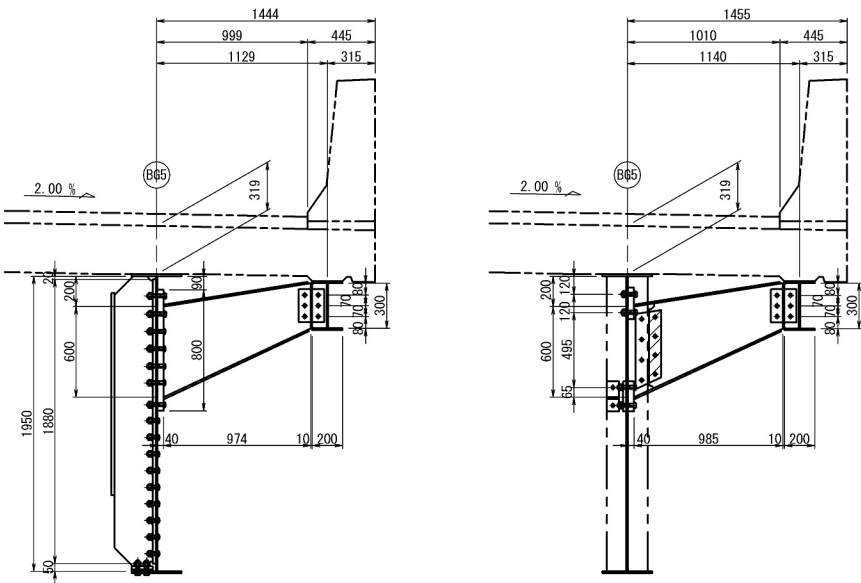
- 金物は、現地確認実測後製作及び取付を行うこと。
- 現地確認実測後、設計図面と大きく相違が出た場合は監督員と協議の上決定する。
- 全ての取付金物は、既設橋梁本体と同様の塗装を施す。
- 高力ボルト接合摩擦面処理は、取り付く金物の+10mmで行うこと。
- 摩擦接合完了後の補修塗装は、既設橋梁本体と同様の塗装を施す。
- 表記無き部材は、全てSM400Aとする。
- 表記無きスカラーは、全て35Rとする。
- 印のボルトは、TGB M22を示す。
※ 印のボルトは、TGB M22 (2-W)を示す。
※ 印のボルトは、HTB M22を示す。
- ボルト孔明けについて、以下の通りとする。
TGB M22→φ24.5 (既設)
TGB M22→φ26.5 (新設)

道 央 自 動 車 道 苫小牧川橋床版取替工事			
図面の種類	錦多峰川橋(下り線) 桁端ブラケット構造図(その2)		
縮 尺	図 示	図面番号	／
設計会社名	安藤ハザマ・岩田地崎JV		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 北広島管理事務所		

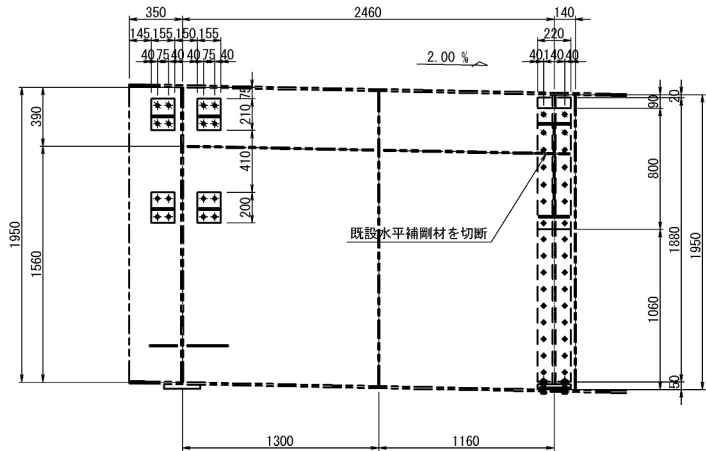
断面図

ブラケットB

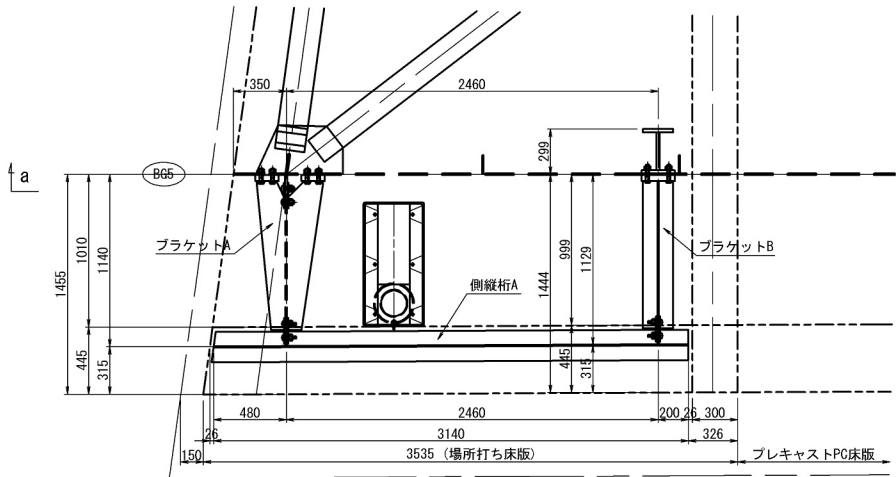
ブラケットA



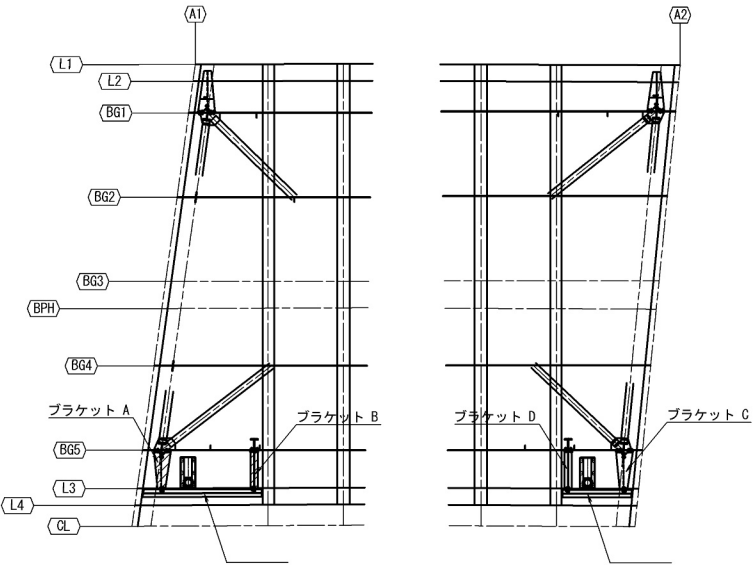
側面図
a - a



平面図



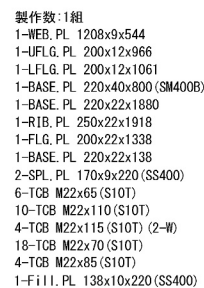
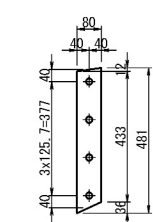
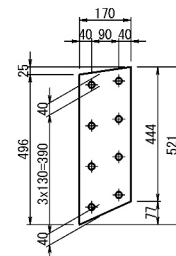
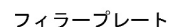
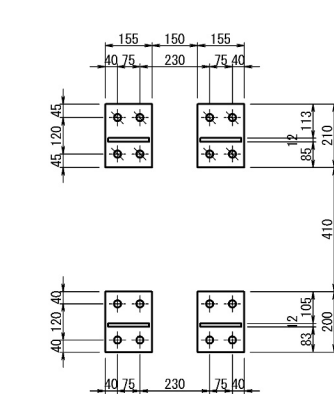
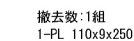
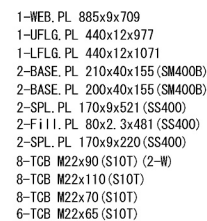
配置図 S=1:200



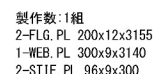
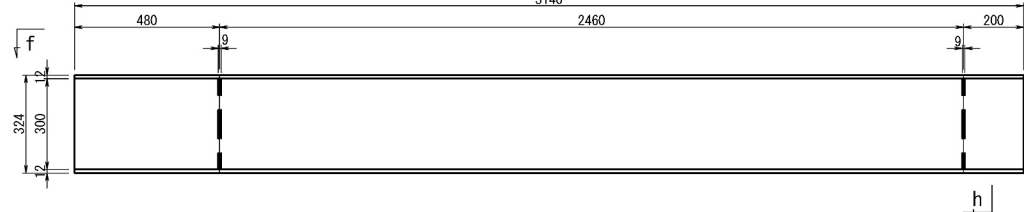
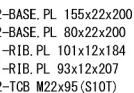
特記:
1. 金物は、現地確認実測後製作及び取付を行うこと。
2. 現地確認実測後、設計図面と大きく相違が出た場合は監督員と協議の上決定する。
3. 全ての取付金物は、既設橋梁本体と同様の塗装を施す。
4. 高力ボルト接合摩擦面処理は、取り付く金物の+10mmで行うこと。
5. 摩擦接合完了後の補修塗装は、既設橋梁本体と同様の塗装を施す。
6. 表記無き部材は、全てSM400Aとする。
7. 表記無きスカーラップは、全て35Rとする。
8. 印のボルトは、TCB M22を示す。
※ 印のボルトは、TCB M22 (2-W)を示す。
※ 印のボルトは、HTB M22を示す。

道 央 自 動 車 道 苫小牧川橋床版取替工事			
図面の種類	錦多峰川橋(下り線) 桁端部支間長低減部材構造図(その1)		
縮 尺	図 示	図面番号	/
設計会社名	安藤ハザマ・岩田地崎JV		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 北広島管理事務所		

ブラケットA 詳細図



"a"部詳細

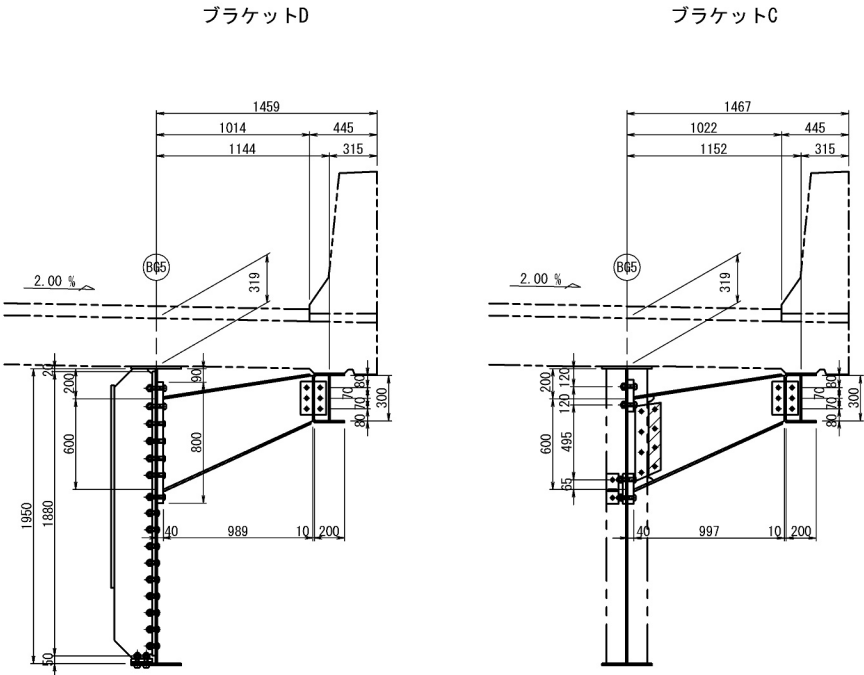
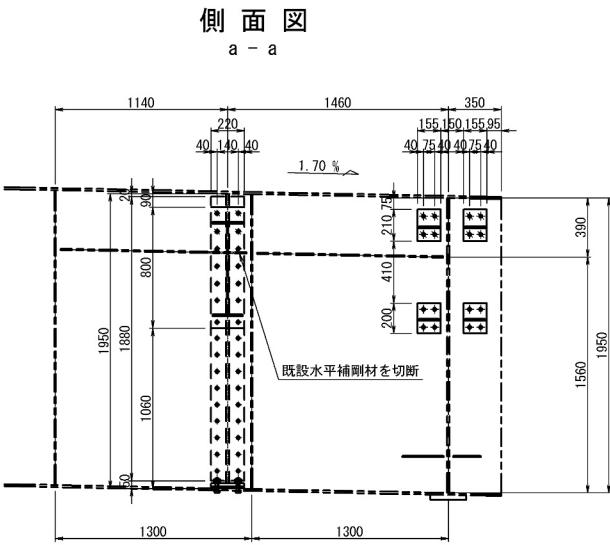


特記:

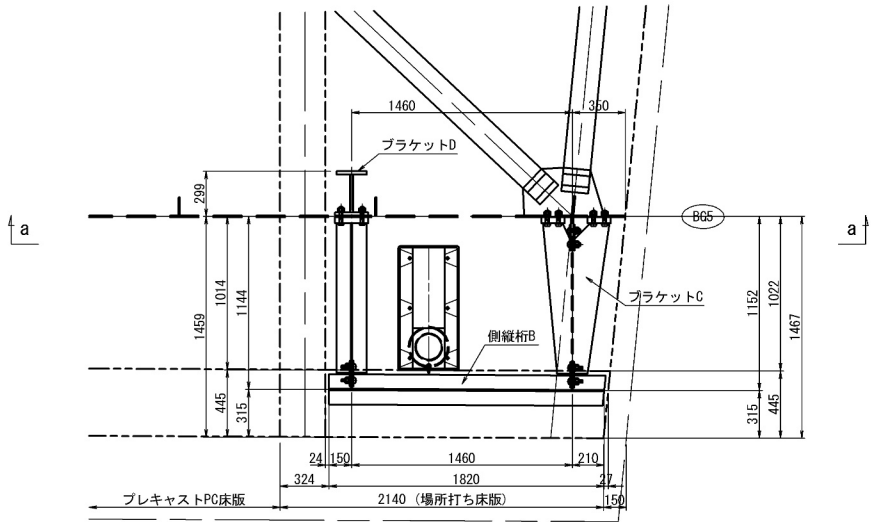
1. 金物は、現地確認実測後製作及び取付を行うこと。
2. 現地確認実測後、設計図面と大きく相違が出た場合は監督員と協議の上決定する。
3. 全ての取付金物は、既設橋梁本体と同様の塗装を施す。
4. 高力ボルト接合摩擦面処理は、取り付く金物の+10mmで行うこと。
5. 摩擦接合完了後の補修塗装は、既設橋梁本体と同様の塗装を施す。
6. 表記無き部材は、全てSM400Aとする。
7. 表記無きスカーラップは、全て3SRとする。
8. 中印のボルトは、TCB M22を示す。
※ 印のボルトは、TCB M22(2-W)を示す。
※ 印のボルトは、HTB M22を示す。
9. ボルト孔明けについて、以下の通りとする。
TCB M22→φ24.5(既設)
TCB M22→φ26.5(新設)

道 央 自 動 車 道			
吉小牧川橋床版取替工事			
図面の種類	錦多峰川橋(下り線)		
	桁端部支間長減部材構造図(その2)		
縮 尺	図 示	図面番号	/
設計会社名	安藤ハザマ・岩田地崎JV		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 北広島管理事務所		

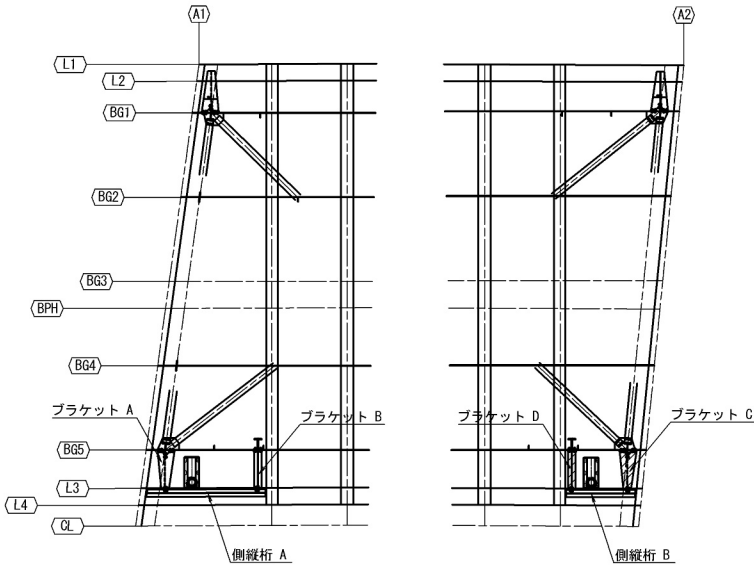
断面図



平面図



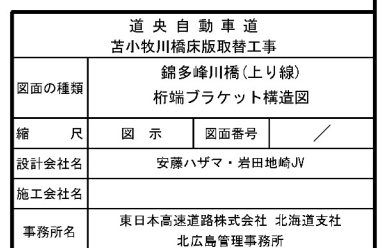
配置図 S=1:200



- 特記:
- 金物は、現地確認実測後製作及び取付を行うこと。
 - 現地確認実測後、設計図面と大きく相違が出た場合は監督員と協議の上決定する。
 - 全ての取付金物は、既設橋梁本体と同様の塗装を施す。
 - 高力ボルト接合摩擦面処理は、取り付く金物の+10mmで行うこと。
 - 摩擦接合完了後の補修塗装は、既設橋梁本体と同様の塗装を施す。
 - 表記無き部材は、全てSM400Aとする。
 - 表記無きスカーラップは、全て35Rとする。
 - 中印のボルトは、TCB M22を示す。
※ 印のボルトは、TCB M22 (2-W)を示す。
※ 印のボルトは、HTB M22を示す。

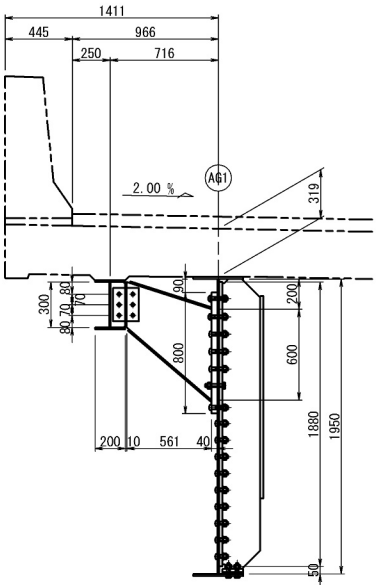
道 央 自 動 車 道 苫小牧川橋床版取替工事			
図面の種類	錦多峰川橋(下り線) 桁端部支間長低減部材構造図(その3)		
縮 尺	図 示	図面番号	／
設計会社名	安藤ハザマ・岩田地崎JV		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 北広島管理事務所		

補剛

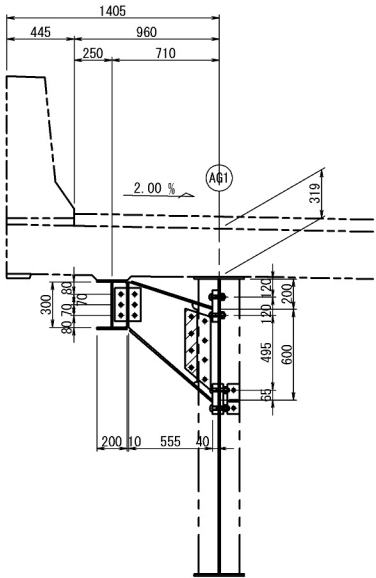


断面図

ブラケットB

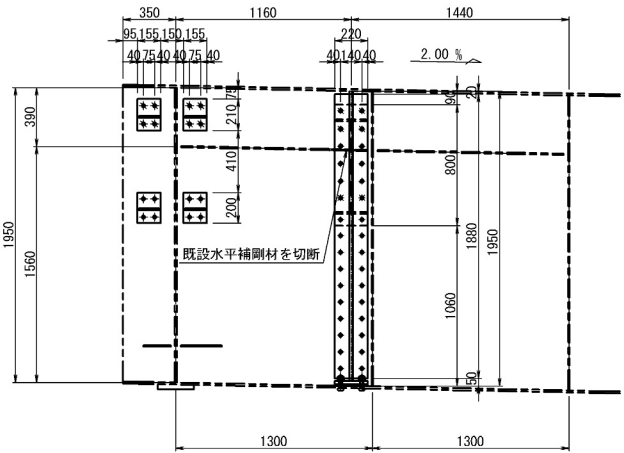


ブラケットA

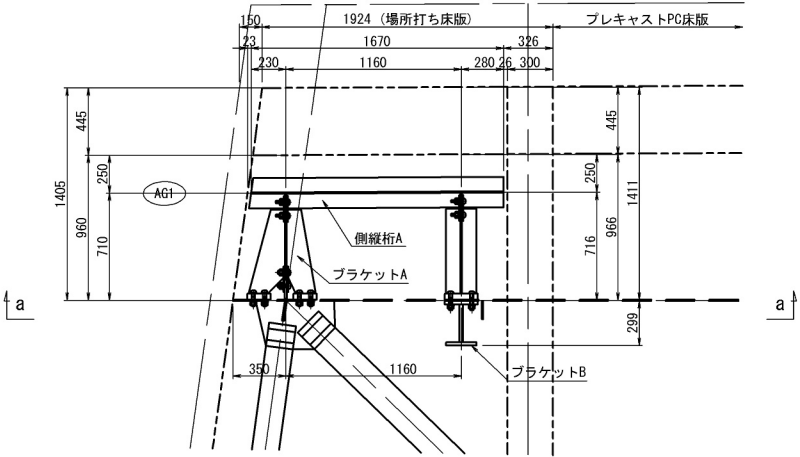


側面図

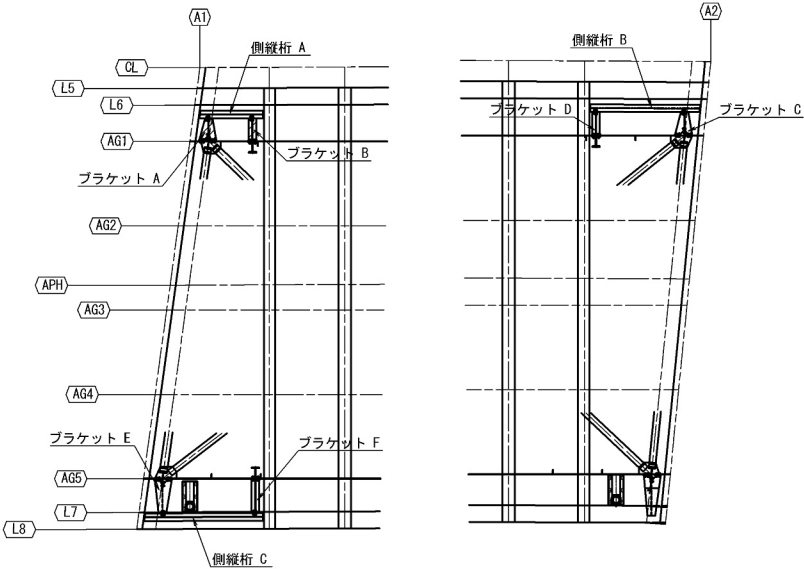
a - a



平面図



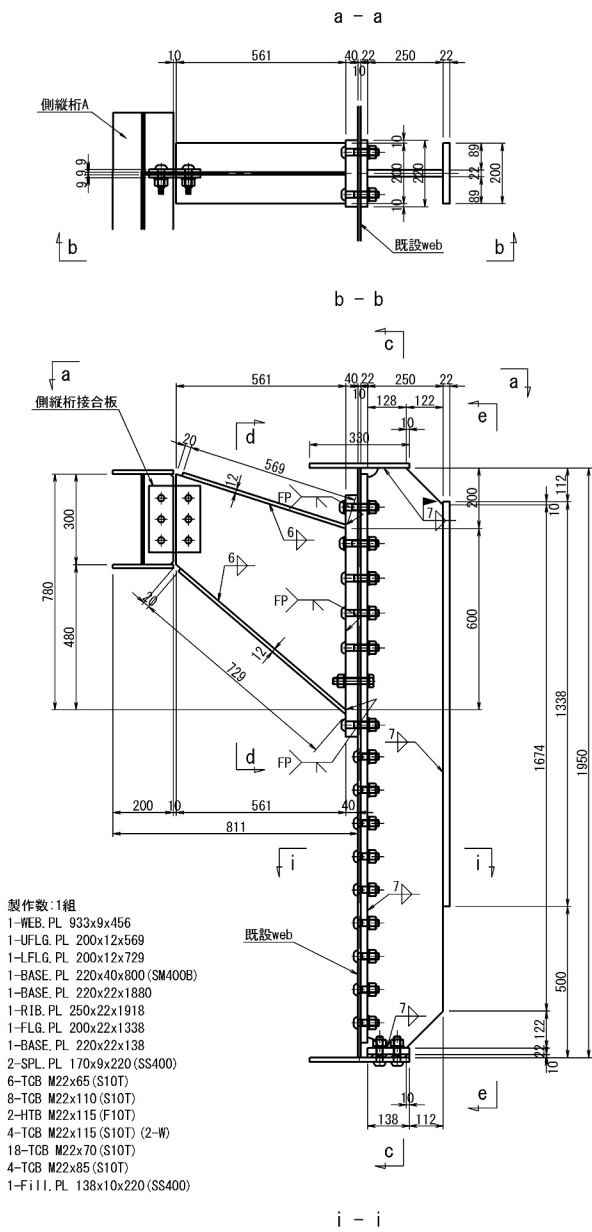
配置図 S=1:200



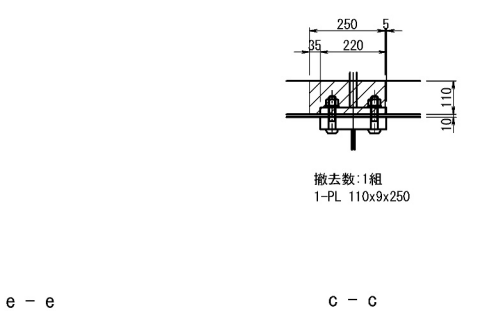
- 特記:
- 金物は、現地確認実測後製作及び取付を行うこと。
 - 現地確認実測後、設計図面と大きく相違が出た場合は監督員と協議の上決定する。
 - 全ての取付金物は、既設橋梁本体と同様の塗装を施す。
 - 高力ボルト接合摩擦面処理は、取り付く金物の+10mmで行うこと。
 - 摩擦接合完了後の補修塗装は、既設橋梁本体と同様の塗装を施す。
 - 表記無き部材は、全てSM400Aとする。
 - 表記無きスカーラップは、全て35Rとする。
 - 中印のボルトは、TCB M22を示す。
※ 印のボルトは、TCB M22 (2-W)を示す。
※ 印のボルトは、HTB M22を示す。

道 央 自 動 車 道 苫小牧川橋床版取替工事			
図面の種類	錦多峰川橋(上り線) 桁端部支間長低減部材構造図(その1)		
縮 尺	図 示	図面番号	/
設計会社名	安藤ハザマ・岩田地崎JV		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 北広島管理事務所		

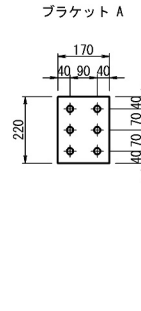
ブラケットB 詳細図



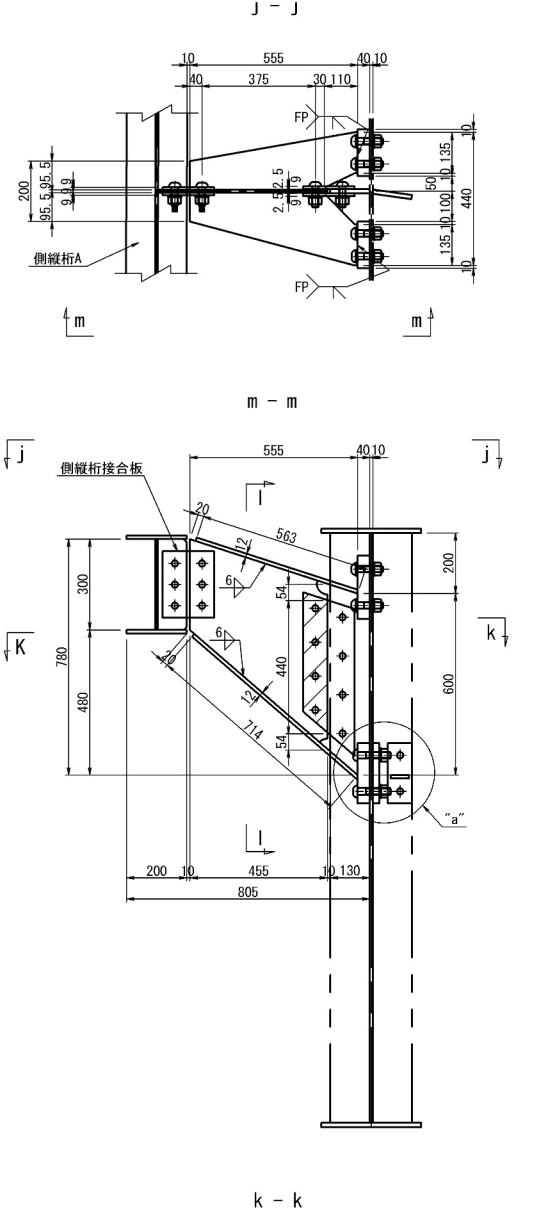
既設水平補剛材撤去詳細図



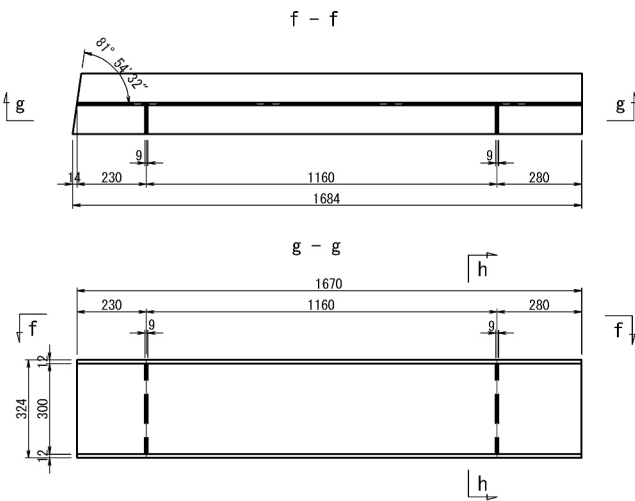
側縦桁接合板



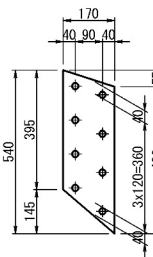
ブラケットA 詳細図



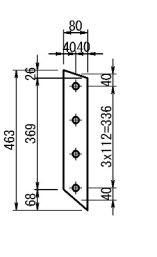
側縦桁A 詳細図



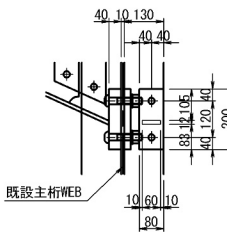
補剛材接合板



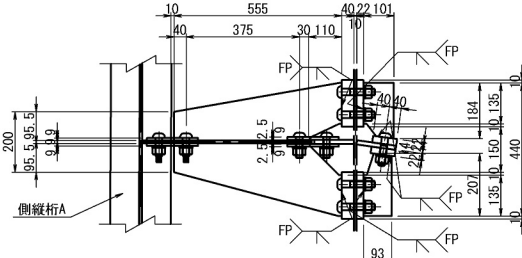
フィラープレート



"a"部詳細



k - k



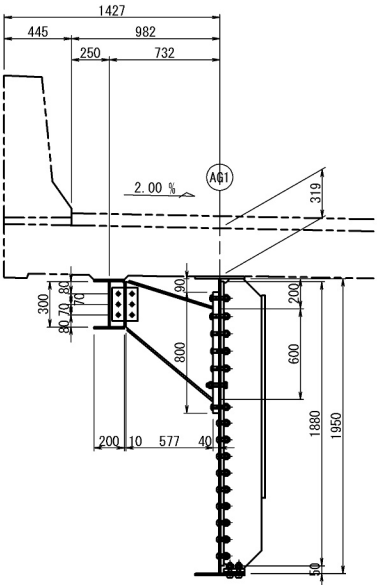
特記:

- 金物は、現地確認実測後製作及び取付を行うこと。
- 現地確認実測後、設計図面と大きく相違が出た場合は監督員と協議の上決定する。
- 全ての取付金物は、既設橋梁本体と同様の塗装を施す。
- 高力ボルト接合摩擦面処理は、取り付く金物の+10mmで行うこと。
- 摩擦接合完了後の補修塗装は、既設橋梁本体と同様の塗装を施す。
- 表記無き部材は、全てSM400Aとする。
- 表記無きスカーラップは、全て35Rとする。
- 中印のボルトは、TCB M22を示す。
※印のボルトは、TCB M22 (2-W)を示す。
※印のボルトは、HTB M22を示す。
- ボルト孔明けについて、以下の通りとする。
TCB M22→φ24.5 (新設)
TCB M22→φ26.5 (新設)

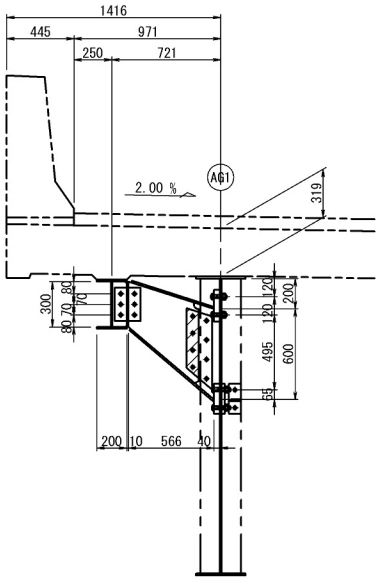
道 央 自 動 車 道			
苫小牧川橋床版取替工事			
図面の種類	錦多峰川橋(上り線) 桁端部支間長低減部材構造図(その2)		
縮 尺	図 示	図面番号	／
設計会社名	安藤ハザマ・岩田地崎JV		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 北広島管理事務所		

断面図

ブラケットD

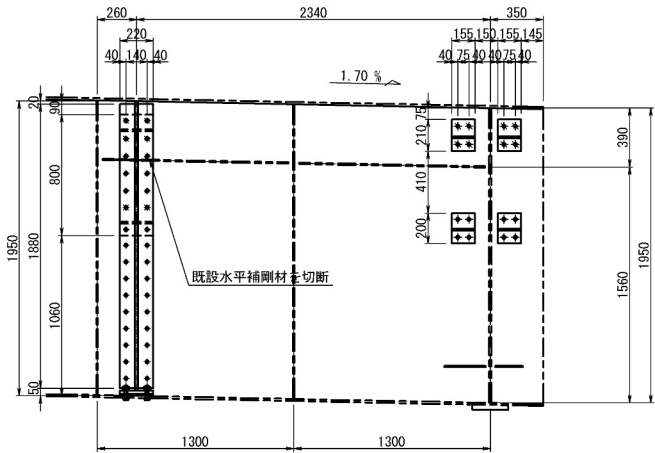


ブラケットC

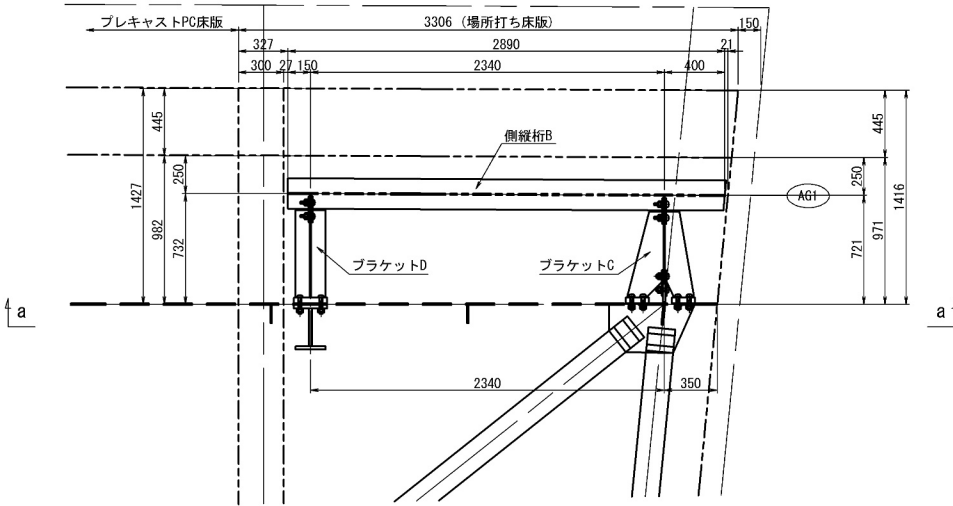


側面図

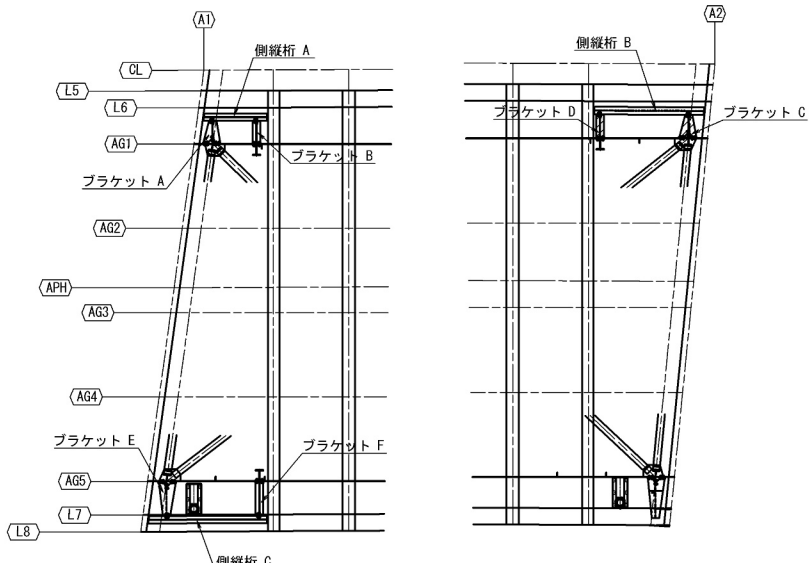
a - a



平面図



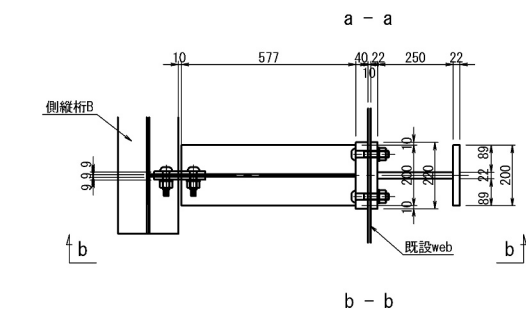
配置図 S=1:200



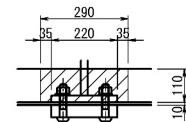
- 特記:
- 1. 金物は、現地確認実測後製作及び取付を行うこと。
 - 2. 現地確認実測後、設計図面と大きく相違が出た場合は監督員と協議の上決定する。
 - 3. 全ての取付金物は、既設橋梁本体と同様の塗装を施す。
 - 4. 高力ボルト接合摩擦面処理は、取り付く金物の+10mmで行うこと。
 - 5. 摩擦接合完了後の補修塗装は、既設橋梁本体と同様の塗装を施す。
 - 6. 表記無き部材は、全てSM400Aとする。
 - 7. 表記無きスカーラップは、全て35Rとする。
 - 8. 中 印のボルトは、TCB M22を示す。
※ 印のボルトは、TCB M22 (2-W)を示す。
※ 印のボルトは、HTB M22を示す。

道 央 自 動 車 道 苫小牧川橋床版取替工事			
図面の種類	錦多峰川橋(上り線) 桁端部支間長低減部材構造図(その3)		
縮 尺	図 示	図面番号	／
設計会社名	安藤ハザマ・岩田地崎JV		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 北広島管理事務所		

ブラケットC 詳細図



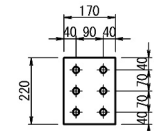
既設水平補剛材撤去詳細図



撤去数:1組
1-PL 110x9x290

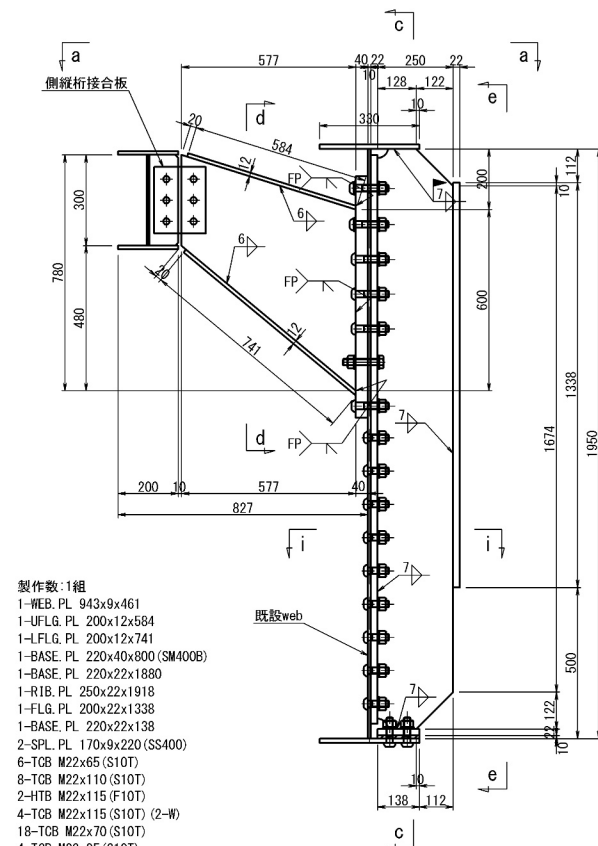
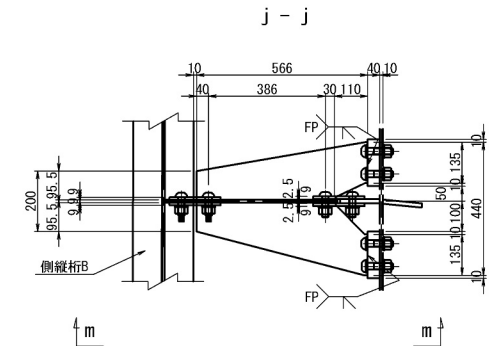
側縱桁接合板

ブラケット C



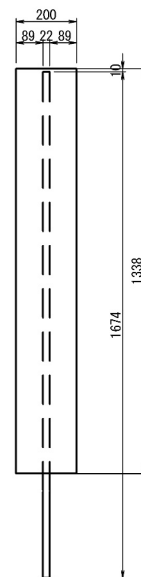
製作数:1組

1-WEB. PL 466x9x695
1-UFLG. PL 440x12x574
1-LFLG. PL 440x12x722
2-BASE. PL 210x40x155 (SM400B)
2-BASE. PL 200x40x155 (SM400B)
2-SPL. PL 170x9x540 (SS400)
2-Fil. PL 80x2, 3x463 (SS400)
2-SPL. PL 170x9x220 (SS400)
8-TGB M22x90 (S10T) (2-W)
8-TGB M22x110 (S10T)
8-TGB M22x70 (S10T)
6-TGB M22x65 (S10T)

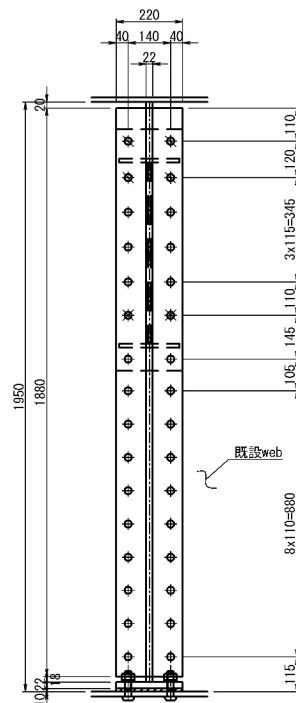


製作数:1組

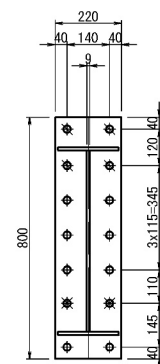
- 1-HEB. PL 943x9x461
- 1-FLG. PL 200x12x584
- 1-FLG. PL 200x12x741
- 1-BASE. PL 220x40x800(SM400B)
- 1-BASE. PL 220x42x1880
- 1-RIB. PL 250x22x219
- 1-FLG. PL 200x22x1338
- 1-BASE. PL 220x22x1338
- 2-SP. PL 170x9x220(SS400)
- 6-TGB M22x65(S10T)
- 8-TGB M22x110(S10T)
- 2-HTB M22x115(F10T)
- 4-TGB M22x115(S10T)(2-W)
- 18-TGB M22x70(S10T)
- 4-TGB M22x85(S10T)
- 1-Fil. PL 138x10x220(SS400)

$$e - e$$


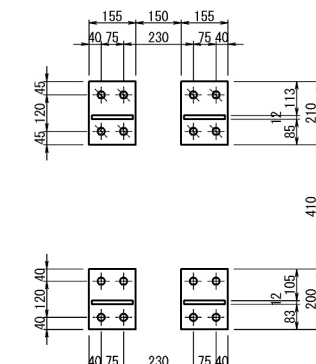
C - C



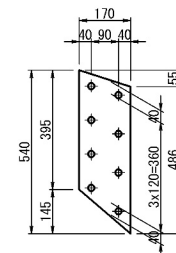
d - d



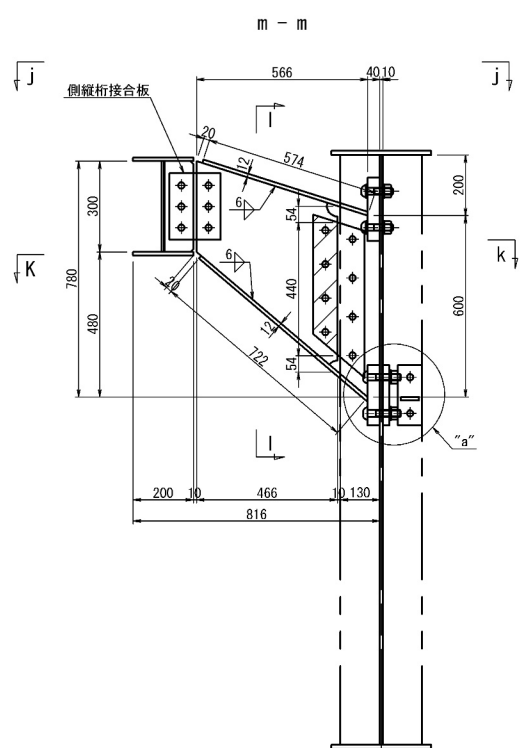
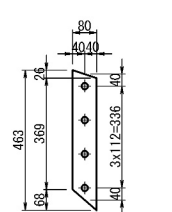
1 - 1



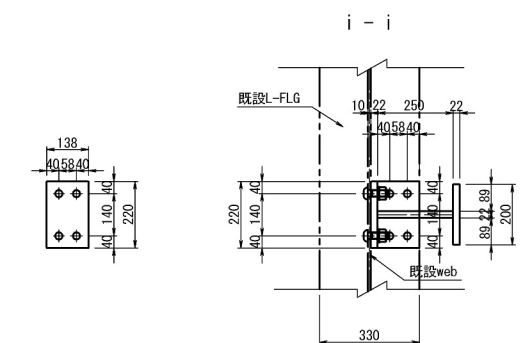
補剛材接合板



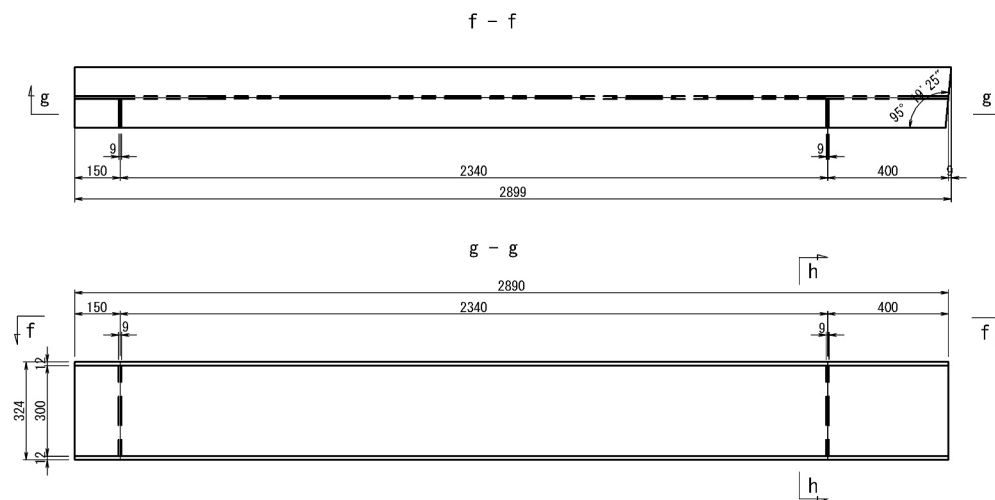
フィラープレート



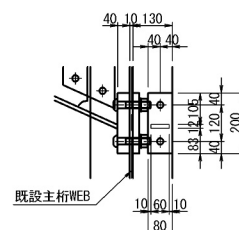
側縦桁B 詳細図



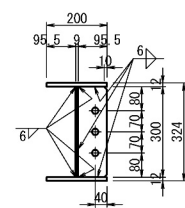
製作数:1組
2-FLG. PL 200x12x2899
1-WEB. PL 300x9x2890
2-STIF. PL 96x9x300



"a"部詳細



h - h



製作：

2-BASE. PL 155x22x200
2-BASE. PL 80x22x200
1-RIB. PL 100x12x179
1-RIB. PL 95x12x209
2-TCB M22x95 (\$10T)

特記:

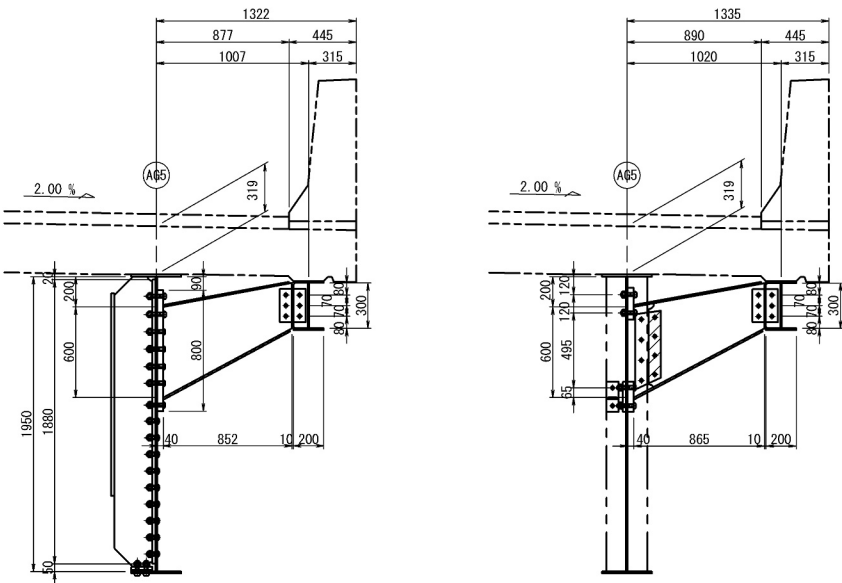
1. 金物は、現地確認実測後製作及び取付を行うこと。
2. 現地確認実測後、設計図面と大きく相違が出た場合は監督員と協議の上決定する。
3. 全ての取付金物は、既設橋梁本体と同様の塗装を施す。
4. 高力ボルト接合摩擦面処理は、取り付く金物の+10mmで行うこと。
5. 摩擦接合完了後の補修塗装は、既設橋梁本体と同様の塗装を施す。
6. 表記無き部材は、全てSM400Aとする。
7. 表記無きスカラーワップは、全て35Rとする。
8. 中 印のボルトは、TCB M22を示す。
※ 印のボルトは、TCB M22(2-W)を示す。
※ 印のボルトは、HTB M22を示す。
9. ボルト孔明けについて、以下の通りとする。
TCB M22→φ24.5(既設)
TCB M22→φ26.5(新設)

道 央 自 動 車 道 苫小牧川橋床版取替工事			
図面の種類	錯多峰川橋(上り線) 桁端部支間長減部材構造図(その4)		
縮 尺	図 示	図面番号	/
設計会社名	安藤ハザマ・岩田地崎JV		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 北広島管理事務所		

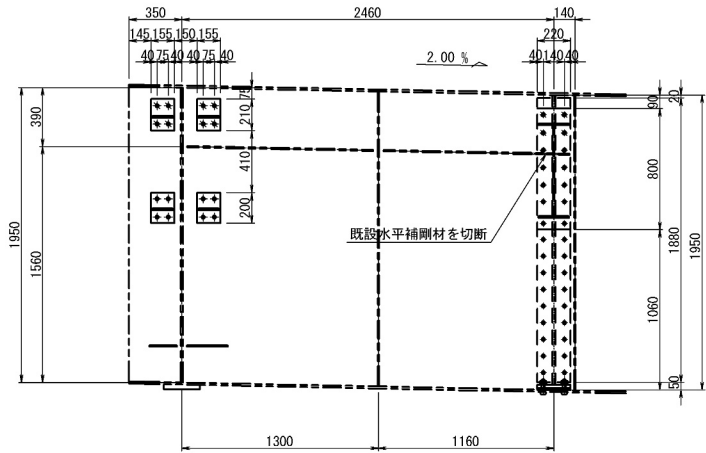
断面図

ブラケットF

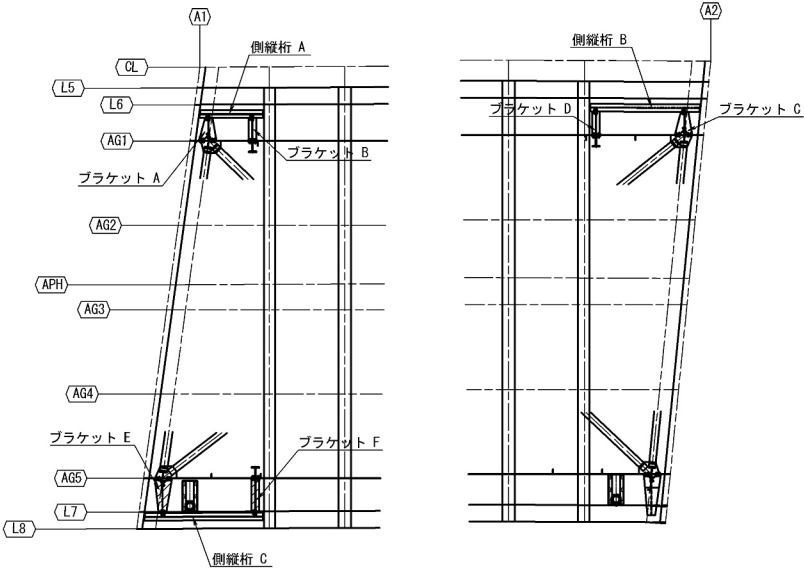
ブラケットE



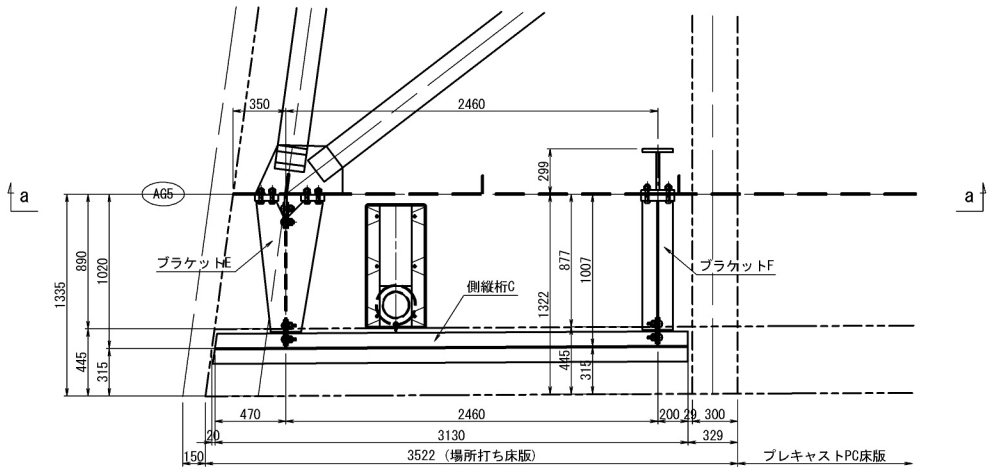
側面図
a - a



配置図 S=1:200



平面図



- 特記:
- 金物は、現地確認実測後製作及び取付を行うこと。
 - 現地確認実測後、設計図面と大きく相違が出た場合は監督員と協議の上決定する。
 - 全ての取付金物は、既設橋梁本体と同様の塗装を施す。
 - 高力ボルト接合摩擦面処理は、取り付く金物の+10mmで行うこと。
 - 摩擦接合完了後の補修塗装は、既設橋梁本体と同様の塗装を施す。
 - 表記無き部材は、全てSM400Aとする。
 - 表記無きスカーラップは、全て35Rとする。
 - 中印のボルトは、TCB M22を示す。
※ 印のボルトは、TCB M22 (2-W)を示す。
※ 印のボルトは、HTB M22を示す。

道 央 自 動 車 道 苫小牧川橋床版取替工事			
図面の種類	錦多峰川橋(上り線) 桁端部支間長低減部材構造図(その5)		
縮 尺	図 示	図面番号	/
設計会社名	安藤ハザマ・岩田地崎JV		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 北広島管理事務所		

$$a - a$$


1-PL 110x9x250

ブラケット E

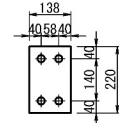


1-WEB. PL 765x9x705
1-UFLG. PL 440x12x859
1-LFLG. PL 400x12x965
2-BASE. PL 210x40x155 (SM400B)
2-BASE. PL 200x40x155 (SM400B)
2-SPL. PL 170x9x521 (SS400)
2-F i i L PL 80x2. 3x481 (SS400)
2-SPL. PL 170x9x220 (SS400)
8-TCB M22x90 (S10T) (2-W)
8-TCB M22x110 (S10T)
8-TCB M22x70 (S10T)
6-TCB M22x65 (S10T)

j - j

C

1-UFLG. PL 200x12x847
1-UFLG. PL 200x12x954
1-BASE. PL 220x40x800 (SM400B)
1-BASE. PL 220x22x1880
1-RTB. PL 250x22x1918
1-FLG. PL 200x22x1338
1-BASE. PL 220x22x138
2-SPL. PL 170x9x220 (SS400)
6-TGB M22x65 (S10T)
10-TGB M22x110 (S10T)
4-TGB M22x115 (S10T) (2-W)
18-TGB M22x70 (S10T)
4-TGB M22x85 (S10T)
1-Fill. PL 138x10x220 (SS400)



200


$$f - f$$


3130



865



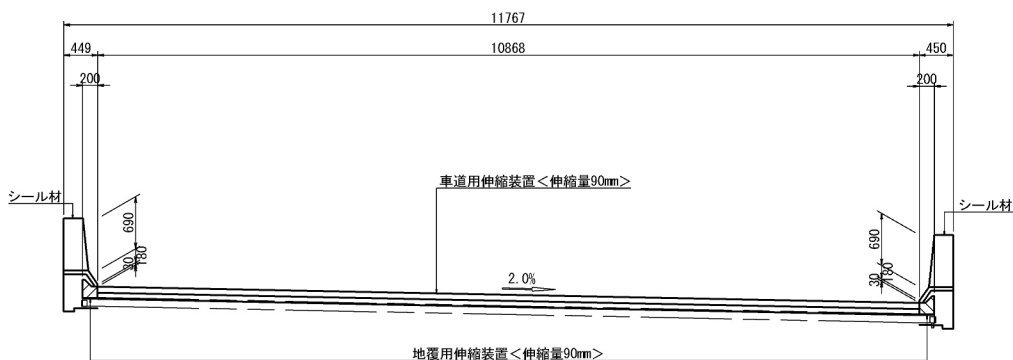
2-BASE. PL 155x22x200
2-BASE. PL 80x22x200
1-RIB. PL 101x12x184
1-RIB. PL 93x12x207
2-TCB M22x95 (S10T)

1. 金物は、現地確認実測後製作及び取付を行うこと。
2. 現地確認実測後、設計図面と大きく相違が出た場合は監督員と協議の上決定する。
3. 全ての取付金物は、既設橋梁本体と同様の塗装を施す。
4. 高力ボルト接合部摩擦面処理は、取り付く金物の+10mmで行うこと。
5. 摩擦接合完了後の補修塗装は、既設橋梁本体と同様の塗装を施す。
6. 表記無き部材は、全てSM400Aとする。
7. 表記無きスカラーワップは、全て35Rとする。
8. 印のボルトは、TCB M22を示す。
 - ※ 印のボルトは、TCB M22(2-W)を示す。
 - ※ 印のボルトは、HTB M22を示す。
9. ボルト孔明けについて、以下の通りとする。
 - TCB M22→φ24.5(既設)
 - TCB M22→φ26.5(新設)

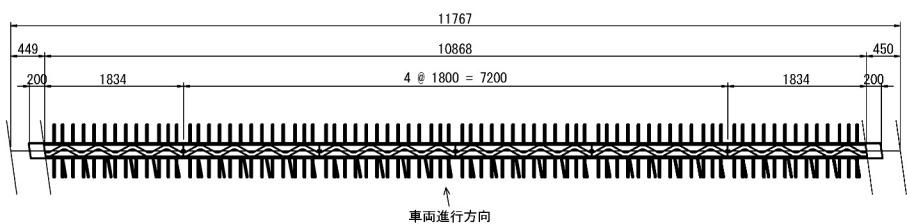
道 央 自 動 車 道			
苫小牧川橋床版取替工事			
図面の種類	錦多峰川橋(上り線) 桁端部支間長低減部材構造図(その6)		
縮 尺	図 示	図面番号	/
設計会社名	安藤ハザマ・岩田地味JV		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 北広島管理事務所		

錦多峰川橋(下り線) 伸縮装置詳細図(その1)
(A1橋台)

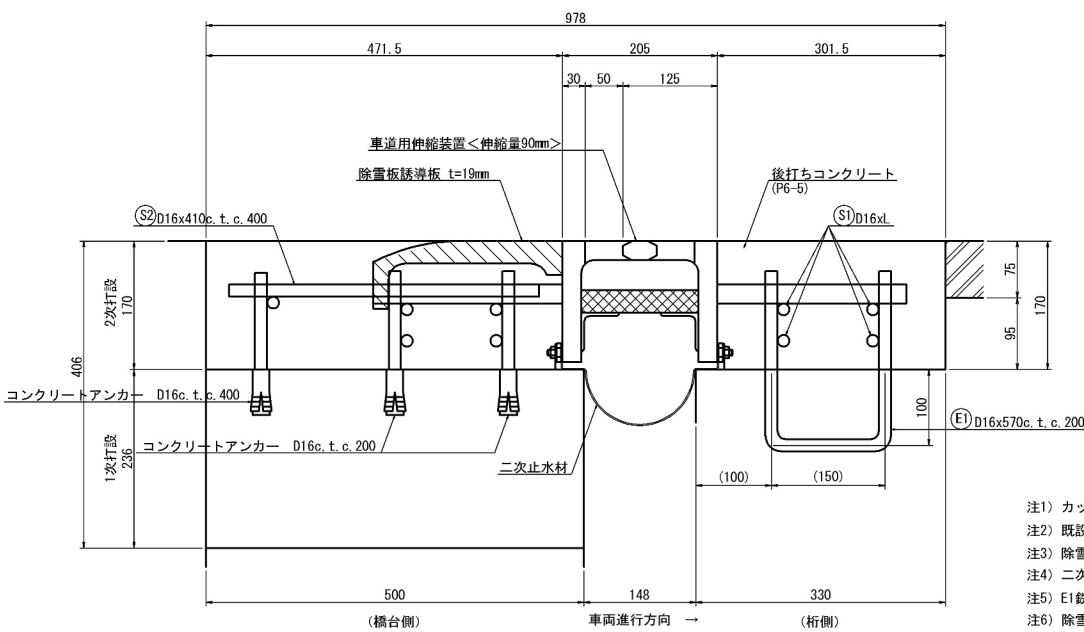
断面図 S=1:100



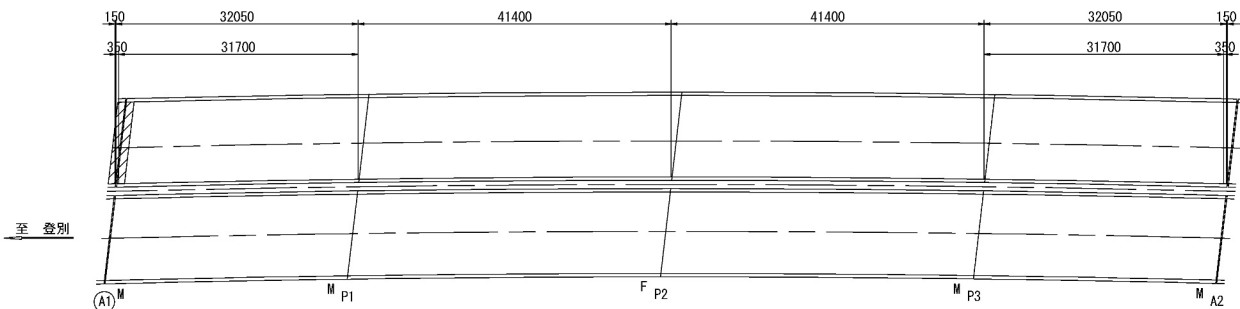
平面図 S=1:100



取付断面図 S=1:10
遊間直角方向



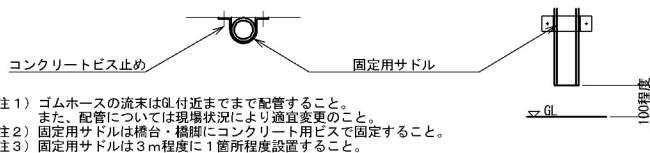
位置図



二次止水材端部部材名称

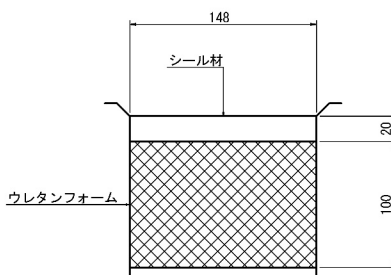


繊維補強入ゴムホース (内径φ25) 取付図



- 注1) カッター幅及び研り深さについては、現場の状況により変更の事。
注2) 既設鉄筋が利用可能の場合は、あと施工アンカーを使用せず加工鉄筋等を使用の事。
注3) 除雪板誘導板については、車輛進行方向に対し平行に伸縮装置の手前に設置の事。
注4) 二次止水材は施工境界部に継目が無い構造である事。
注5) E1鉄筋は横軸方向に配筋する事。
注6) 除雪板誘導板は製作工場においてすみ肉溶接にて取付する事。

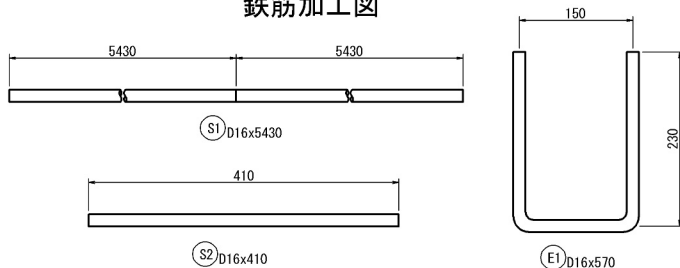
シール材詳細図 S=1:6



旧伸縮継手及び既設コンクリート

	A1
旧伸縮継手	鋼製フィンガージョイント
既設コンクリート	鉄筋コンクリート (σ _{ck} =24N/mm ²)

鉄筋加工図

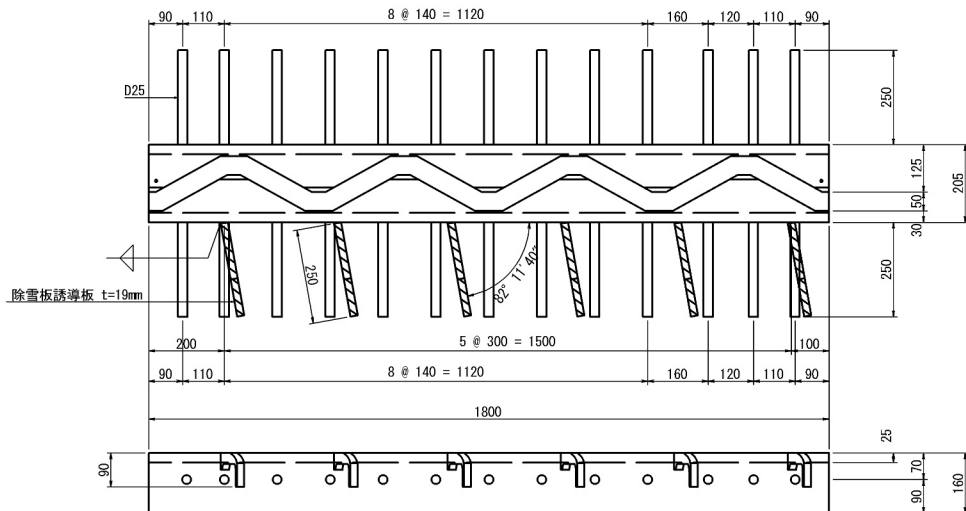


材料表

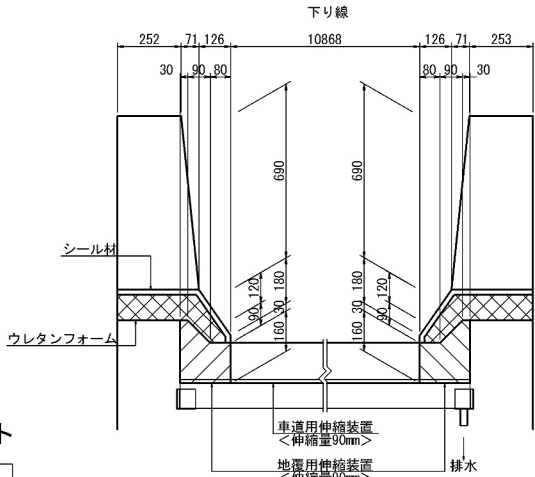
品名	仕様	単位	A1		備考
			下り線		
車道用伸縮装置	伸縮量90mm	m	10.868		車道部
地覆用伸縮装置	伸縮量90mm	m	0.400		地覆部
二次止水材	連続止水材本体取付型	m	11.268		
後打ちコンクリート	σ _{ck} =50N/mm ²	m ³	2.84		P6-5
シール材		L	3.4		
	S1	D16x5430	kg	152.5	
	S2	D16x410	kg	17.3	27本
補強鉄筋	計		kg	169.8	
アンカー鉄筋	E1	D16x570	kg	48.0	54本
コンクリートアンカー	D16	本	135		

製品図 S=1:20

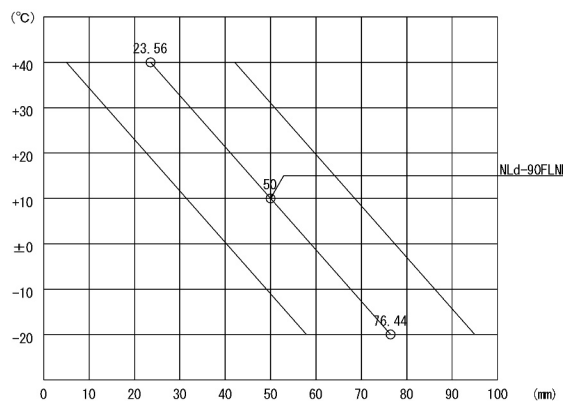
車道用伸縮装置<伸縮量90mm>



地覆部止水処理図 S=1:30



伸縮装置遊間設定表

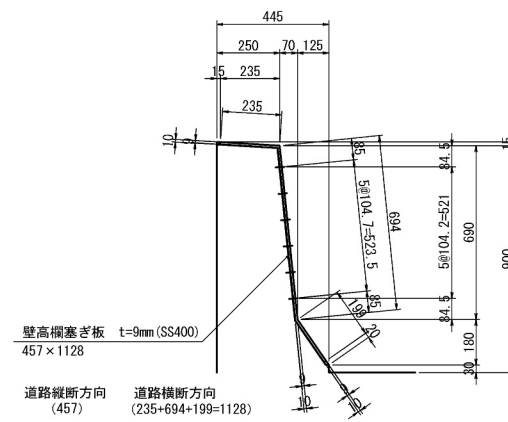


道央自動車道 苫小牧川橋床版取替工事			
図面の種類	錦多峰川橋(下り線) 伸縮装置詳細図(その1)		
縮尺	図示	図面番号	/
設計会社名	安藤ハザマ・岩田地崎JV		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 北広島管理事務所		

錦多峰川橋(下り線) 伸縮装置詳細図(その2)

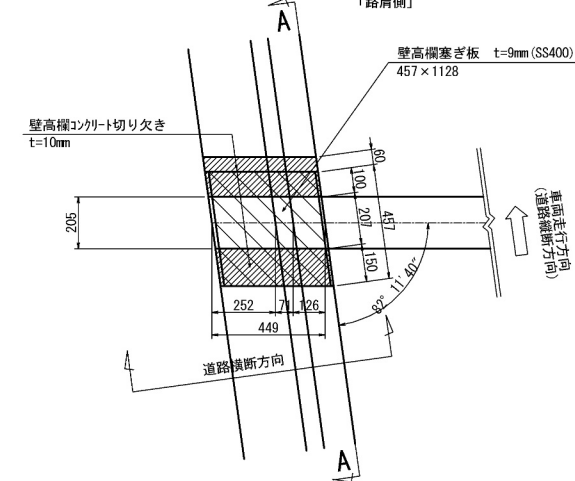
(A1橋台 塞ぎ板)

道路横断方向～断面図



平面図 1:30

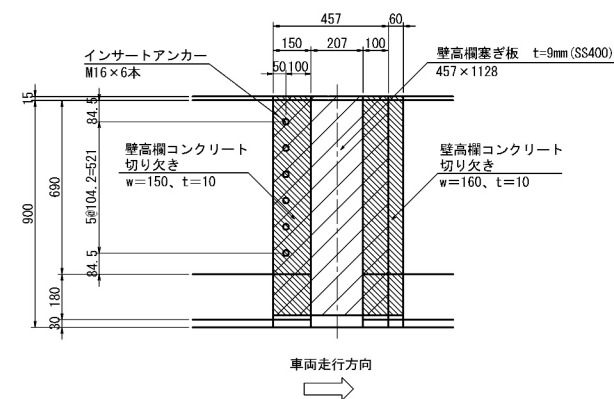
下り線
「路肩側」



側 面 図 1:30

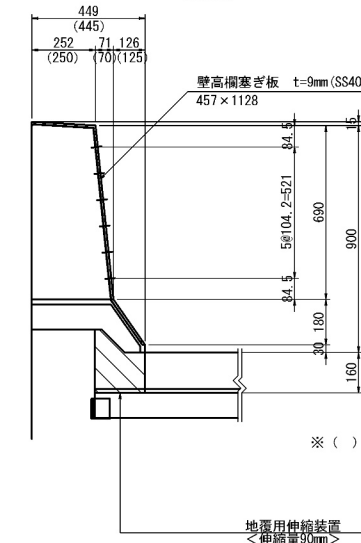
A-A

「路肩側」



断面図 1:30

下り線
「路肩側」



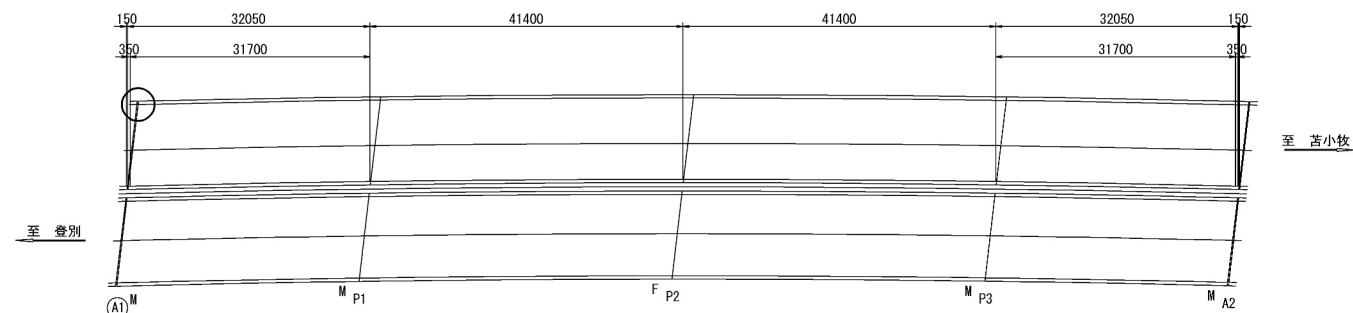
※ () 内寸法は、道路横断方向を示す。

A1橋台數量

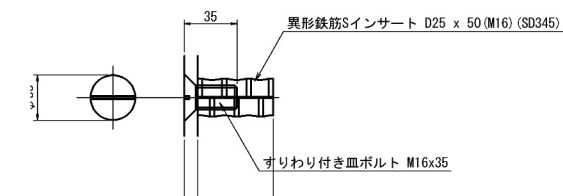
- ※ 1-PL 457 x 9 x 1128(SS400)
 ※ 6-異形鉄筋Sインサート D25×50 (M16) (SD345)
 ※ 6-皿ボルト M16 x 35(SS400)

注) 鋼材の表面処理は、溶融亜鉛メッキ(JIS H8641)とし、鋼板はHDZT77、ボルト・ナット類はHDZT49とする。

位置図

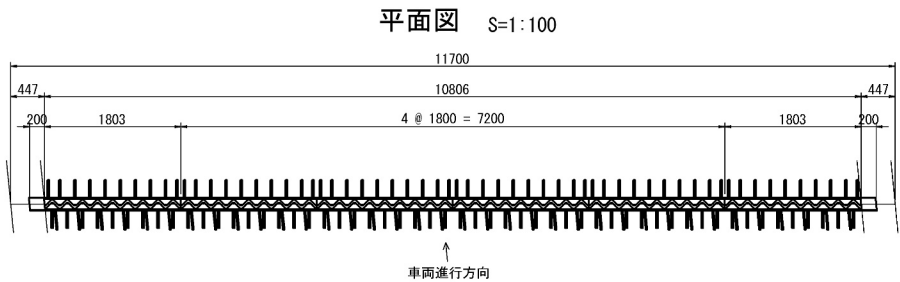
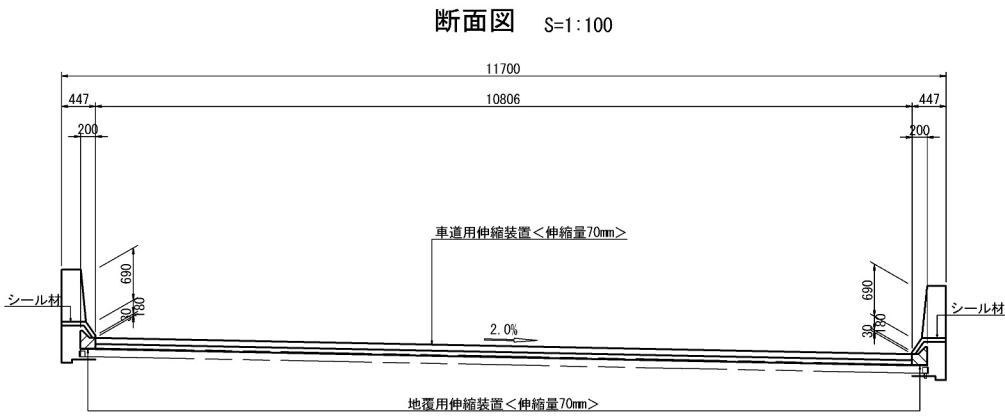


取付ボルト詳細 S=1:5

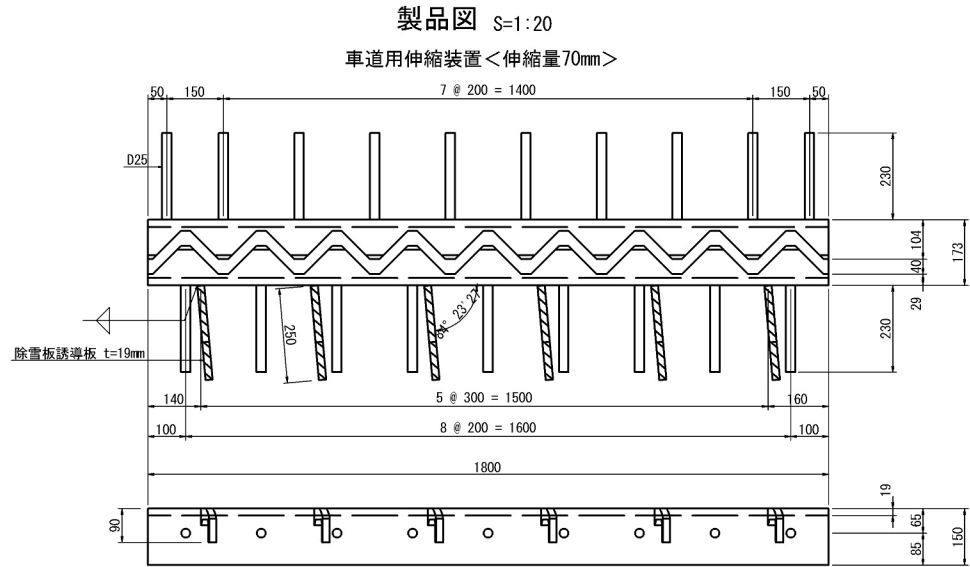


道 央 自 動 車 道 苫小牧川橋床版取替工事			
図面の種類		錦多峰川橋（下り線） 桁架設置詳細図（その2）	
縮 尺	図 示	図面番号	／
設計会社名	安藤ハザマ・岩田地崎JV		
施工会社名			
事務所名	東日本高速度道路株式会社 北海道支社 北広島管理事務所		

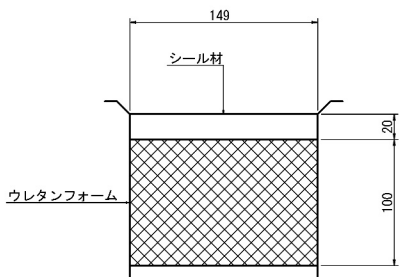
錦多峰川橋(下り線) 伸縮装置詳細図(その3)
(A2橋台)



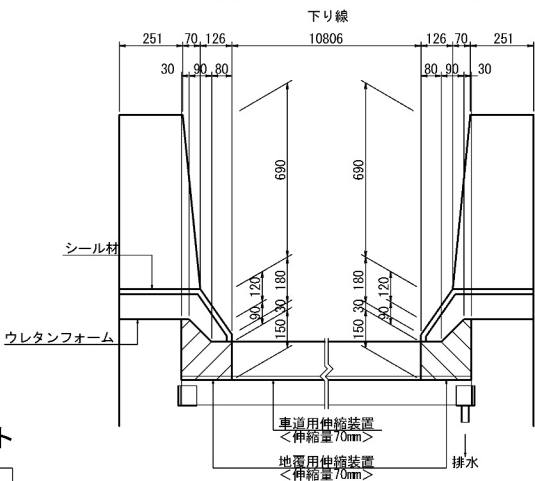
項目	単位	数量	備考
伸縮装置E (S=70mm)	m	10.806	



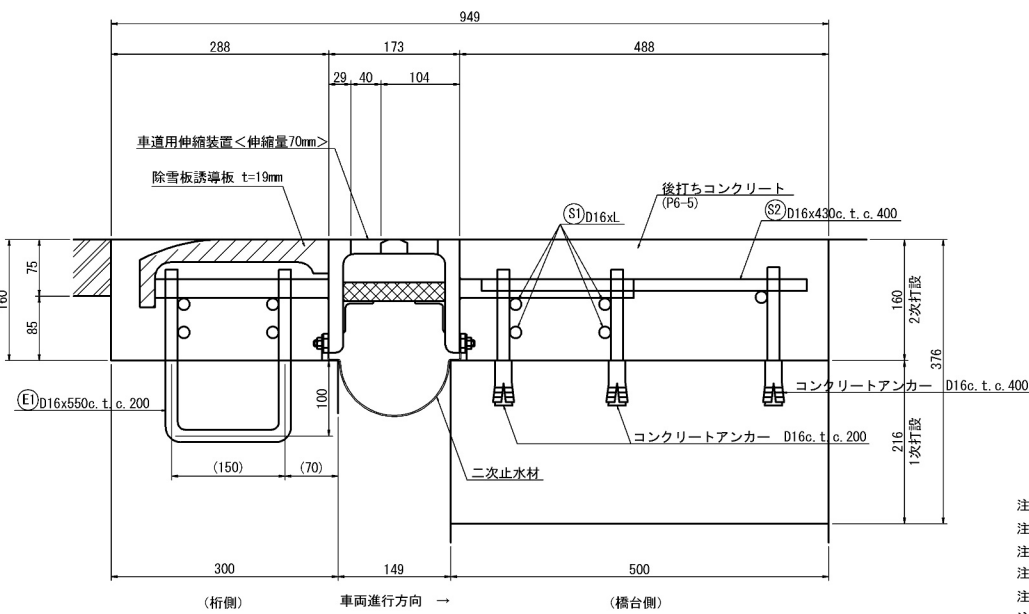
シール材詳細図 S=1:6



地覆部止水処理図 S=1:30



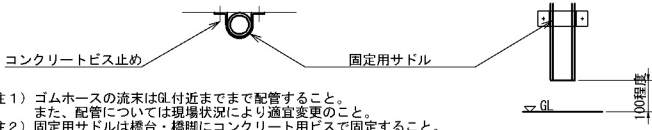
取付断面図 S=1:10
遊間直角方向



二次止水材端部部材名称



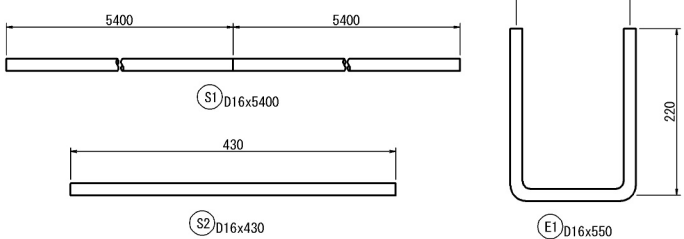
繊維補強入ゴムホース (内径φ25) 取付図



旧伸縮継手及び既設コンクリート

	A2
旧伸縮継手	鋼製フィンガージョイント
既設コンクリート	鉄筋コンクリート (σ _{ck} =24N/mm ²)

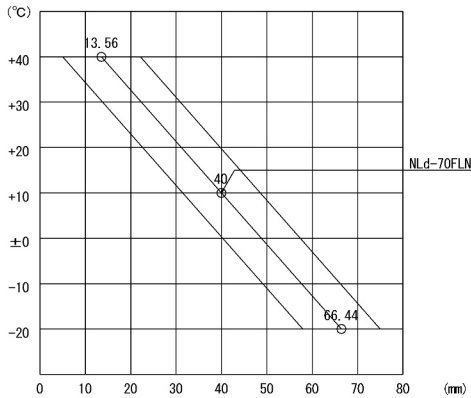
鉄筋加工図



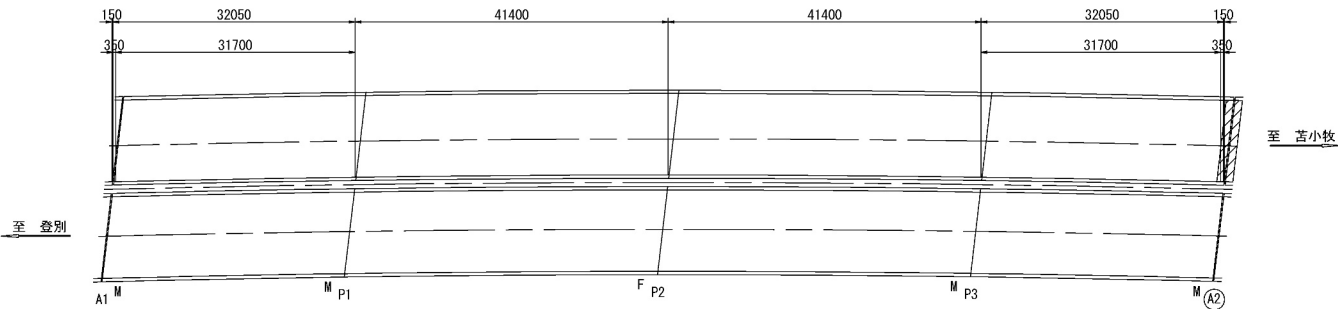
材料表

品名	仕様	単位	A2 下り線	備考
車道用伸縮装置	伸縮量70mm	m	10.806	車道部
地覆用伸縮装置	伸縮量70mm	m	0.400	地覆部
二次止水材	連続止水材本体取付型	m	11.206	
後打ちコンクリート	σ _{ck} =50N/mm ²	m ³	2.63	P6-5
シール材		L	3.4	
補強鉄筋	S1 D16x5400	kg	151.6	
	S2 D16x430	kg	18.1	27本
	計	kg	169.7	
アンカー鉄筋	E1 D16x590	kg	46.3	54本
コンクリートアンカー	D16	本	135	

伸縮装置遊間設定表



位置図

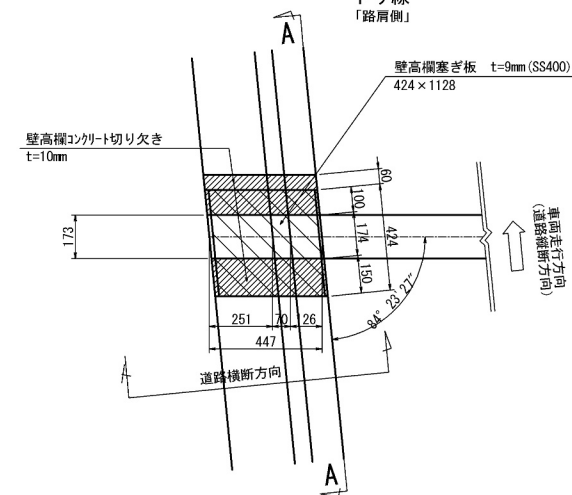
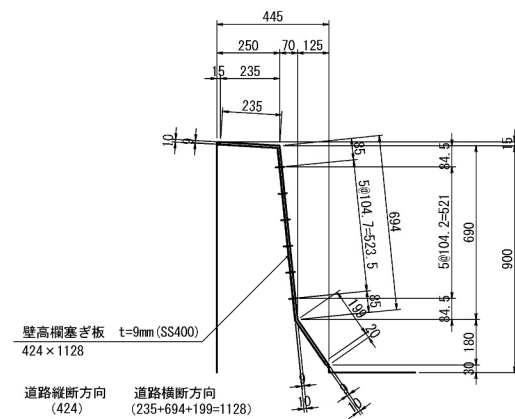


至 苫小牧

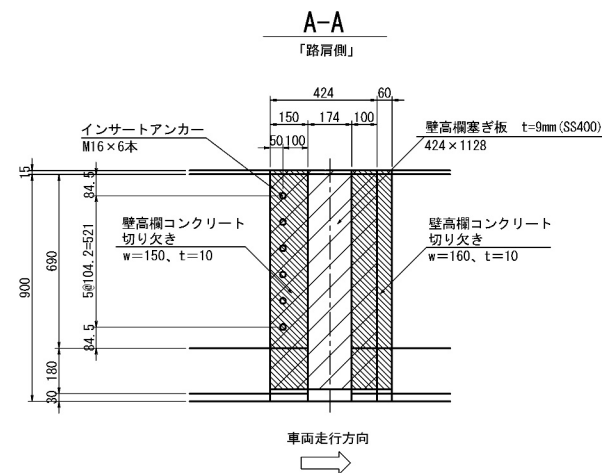
至 登別

道央自動車道 苫小牧川橋床版取替工事			
図面の種類	錦多峰川橋(下り線) 伸縮装置詳細図(その3)		
縮尺	図示	図番	番号
設計会社名	安藤ハザマ・岩田地崎JV		
施工会社名	東日本高速道路株式会社 北海道支社		
事務所名	北広島管理事務所		

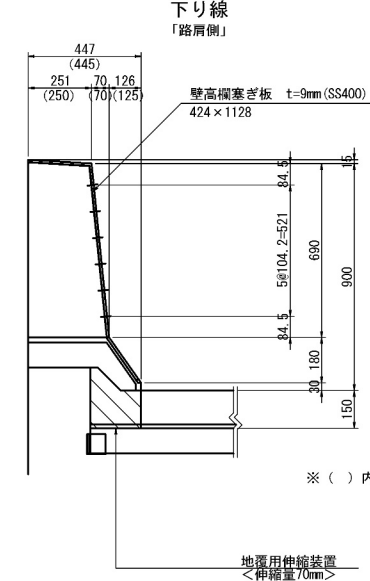
平面图 1:30



側面図 1:30



断面図 1:30



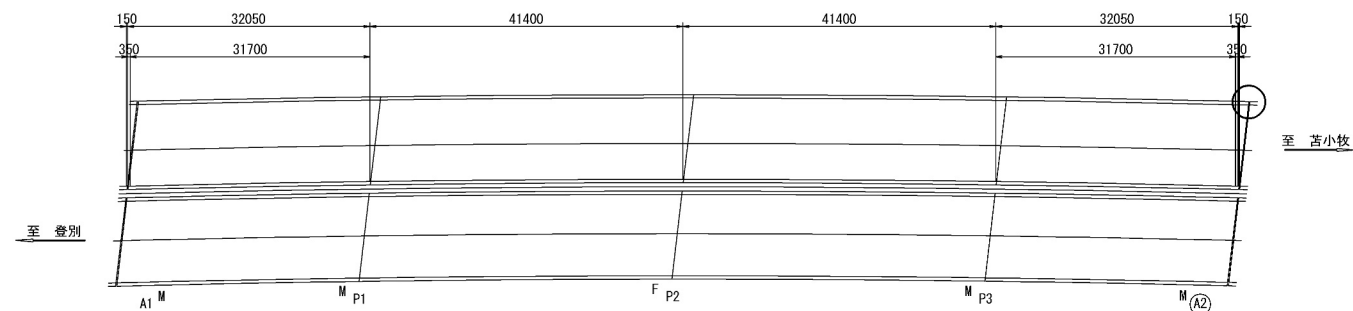
※ () 内寸法は、道路横断方向を示す。

A2橋台數量

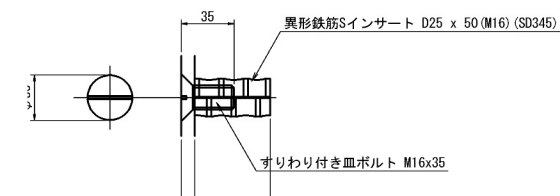
- ※ 1-PL 424 x 9 x 1128(SS400)
 ※ 6-異形鉄筋Sインサート D25 x 50 (M16) (SD345)
 ※ 6-皿ボルト M16 x 35(SS400)

注) 鋼材の表面処理は、溶融亜鉛メッキ(JIS H8641)とし、鋼板はHDZT77、ボルト・ナット類はHDZT49とする。

位置図

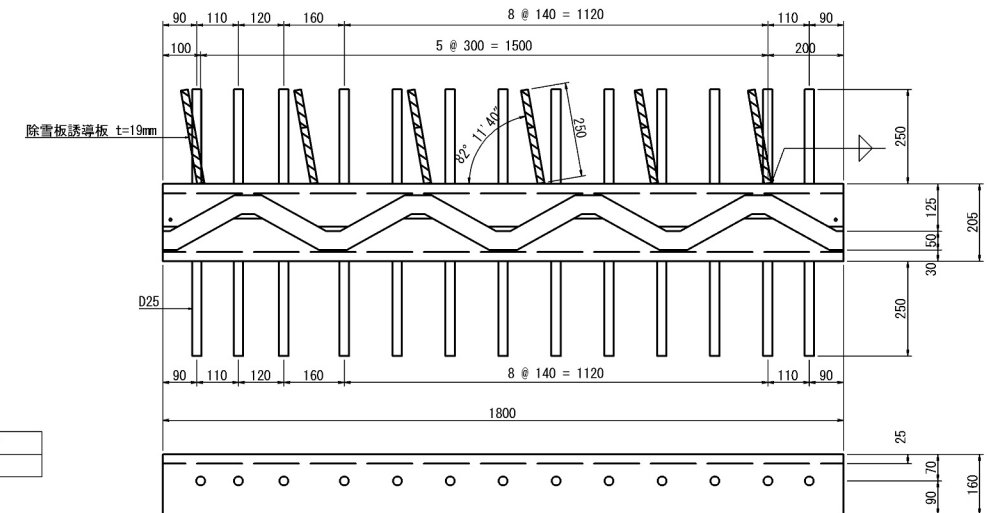
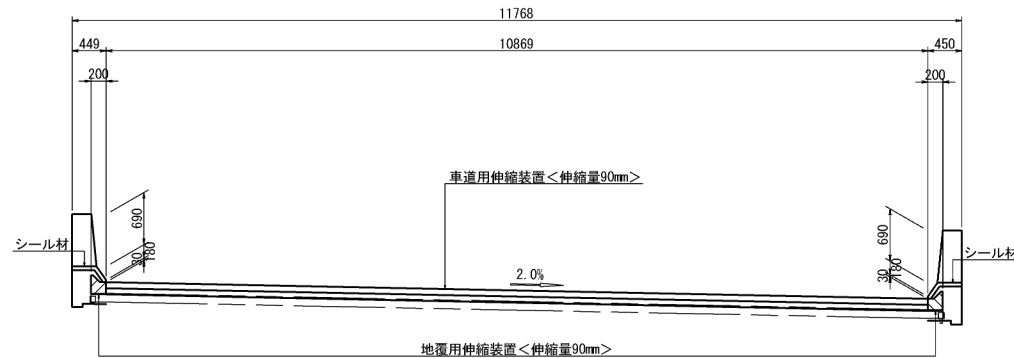


取付ボルト詳細 S=1:5

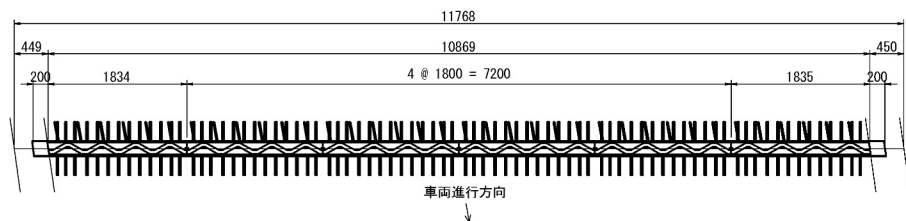


道 央 自 動 車 道 吉小牧川橋床版取替工事			
図面の種類	錦多峰川橋(下り線) 伸縮装置詳細図(その4)		
縮 尺	図 示	図面番号	／
設計会社名	安藤ハザマ・岩田地味JV		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 北広島管理事務所		

製品図 S=1:20
車道用伸縮装置<伸縮量90mm>

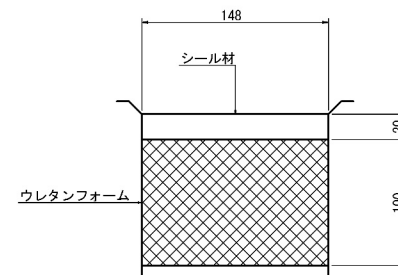


平面图 S=1:100

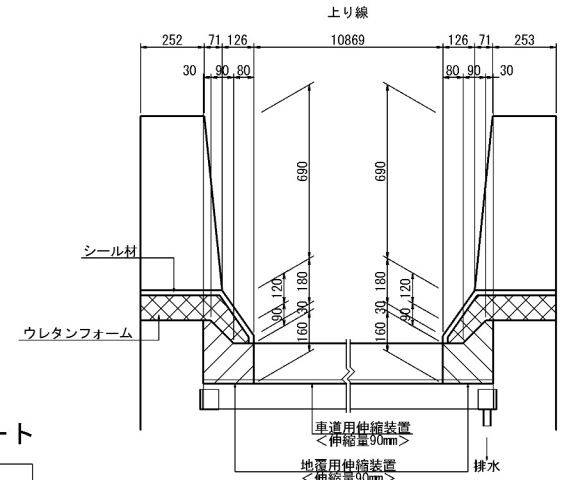


項目	單位	數量	備考
伸縮裝置E (S=90mm)	m	10.869	

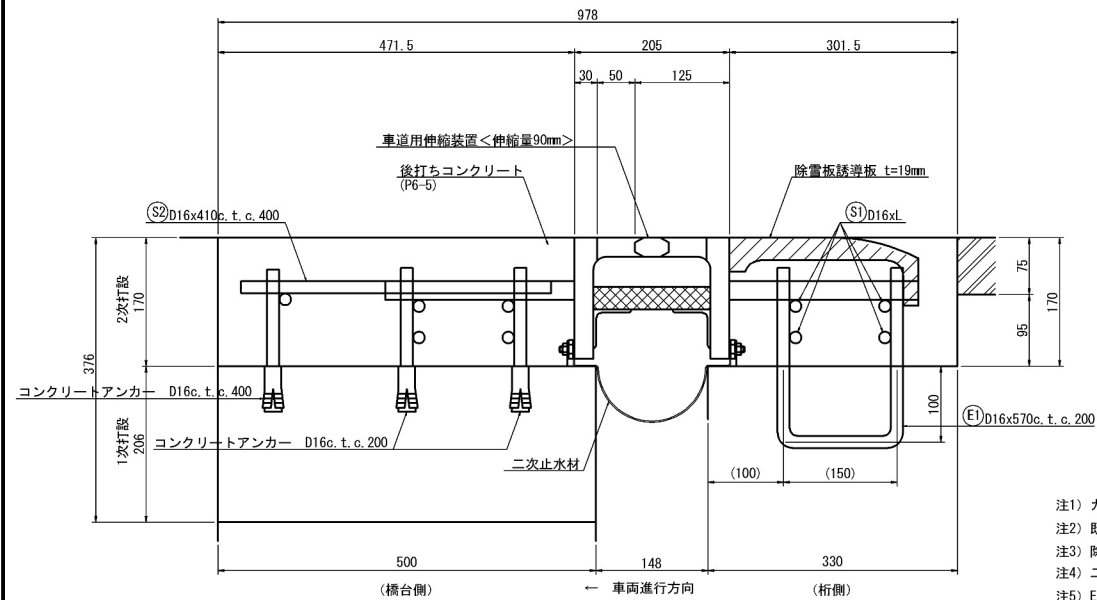
シール材詳細図 S=1:6



地覆部止水処理図 S=1:30



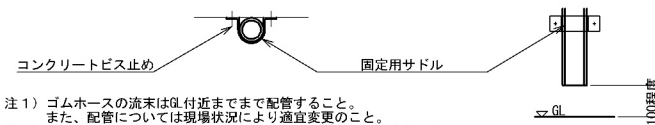
取付断面図 S=1:10
遊間直角方向



二次止水材端部部材名称



繊維補強入ゴムホース（内径φ25）取付図

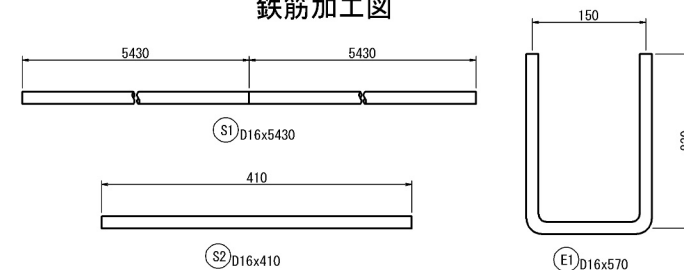


注1) ゴムホースの流末は吐付近までで配管すること。
また、配管については現場状況により適宜変更のこと。
注2) 固定用サドルは橋台・橋脚にコンクリート用ビスで固定すること。
注3) 固定用サドルは3m程度に1箇所程度設置すること。

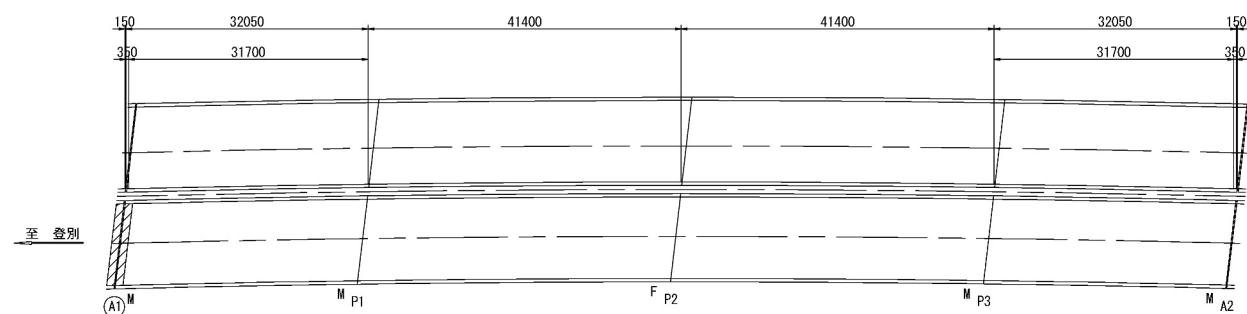
旧伸縮継手及び既設コンクリート

	A1
旧伸縮継手	鋼製フィンガージョイント
既設コンクリート	鉄筋コンクリート ($\sigma_{ck}=24\text{N/mm}^2$)

鉄筋加工図



位置図

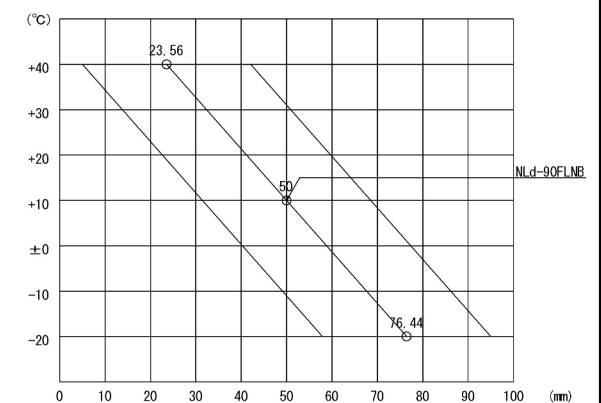


至 苦小牧

材料表

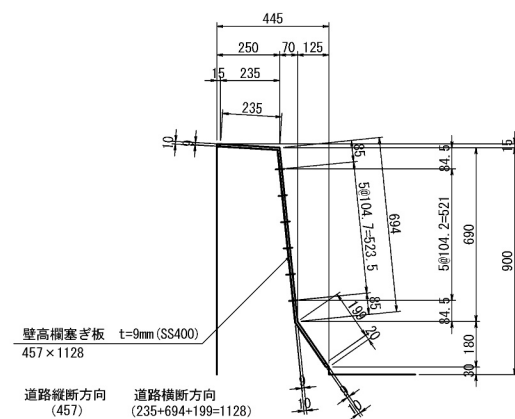
品 名		仕 様	単位	A1	備 考
				上り線	
車道用伸縮装置		伸縮量90mm	m	10. 869	車道部
地覆用伸縮装置		伸縮量90mm	m	0. 400	地覆部
二次止水材		連続止水材本体取付型	m	11. 269	
後打ちコンクリート		σok=50N/mm2	m3	2. 67	P6-5
シール材			L	3. 4	
補強鉄筋	S1	D16x5430	kg	152. 5	27本
	S2	D16x410	kg	17. 3	
	計		kg	169. 8	
アンカー鉄筋		D16x570	kg	48. 0	54本
コンクリートアンカー		D16	本	135	

伸縮装置遊間設定表

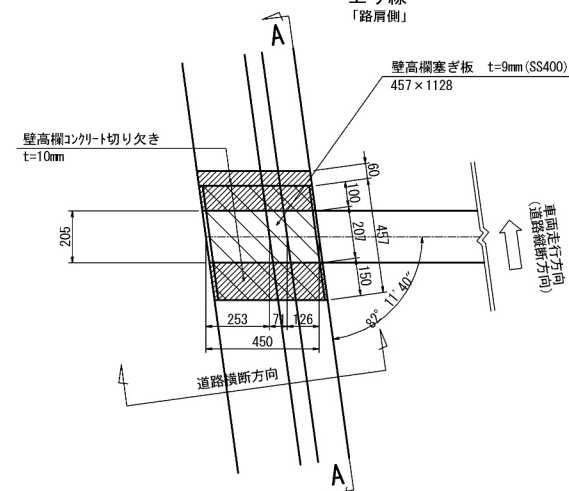


道央自動車道 苫小牧川橋床版取替工事			
図面の種類	錦多峰川橋（上り線） 鉤結装置詳細図（その1）		
縮尺	図示	図面番号	／
設計会社名	安藤ハザマ・岩田地味JV		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 北広島管理事務所		

道路横断方向～断面図



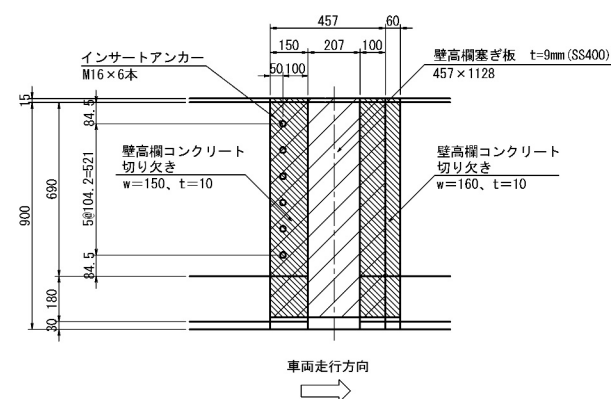
平面图 1:30



側面図 1:30

A-A

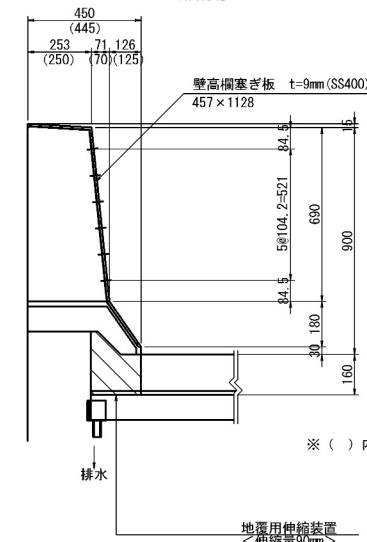
「路肩側」



断面図 1:30

上り線

「路肩側」



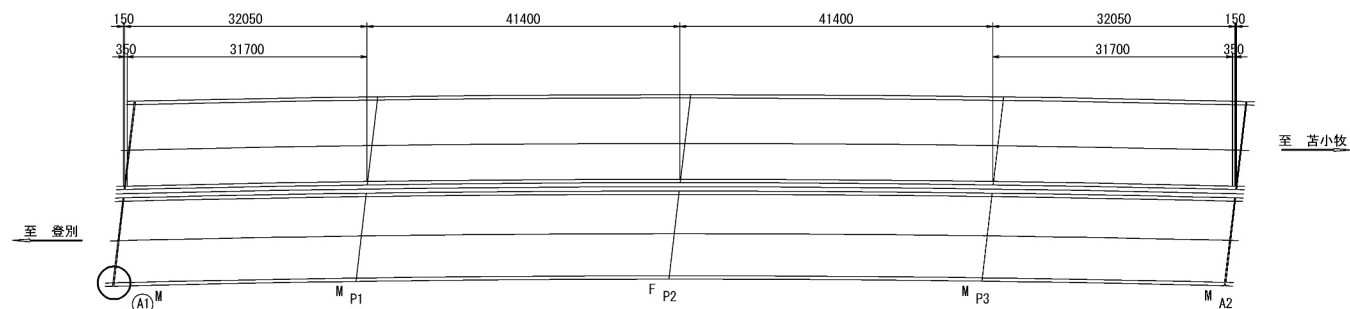
※ () 内寸法は、道路横断方向を示す。

A1橋台數量

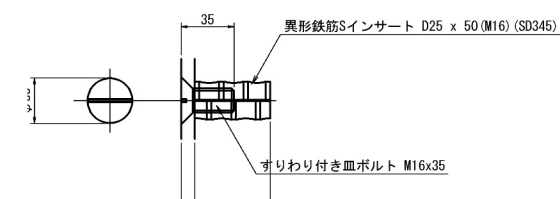
- ※ 1-PL 457 x 9 x 1128 (SS400)
 ※ 6-異形鉄筋Sインサート D25 x 50 (M16) (SD345)
 ※ 6-皿ボルト M16 x 35 (SS400)

注) 鋼材の表面処理は、溶融亜鉛メッキ(JIS H8641)とし、鋼板はHDZT77、ボルト・ナット類はHDZT49とする。

位置図

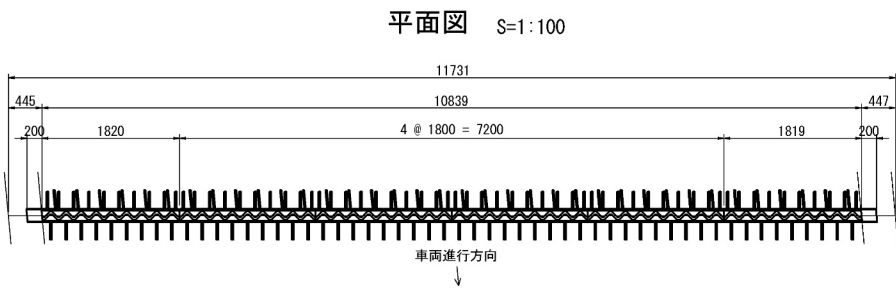
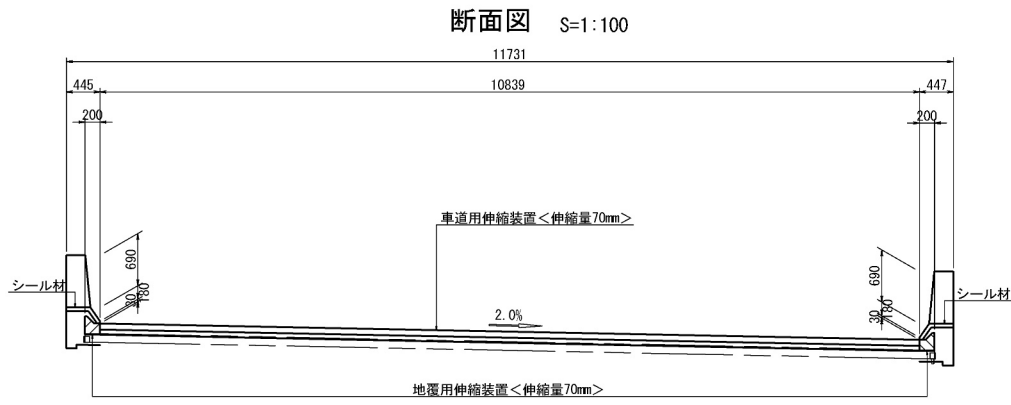


取付ボルト詳細 S=1:5

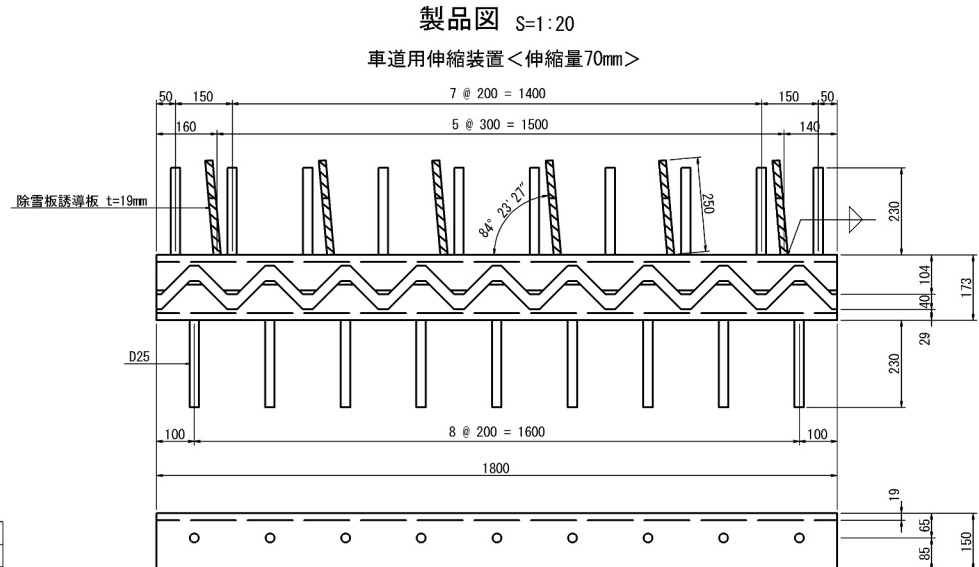


道 央 自 動 車 道			
苫小牧川橋床版取替工事			
図面の種類	錦多峰川橋(上り線) 伸縮装置詳細図(その2)		
縮 尺	図 示	図面番号	/
設計会社名	安藤ハザマ・岩田地蔵川		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 北広島管理事務所		

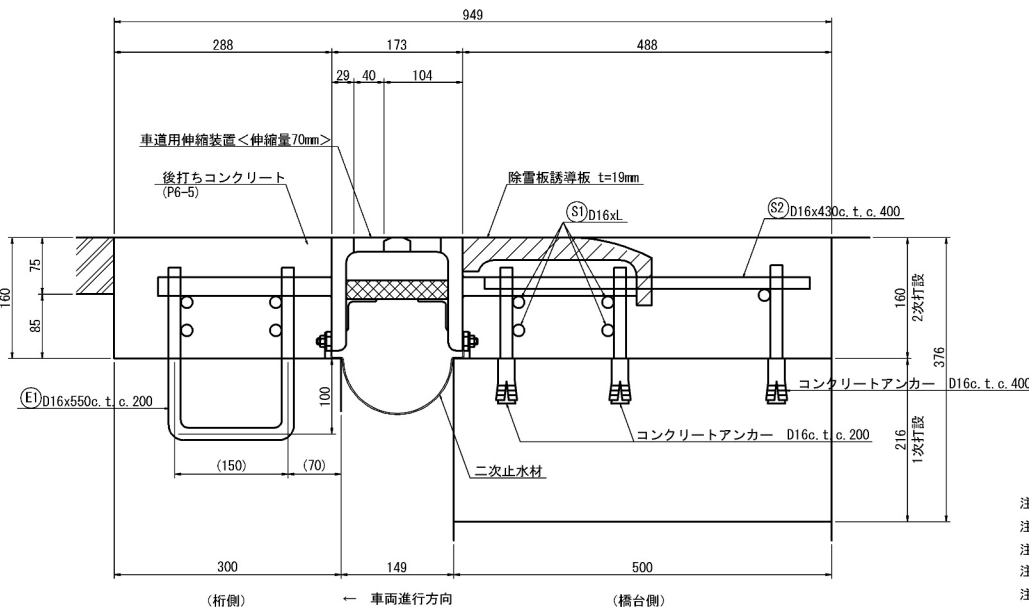
錦多峰川橋(上り線) 伸縮装置詳細図(その3)
(A2橋台)



項目	単位	数量	備考
伸縮装置E (S=70mm)	m	10.839	



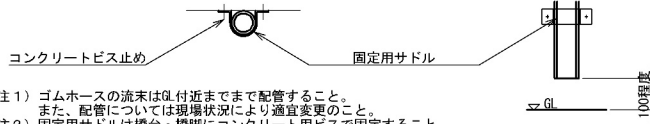
取付断面図 S=1:10
遊間直角方向



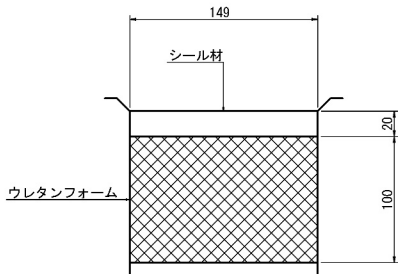
二次止水材端部部材名称



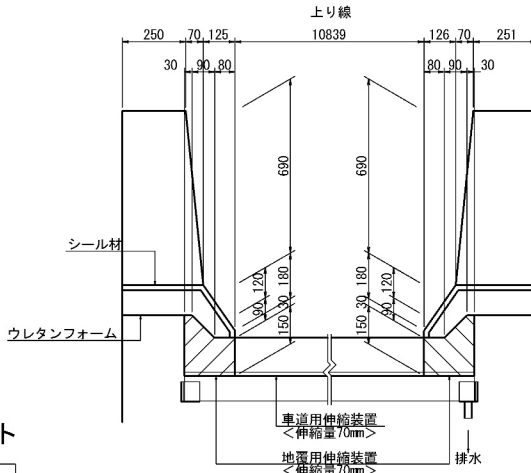
繊維補強入ゴムホース (内径φ25) 取付図



シール材詳細図 S=1:6



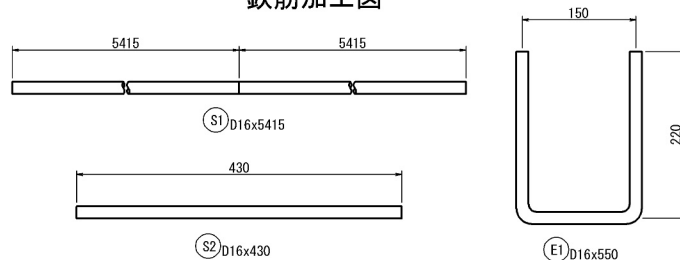
地覆部止水処理図 S=1:30



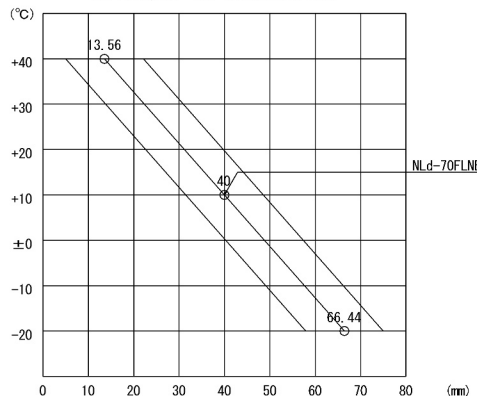
旧伸縮継手及び既設コンクリート

	A2
旧伸縮継手	鋼製フィンガージョイント
既設コンクリート	鉄筋コンクリート (σ _{ok} =24N/mm ²)

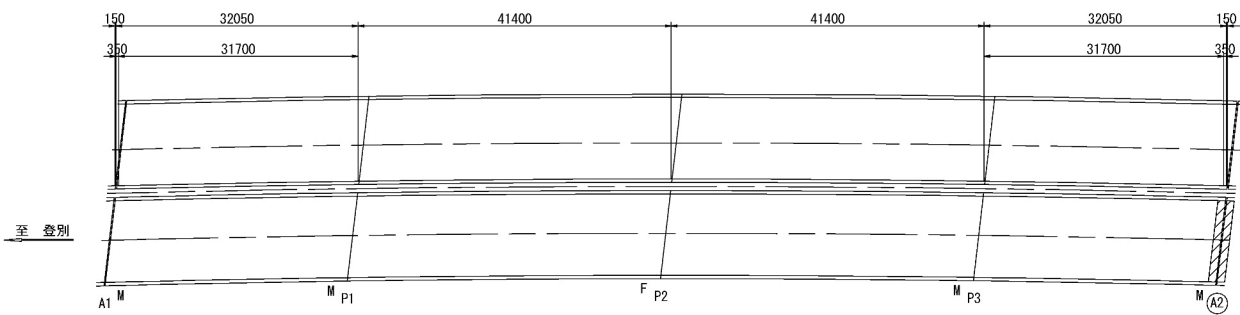
鉄筋加工図



伸縮装置遊間設定表



位置図



至 苫小牧

至 登別

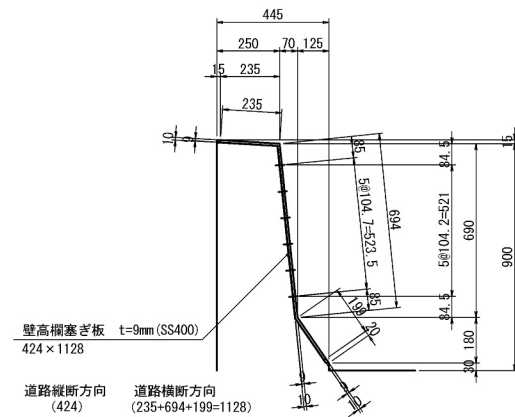
材料表

品名	仕様	単位	A2 上り線	備考
車道用伸縮装置	伸縮量70mm	m	10.839	車道部
地覆用伸縮装置	伸縮量70mm	m	0.400	地覆部
二次止水材	連続止水材本体取付型	m	11.239	
後打ちコンクリート	σ _{ok} =50N/mm ²	m ³	2.64	P6-5
シール材		L	3.4	
補強鉄筋	S1 D16x5415	kg	152.1	
	S2 D16x430	kg	18.1	27本
計		kg	170.2	
アンカー鉄筋	E1 D16x550	kg	46.3	54本
コンクリートアンカー	D16	本	135	

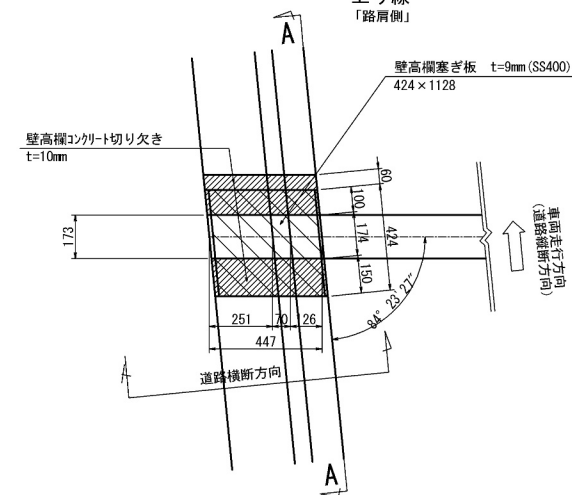
道央自動車道 苫小牧川橋床版取替工事			
図面の種類	錦多峰川橋(上り線) 伸縮装置詳細図(その3)		
縮尺	図示	図面番号	/
設計会社名	安藤ハザマ・岩田地崎JV		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 北広島管理事務所		

錦多峰川橋(上り線) 伸縮装置詳細図(その4)
(A2橋台 塞ぎ板)

道路横断方向～断面図



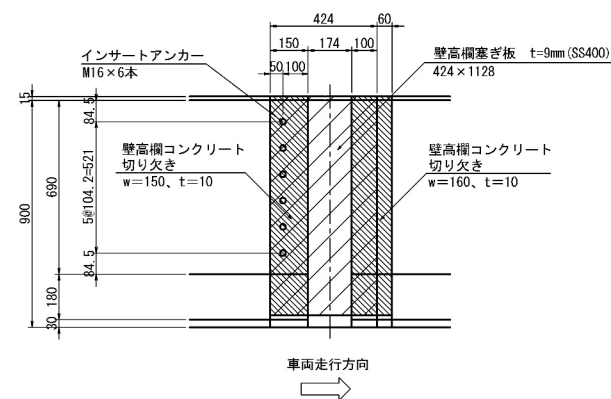
平面图 1:30



側面図 1:30

A-A

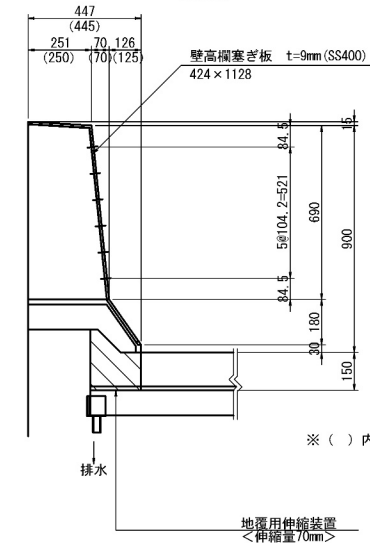
「路肩側」



断面図 1:30

上り線
「路肩側」

「附例」



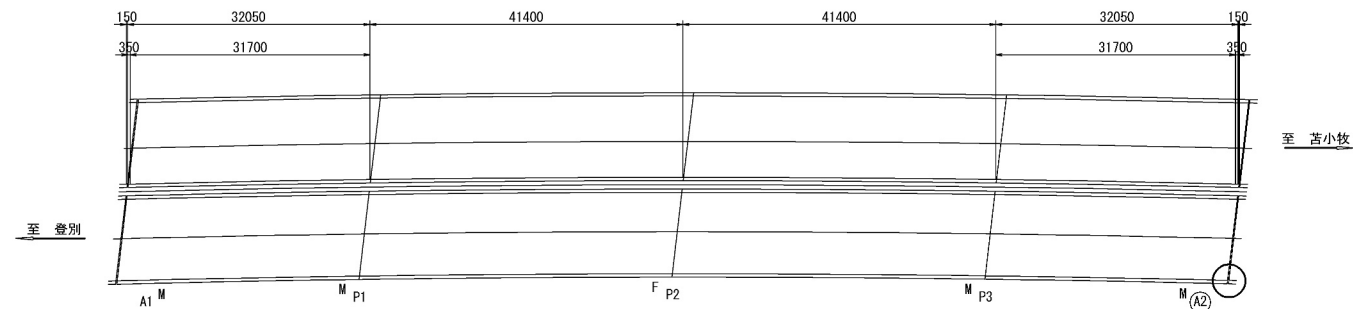
※ () 内寸法は、道路横断方向を示す。

A2橋台數量

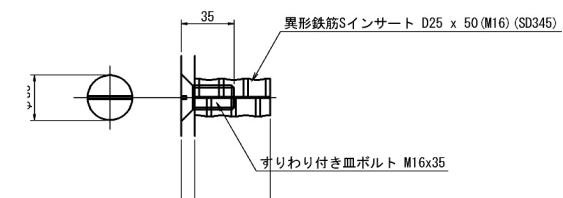
- ※ 1-PL 424 x 9 x 1128(SS400)
 ※ 6-異形鉄筋Sインサート D25 x 50 (M16) (SD345)
 ※ 6-皿ボルト M16 x 35(SS400)

注) 鋼材の表面処理は、溶融亜鉛メッキ(JIS H8641)とし、鋼板はHDZT77、ボルト・ナット類はHDZT49とする。

位置図



取付ボルト詳細 S=1:5

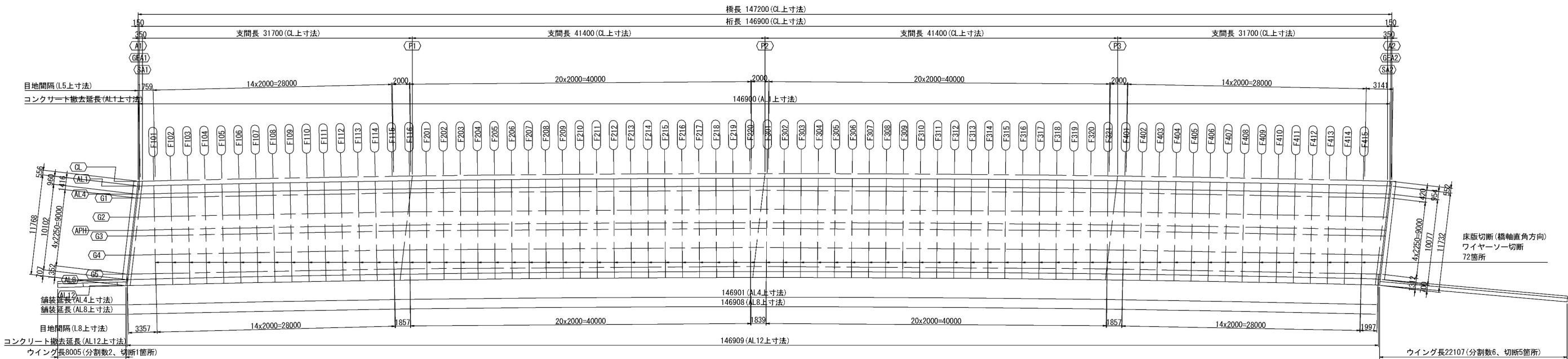


道 央 自 動 車 道 吉小牧川橋床版取替工事			
図面の種類	錦多峰川橋（上り線） 締結装室詳細図（その4）		
縮 尺	図 示	図面番号	／
設計会社名	安藤ハザマ・岩田地味JV		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 北広島管理事務所		

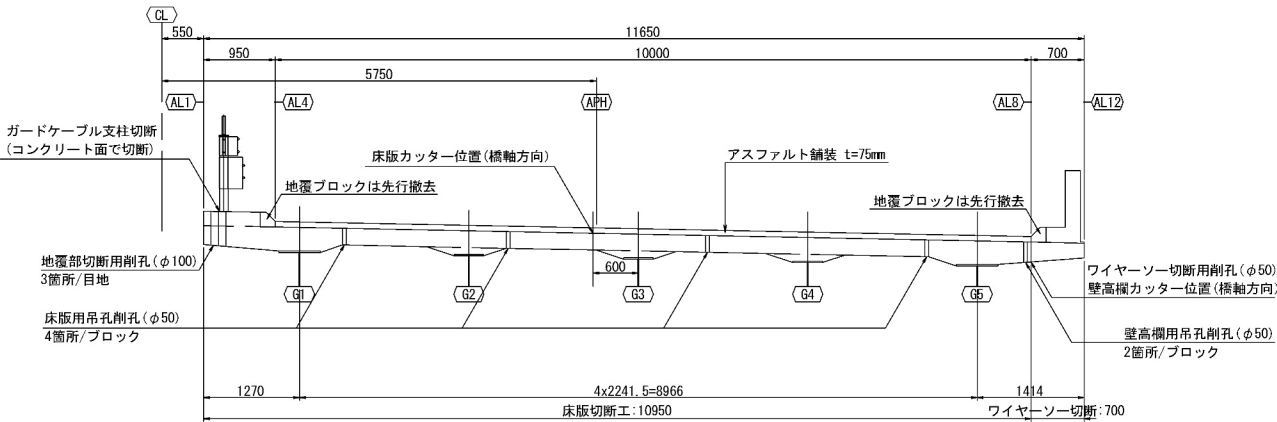
道 央 自 動 車 道		
吉小牧川橋床施設管工事		
図面の種類	鑄多峰川橋(下り線) 撤去概要図	
縮 尺	図 示	図面番号
設計会社名	安路ハザマ・岩田地崎JV	
施工会社名		
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 北広島管理事務所	

錦多峰川橋(上り線) 撤去概要図

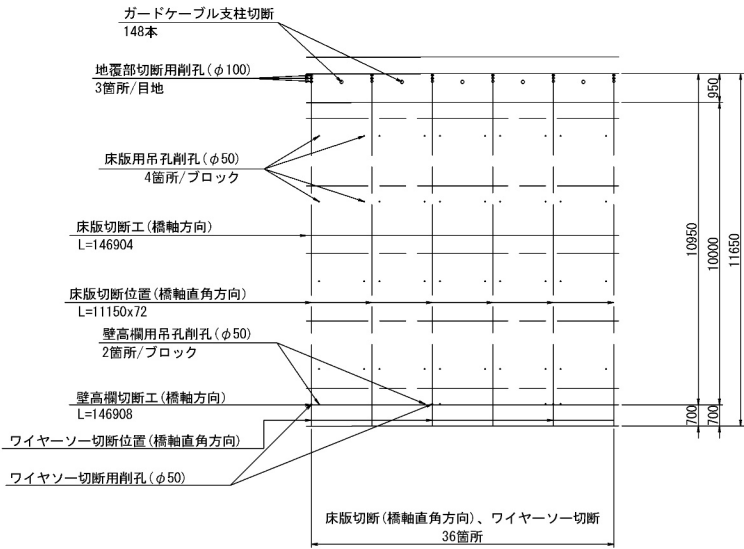
平面図 S=1:500



断面図 S=1:100



切断・削孔箇所 平面位置図 S=1:250



撤去数量

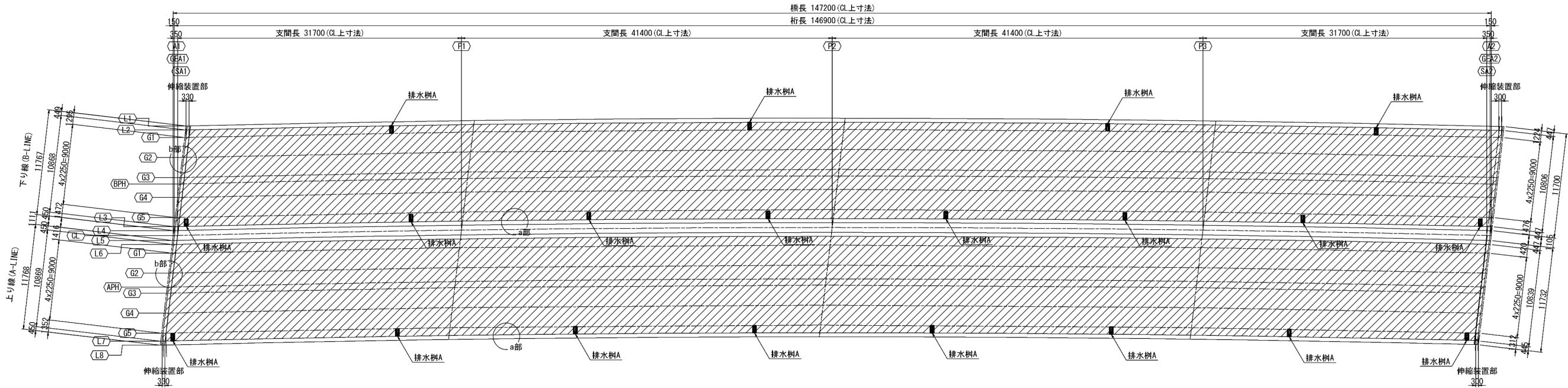
項目		単位		備考
アスファルト 舗装版取壊し	撤去面積	m2	1469.0	t=75mm
	撤去体積	m3	110.2	
	撤去質量	t	259.0	
床版切断工	橋軸方向	m	146.9	コンクリートカッター
	橋軸直角方向	〃	788.4	〃
壁高欄切断工(橋梁部)	橋軸方向	〃	146.9	〃
	橋軸直角方向	m2	29.8	ワイヤーソー
壁高欄切断工(ウイング部)	橋軸方向	〃	15.1	〃 水平方向、L=30、1m、B=0.5m
	橋軸直角方向	〃	1.43	〃
コンクリート 撤去工	床版部	撤去体積	m3	438.6
		撤去質量	t	1096.5
	地覆ブロック	撤去体積	m3	9.3
		撤去質量	t	23.3
	壁高欄部 (橋梁部)	撤去体積	m3	60.8
		撤去質量	t	152.0
	壁高欄部 (ウイング部)	撤去体積	m3	7.2
		撤去質量	t	18.0
	合計	撤去体積	m3	515.9
コンクリートコア 削孔工	床版	撤去質量	t	1289.8
		箇所	584	床版用吊孔削孔φ50
	地覆	〃	216	地覆部切断削孔φ100
		〃	36	ワイヤーソー切断用削孔φ50
ガードケーブル支柱切断	〃	〃	74	壁高欄用吊孔削孔φ50
		本	148	φ114mm、L=900mm

項目	単位	数量	備考
既設床版撤去工	床版A	m2	1469.0
	壁高欄A	m	177.0

道央自動車道 苫小牧川橋床版取替工事			
図面の種類	錦多峰川橋(上り線) 撤去概要図		
縮尺	図示	図面番号	/
設計会社名	安藤ハザマ・岩田地崎JV		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 北広島管理事務所		

錦多峰川橋 アスファルト舗装工・床版防水工詳細図

平面図 S=1:500



舗装面積(下り線)

項目	数量	備考
有効面積	1580.6	
控除面積	3.9	排水樹12箇所 0.328㎡/箇所
	6.8	伸縮装置部 A1 3.586㎡ A2 3.242㎡
舗装面積	1569.9	

数量表(下り線)

項目	単位	数量	備考
アスファルト舗装工	㎡	1569.9	t=4.0cm
床版防水工	㎡	1569.9	t=4.0cm

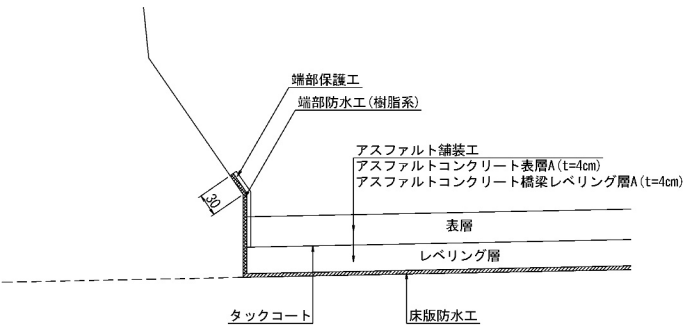
舗装面積(上り線)

項目	数量	備考
有効面積	1580.7	
控除面積	2.6	排水樹8箇所 0.328㎡/箇所
	6.8	伸縮装置部 A1 3.587㎡ A2 3.252㎡
舗装面積	1571.3	

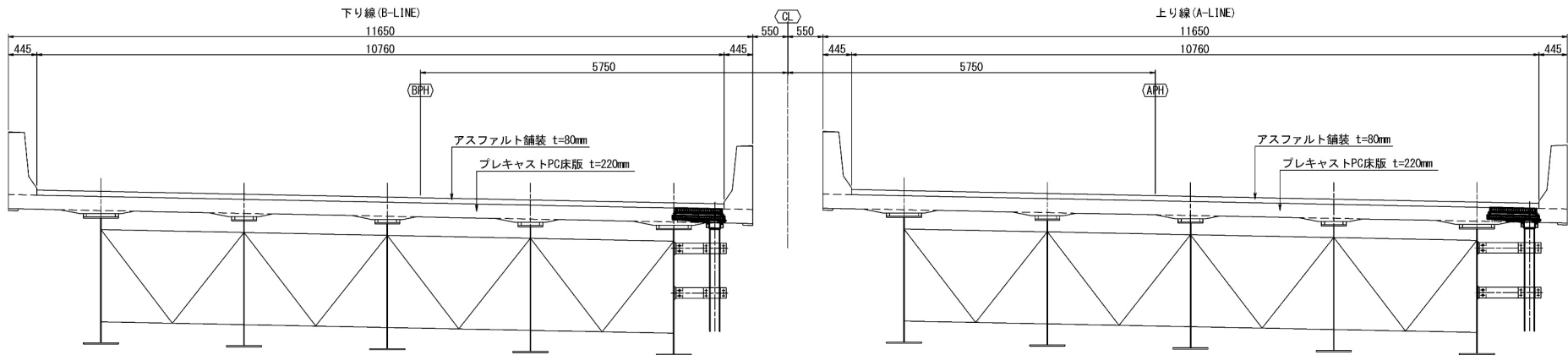
数量表(上り線)

項目	単位	数量	備考
アスファルト舗装工	㎡	1571.3	t=4.0cm
床版防水工	㎡	1571.3	t=4.0cm

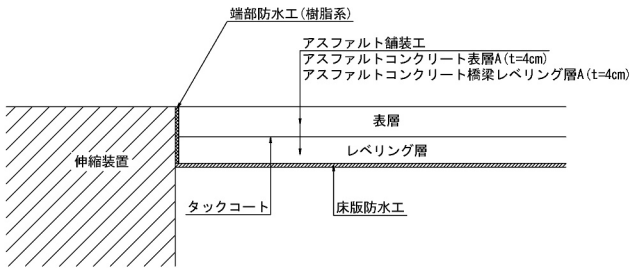
“a”部詳細図 S=1:10



標準断面図 S=1:100

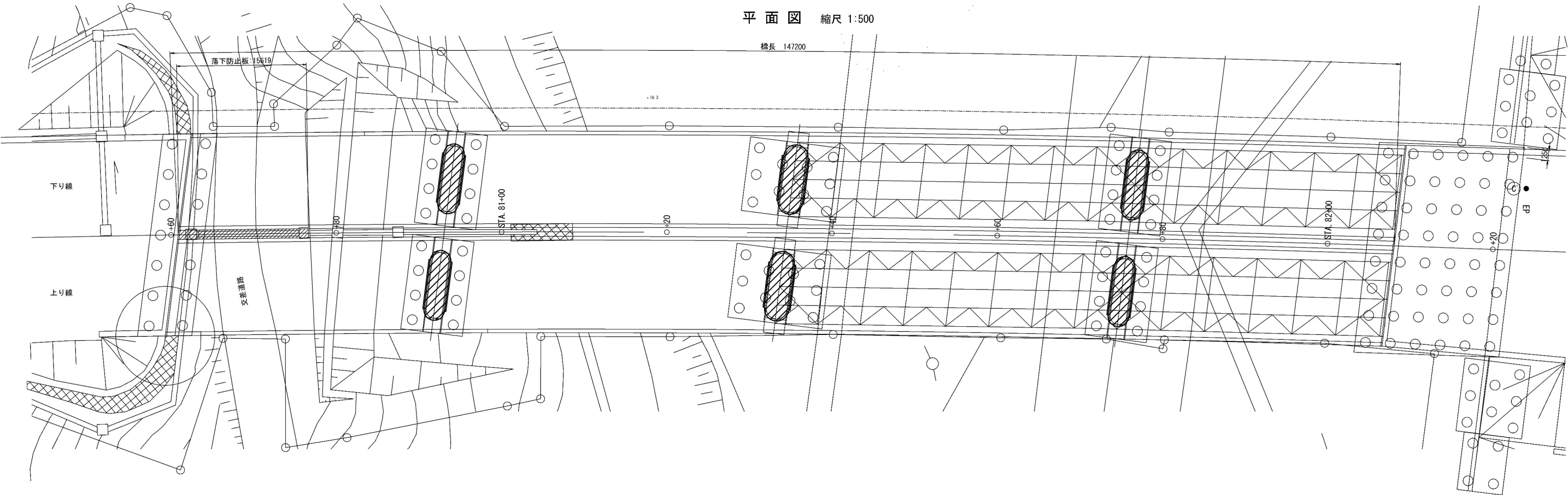


“b”部詳細図 S=1:10



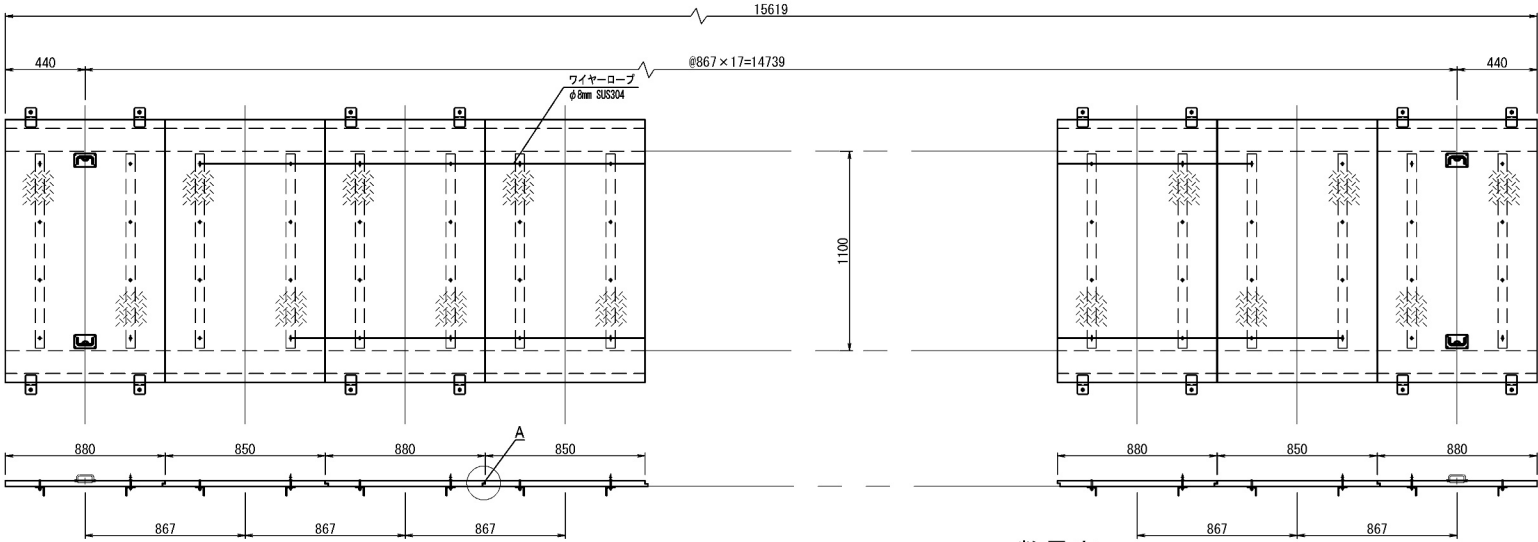
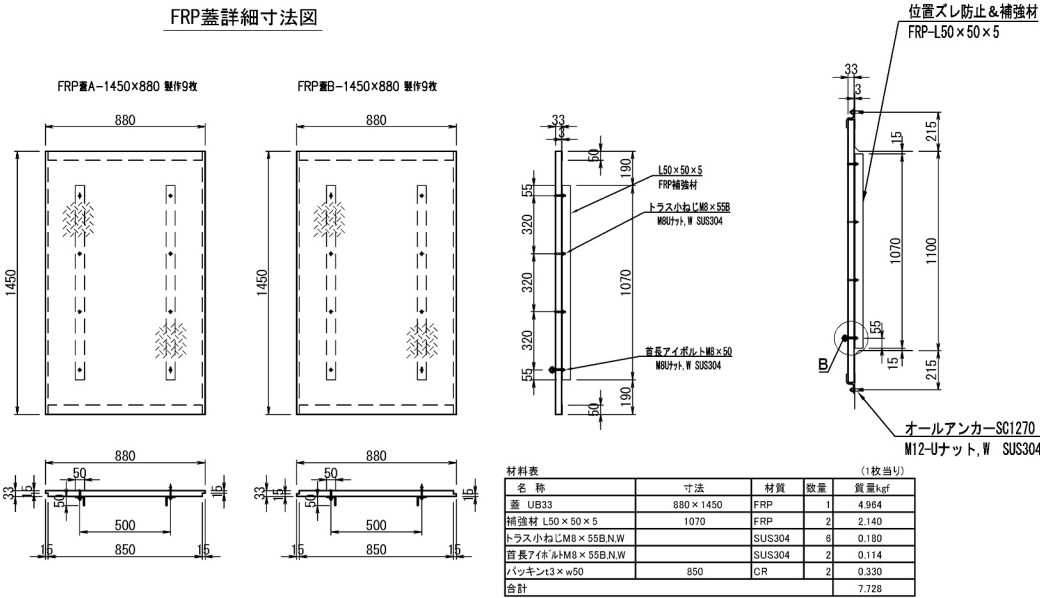
※
1. アスファルト舗装工の継ぎ目は、表層とレベリング層で10cmずらして施工すること。
2. アスファルト舗装工の施工継ぎ目は、わだち位置にならないよう施工すること。

道央自動車道 苫小牧川橋床版取替工事			
図面の種類	錦多峰川橋 アスファルト舗装工・床版防水工詳細図		
縮尺	図示	図面番号	/
設計会社名	安藤ハザマ・岩田地崎JV		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 北広島管理事務所		



全体配置図
S=1:40

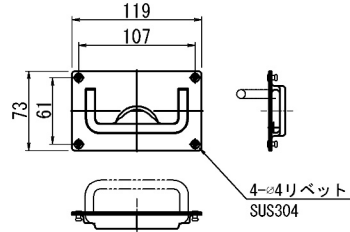
FRP蓋詳細寸法図



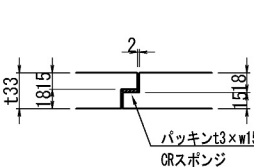
数量表

項目	単位	数量	備考
中央分離帯転落防止板	m ²	22.6	

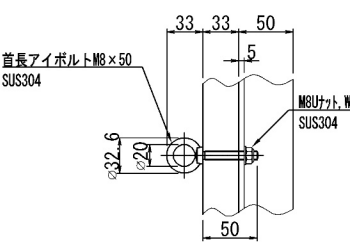
平面取手詳細図
S=1:10



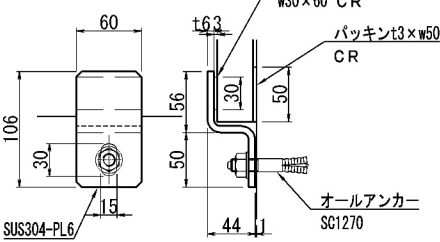
A部詳細
S=1:10



B部詳細
S=1:10



飛散防止金具詳細図
S=1:10



材料表

品 名	質量kg/枚	数 量	合計質量kg
飛散防止金具PL6	0.390	36	14.04
CRパッキンt3×30×60	0.007	36	0.252
オールアンカーSC1270	0.075	36	2.700
M12-Uナット	0.017	36	0.612
合計			17.604

材料表

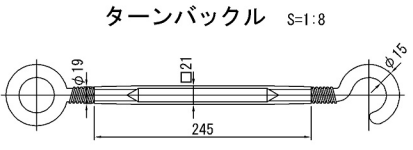
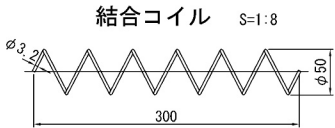
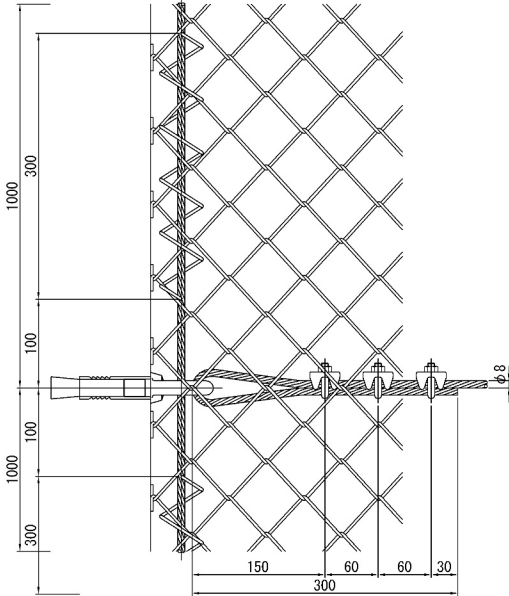
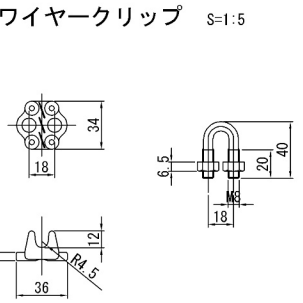
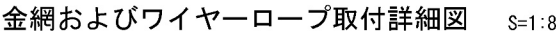
品 名	質量kg/枚	数 量	合計質量kg
平面取手	0.246	8	1.968

材料表

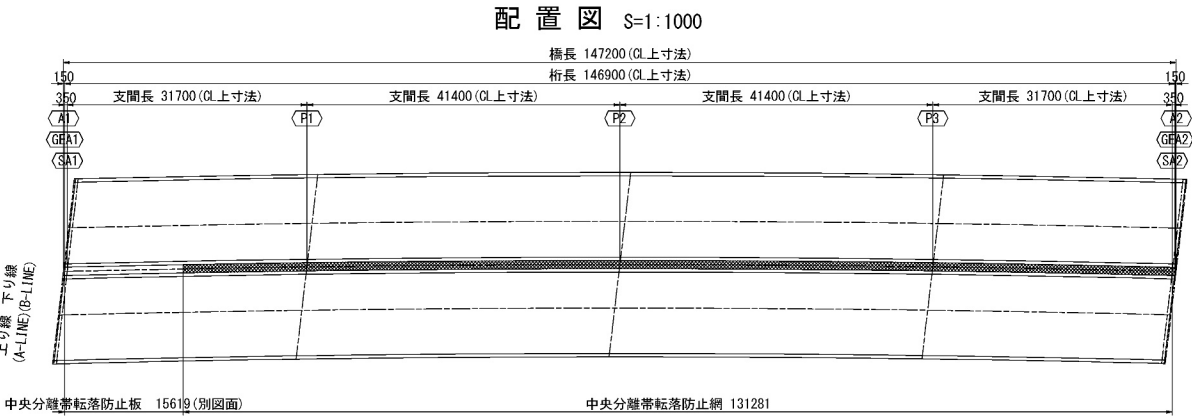
品 名	質量kg	数 量	合計質量kg
φ8mm ワイヤロープ	0.188	28	5.254
φ8mm ワイヤークリップ	0.017	24	0.378
SUS 首長アイボルト M8×50 N-W付	0.057	36	2.052
合計			8.184

※蓋には、7枚目又は10枚目ごとに平面取手を設置すること。
※蓋の材質はFRP製とし、全面ふっ素塗装仕上げとすること。(色:N7)
※ワイヤーロープは、取手付の蓋には適さないこと。

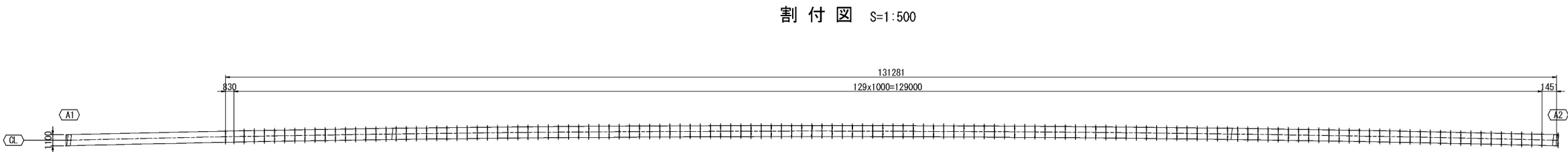
道 央 自 動 車 道 苫小牧川橋床版取替工事			
図面の種類	錦多峰川橋 中央分離帯転落防止板工図		
縮 尺	図 示	図面番号	/
設計会社名	安藤ハザマ・岩田地崎JV		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 北広島管理事務所		



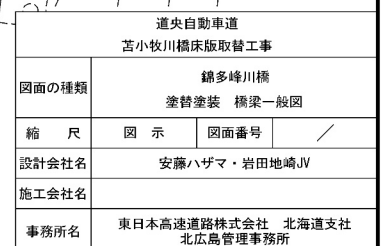
材 料 表		
名 称	寸 法	摘 要
ひし形金網	φ3.2mm×56mm	JIS G 3552 JIS G 3537 (亜鉛メッキ鉄線 4種)
ワイヤーロープ	φ8mm	JIS G 3525 (普通 Z より亜鉛メッキ 4 号ロープ)
結合コイル	φ3.2mm×50mm ×250mm	JIS G 3537 (亜鉛メッキ鉄線 4種)
ワイヤークリップ	FOR φ8mm	
ターンバックル	φ 15mm	
アンカーボルト	φ 19mm	JIS G 3101 (一般構造用圧延鋼材第二種)



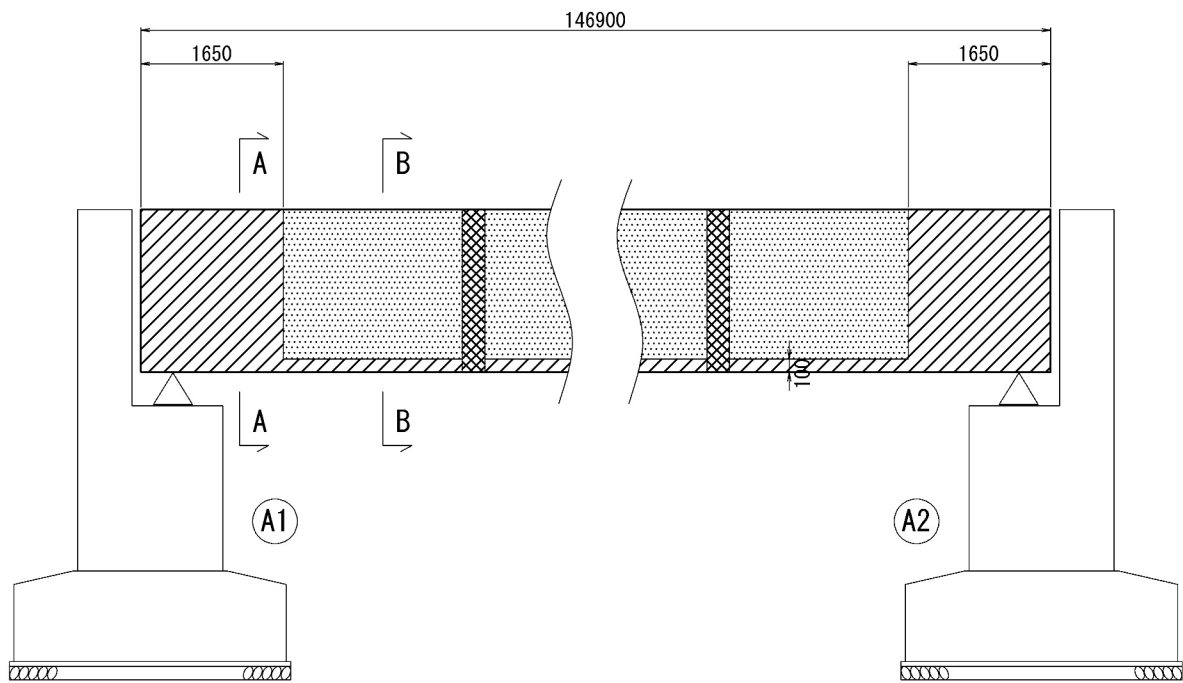
項目	單位	數量	備考
中央分離帶軋落防止網	m ²	144.4	



道央自動車道 小笠川橋床版取替工事			
図面の種類	錦多峰川橋 中央分離帯落下防止網工図		
縮 尺	図 示	図面番号	／
設計会社名	安藤ハザマ・岩田地晴JV		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 北広島管理事務所		

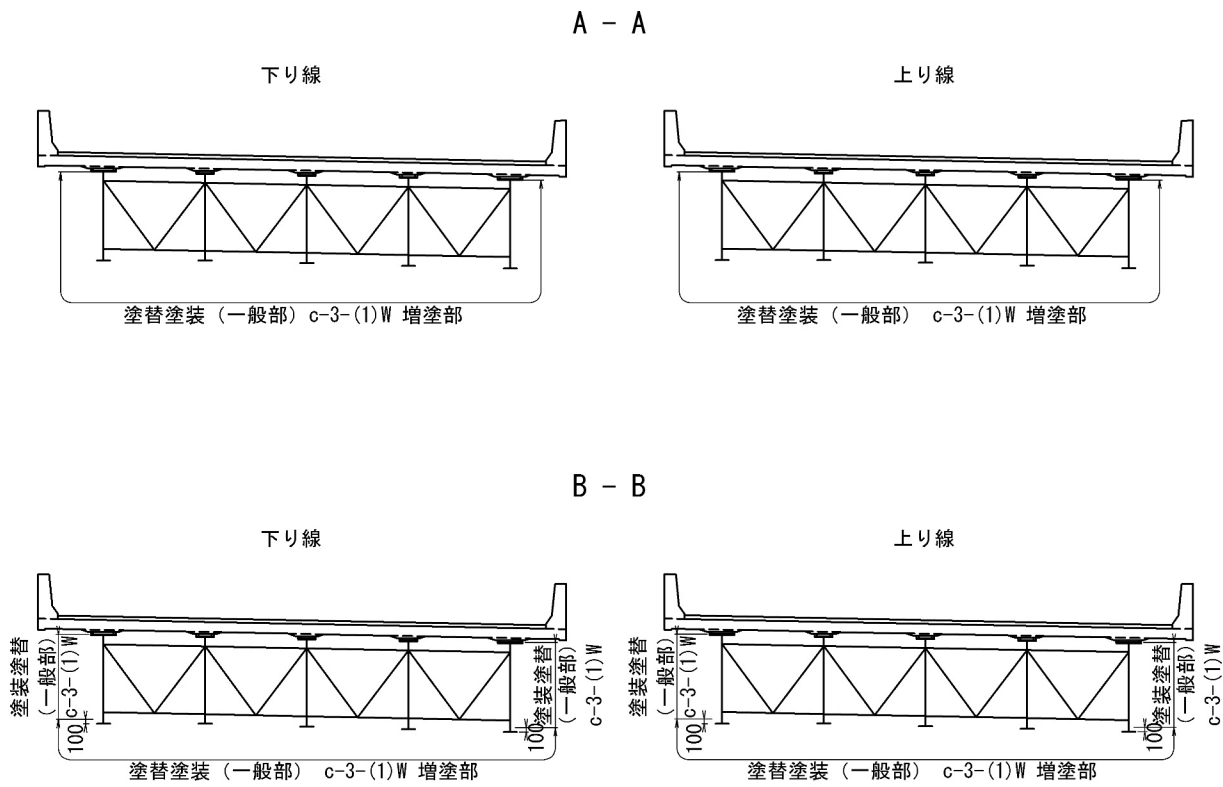


側面図



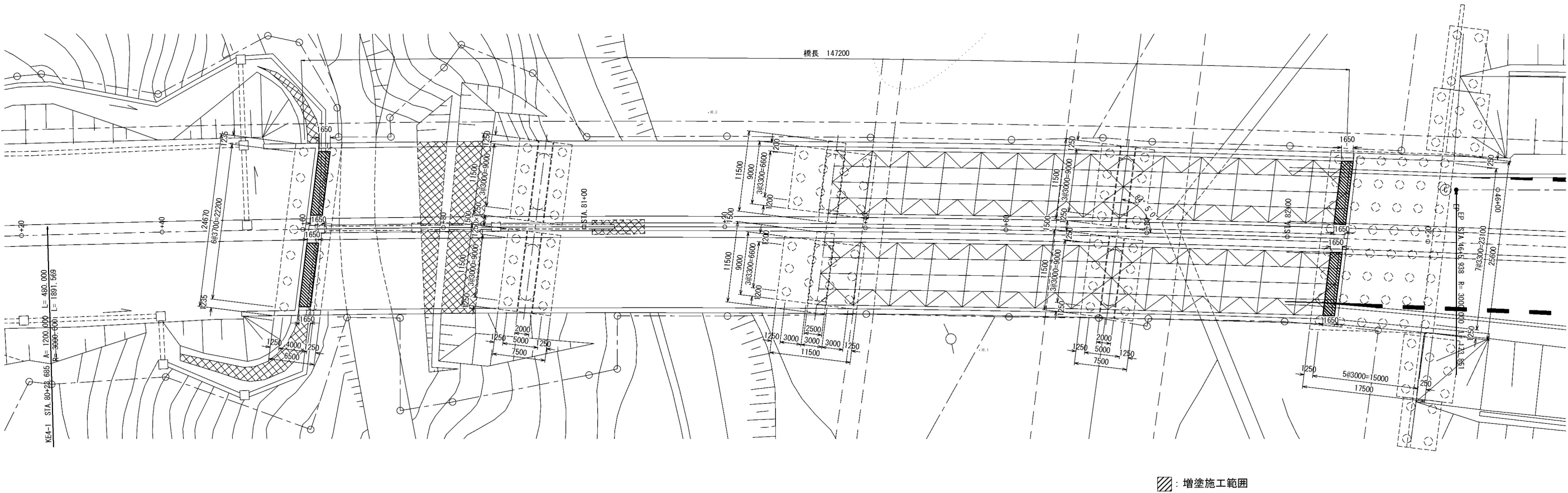
- 斜線: 塗替塗装(一般部) c-3-(1)W
※増塗部
- 点線: 塗替塗装(一般部) c-3-(1)W
- 格子線: 塗替塗装(特殊部) g-3-(1)W
※添接部

断面図



道央自動車道 苫小牧川橋床版取替工事			
図面の種類	錦多峰川橋		
	塗替塗装 種別詳細図		
縮 尺	図 示	図面番号	/
設計会社名	安藤ハザマ・岩田地崎JV		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 北広島管理事務所		

平面図 縮尺 1:600

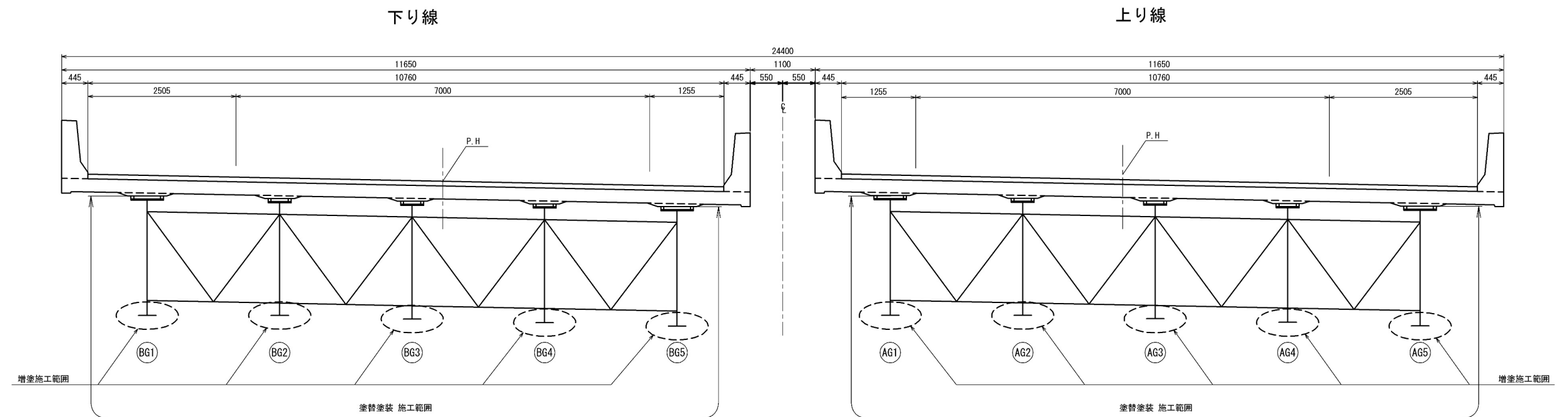


数量表 (A1～A2)

項目			単位	数量		備考
				上り線	下り線	
塗替塗装	一般部	c-3-(I)W	m ²	4816.9	4818.2	
	特殊部	g-3-(I)W	m ²	348.2	348.2	
	曲面加工	(R面取り)	m	5876.0	5876.0	

※対象範囲内の部材（主桁・横桁・対傾構等）は、すべて増塗とする。ただし、特殊部は除く。

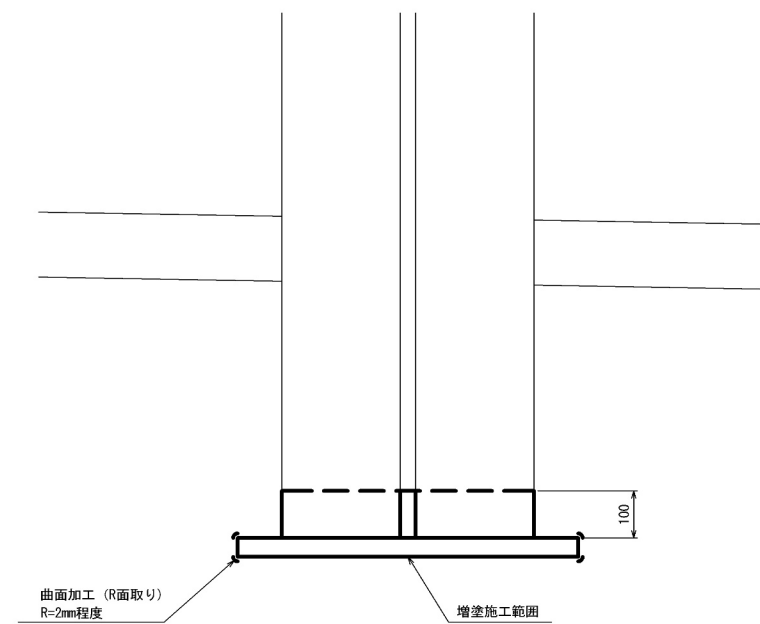
道央自動車道 苫小牧川橋床版取替工事			
図面の種類	錦多峰川橋		
	塗替塗装	増塗・桁端部詳細図	
縮 尺	図 示	図面番号	/
設計会社名	安藤ハザマ・岩田地崎JV		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 北広島管理事務所		



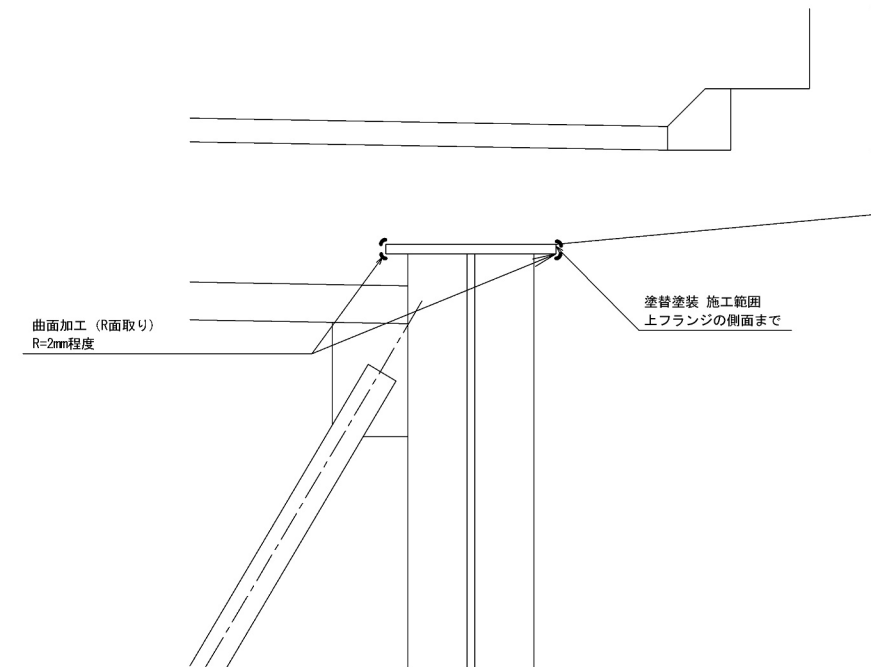
※増塗、曲面加工（R面取り）について

- ・下フランジと接するウェブの立ち上がり部分10cm及び桁端部については、塗替塗装工事の最終下塗り層を1層増塗することとする。
- ・主桁の下フランジ角部には、曲面加工（R面取り）を行うこととする。
- ・主桁の上フランジ角部には、曲面加工（R面取り）を行うこととする。
- ・増塗の下フランジ範囲は、上面・下面・小口とする。ただし、添接部は除く。

下フランジ増塗部、曲面加工部 詳細図

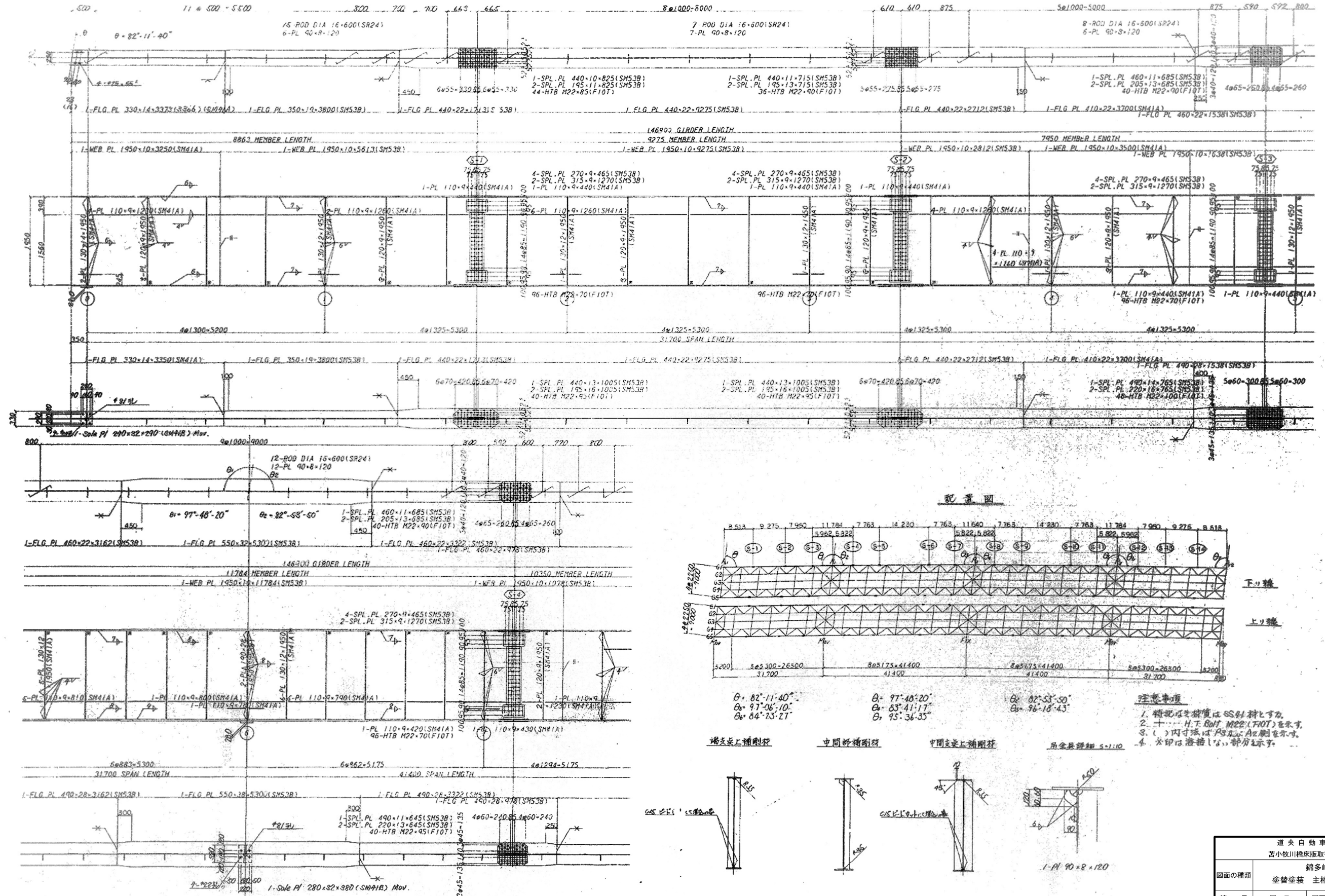


上フランジ部、塗替塗装部 詳細図



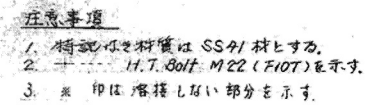
道史自動車道			
吉小牧川橋床版取替工事			
図面の種類	錦多峰川橋 塗装塗装 標準損断図		
縮 尺	図 示	図面番号	／
設計会社名	安藤ハザマ・岩田地崎JV		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 北広管理事務所		

主桁 G1.5 (1/2) S=1:30



- 注意事項
1. 特記なき材質はSS41材とする。
 2. 十.....H.T. Bolt M22(F10T)を示す。
 3. ()内寸法はRSJにA2鋼を示す。
 4. *印は溶接しない部分を示す。

道央自動車道 苫小牧川橋床版取替工事			
図面の種類	錦多峰川橋		
縮尺	図示	図面番号	/
設計会社名	安藤ハザマ・岩田地崎JV		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 北広島管理事務所		

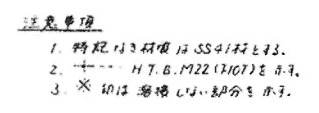


道 央 自 動 車 道			
苫小牧川橋床版取替工事			
図面の種類	鎗多峰川橋 塗替塗装 主桁 G1.65 (2/2)		
縮 尺	図 示	図面番号	／
設計会社名	安藤ハザマ・岩田地味JV		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 北広島管理事務所		



1. 得点台を計算する。7534172123
2. 十進H.T.B M22(F10T) を示す。
3. () 内寸法は R 及び $A2$ 欄を示す。
4. 2 印の落書きした部分を示す。

道 央 自 動 車 道 吉小牧川橋床設置工事		
図面の種類	錦多峰川橋 塗装塗装 主桁 G2, G3, G4 (1/2)	
縮 尺	図 示	図面番号 /
設計会社名	安藤ハザマ・岩田地崎JV	
施工会社名		
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 北広島管理事務所	

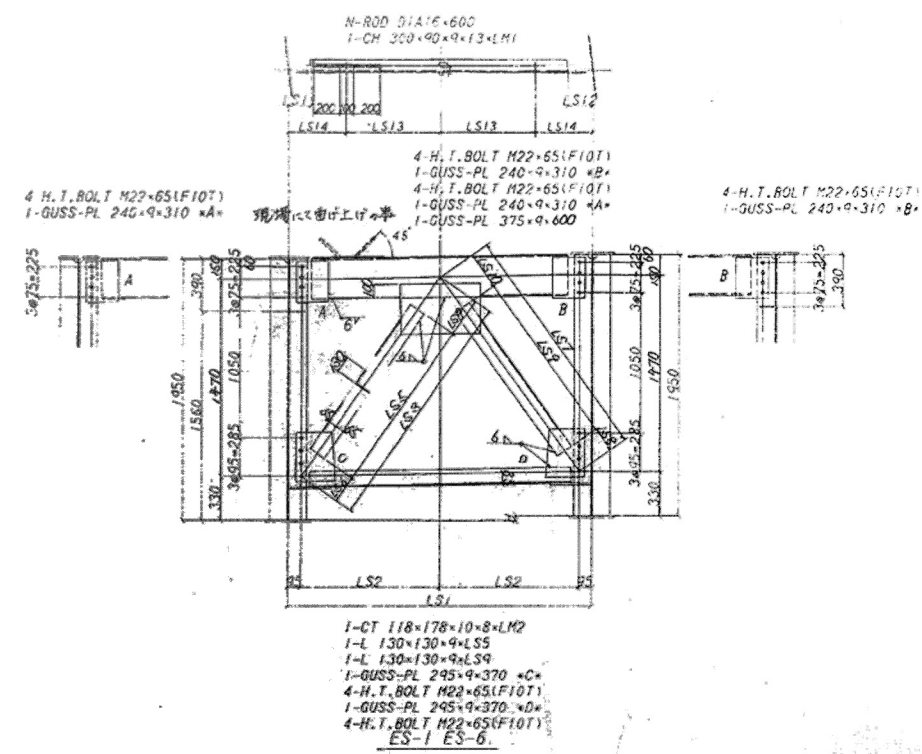


道央自動車道 苫小牧川橋床版取替工事			
図面の種類	錦多峰川橋 塗替塗装 主桁 G2, G3, G4 (2/2)		
縮 尺	図 示	図面番号	/
設計会社名	安藤ハザマ・岩田地崎JV		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 北広島管理事務所		

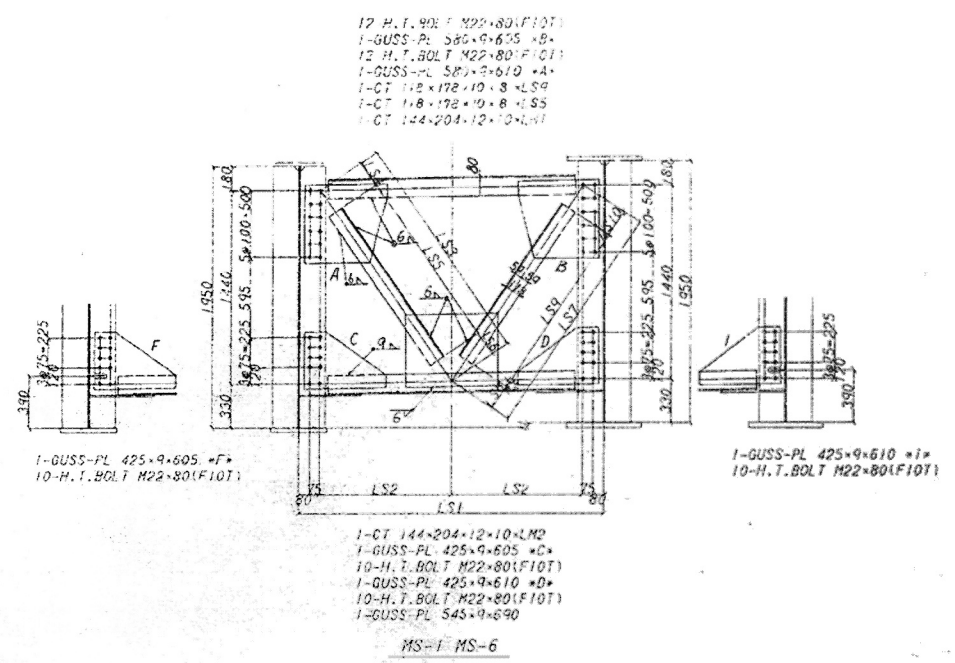
道 央 自 動 車 道				
苫小牧川橋床版取替工事				
図面の種類	錦多峰川橋 端・中間支点上対傾構（上り線）			
縮 尺	図 示	図面番号	／	
設計会社名	安藤ハザマ・岩田地味JV			
施工会社名				
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 北広島管理事務所			

道央自動車道 苫小牧川橋床版取替工事			
図面の種類	錦多峰川橋 中間対候橋（上り線）		
縮 尺	図 示	図面番号	／
設計会社名	安藤ハザマ・岩田地崎JV		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 北広島管理事務所		

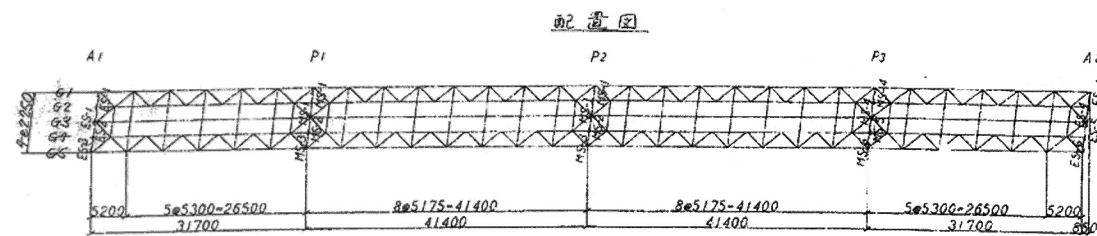
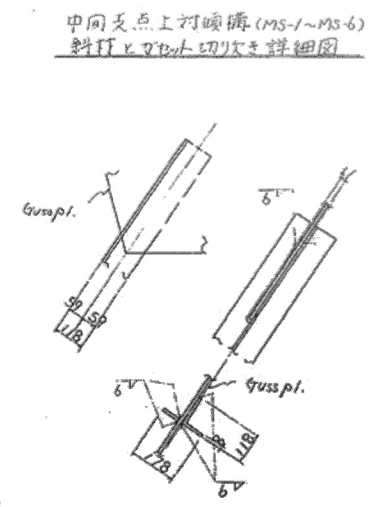
端・中間支点上対傾構 下り線 C-1:20



	ES-1	ES-2	ES-3	ES-4	ES-5	ES-6
LS1	2250	2250	2250	2250	2250	2250
LS2	1030	1030	1030	1030	1030	1030
LS3	1807	1807	1807	1781	1781	1781
LS4	287	287	287	281	281	281
LS5	1320	1320	1320	1300	1300	1300
LS6	200	200	200	200	200	200
LS7	1783	1783	1783	1802	1802	1802
LS8	200	200	200	200	200	200
LS9	1300	1300	1300	1320	1320	1320
LS10	289	289	289	282	282	282
LS11	165	165	165	165	165	165
LS12	165	165	165	165	165	165
LS13	700	700	700	700	700	700
LS14	425	425	425	425	425	425
H	30	30	30	-34	-34	-34
LM1	1912	1932	1912	1909	1929	1909
LM2	1940	1940	1940	1940	1940	1940
N	S	S	S	S	S	S
GUSS	A B	A B	A B	A B	A B	A B
MARK	C D	C D	C D	C D	C D	C D



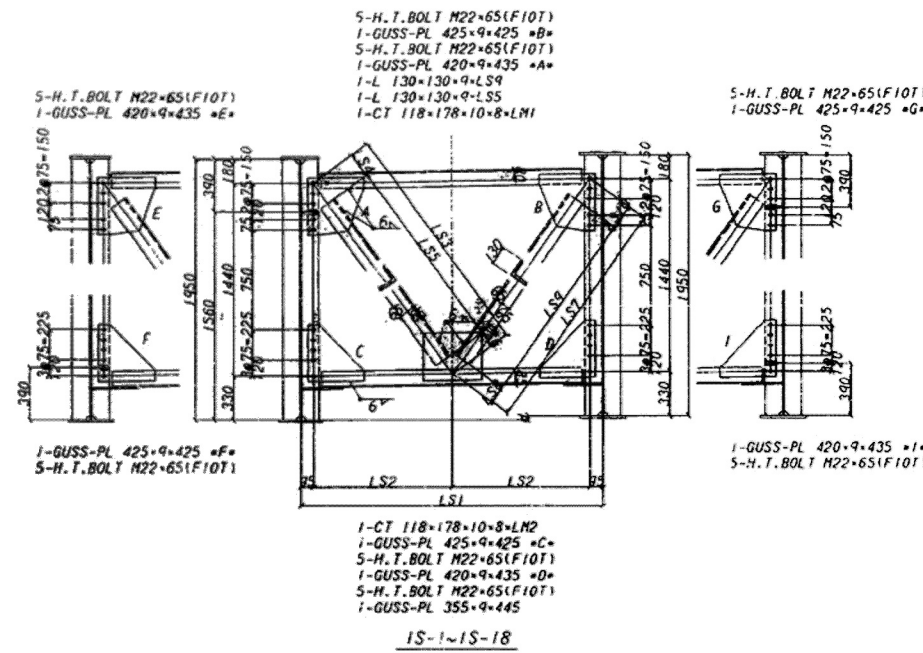
	MS-1	MS-2	MS-3	MS-4	MS-5	MS-6
LS1	2250	2250	2250	2250	2250	2250
LS2	970	970	970	970	970	970
LS3	1723	1723	1723	1750	1750	1750
LS4	200	200	200	200	200	200
LS5	1310	1310	1340	1360	1360	1360
LS6	183	183	183	190	190	190
LS7	1749	1749	1749	1723	1723	1723
LS8	189	189	189	188	188	188
LS9	1380	1360	1360	1360	1340	1340
LS12	200	200	200	195	195	195
H	31	31	31	-33	-33	-33
LM1	1820	1820	1820	1820	1820	1820
LM2	1820	1820	1820	1820	1820	1820
GUSS	A B	A B	A B	A B	A B	A B
MARK	C D	C D	C D	C D	C D	C D



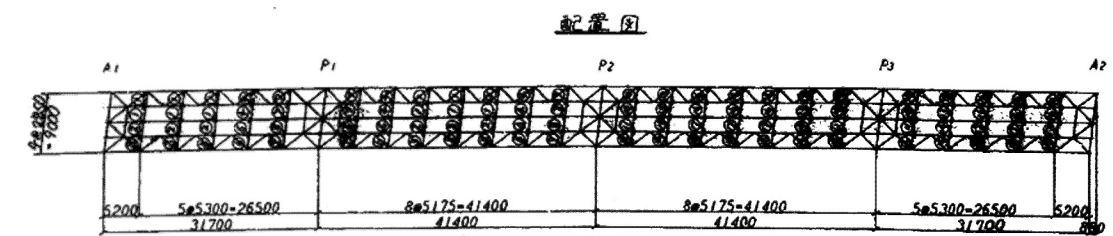
- 注意事項
1. GUSS PL は SM41A 材とする
 2. 上下弦材 取付部は SS 41 材とする
 3. + H.T.B. M22 (F10T) 8材

道央自動車道 苫小牧川橋床版取替工事			
図面の種類	錦多峰川橋 端・中間支点上対傾構 (下り線)		
縮尺	図示	図面番号	/
設計会社名	安藤ハザマ・岩田地崎JV		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 北広島管理事務所		

中間対傾構 下り線 S=1:20



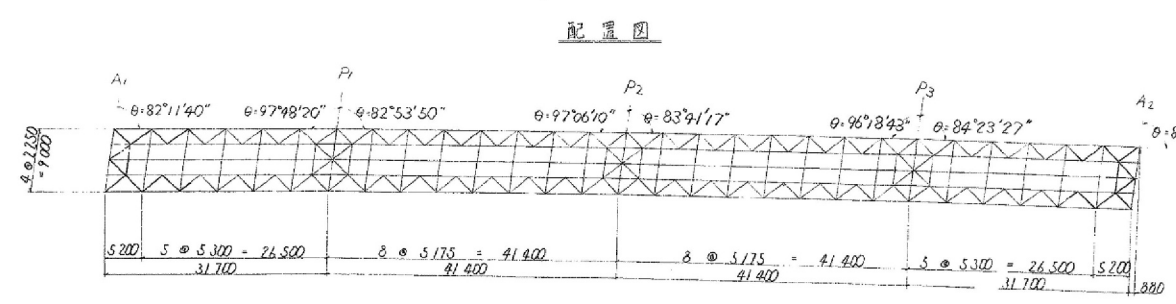
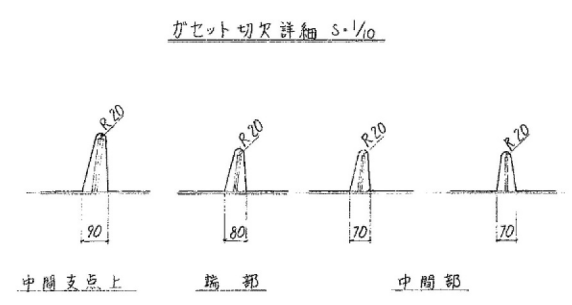
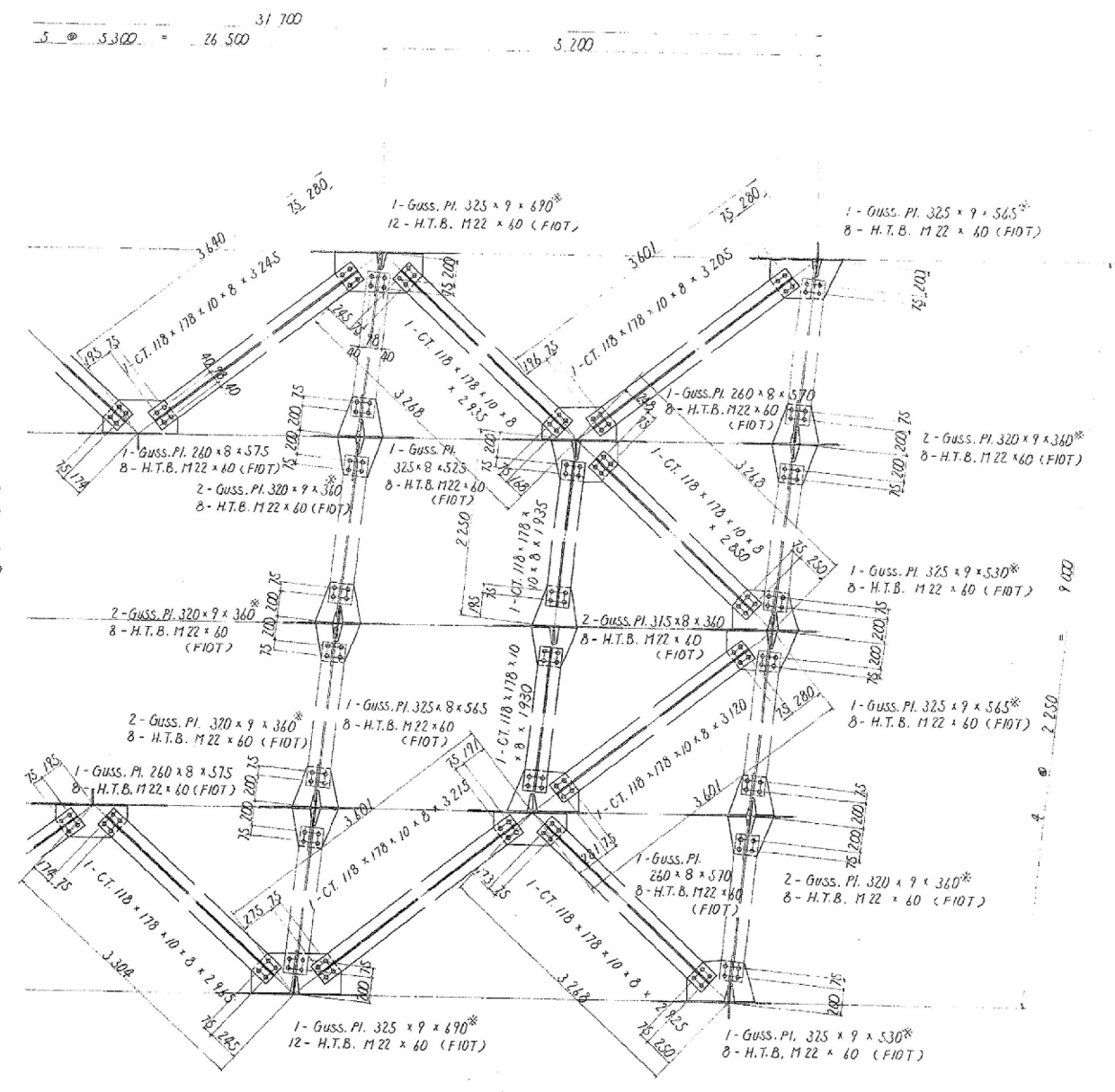
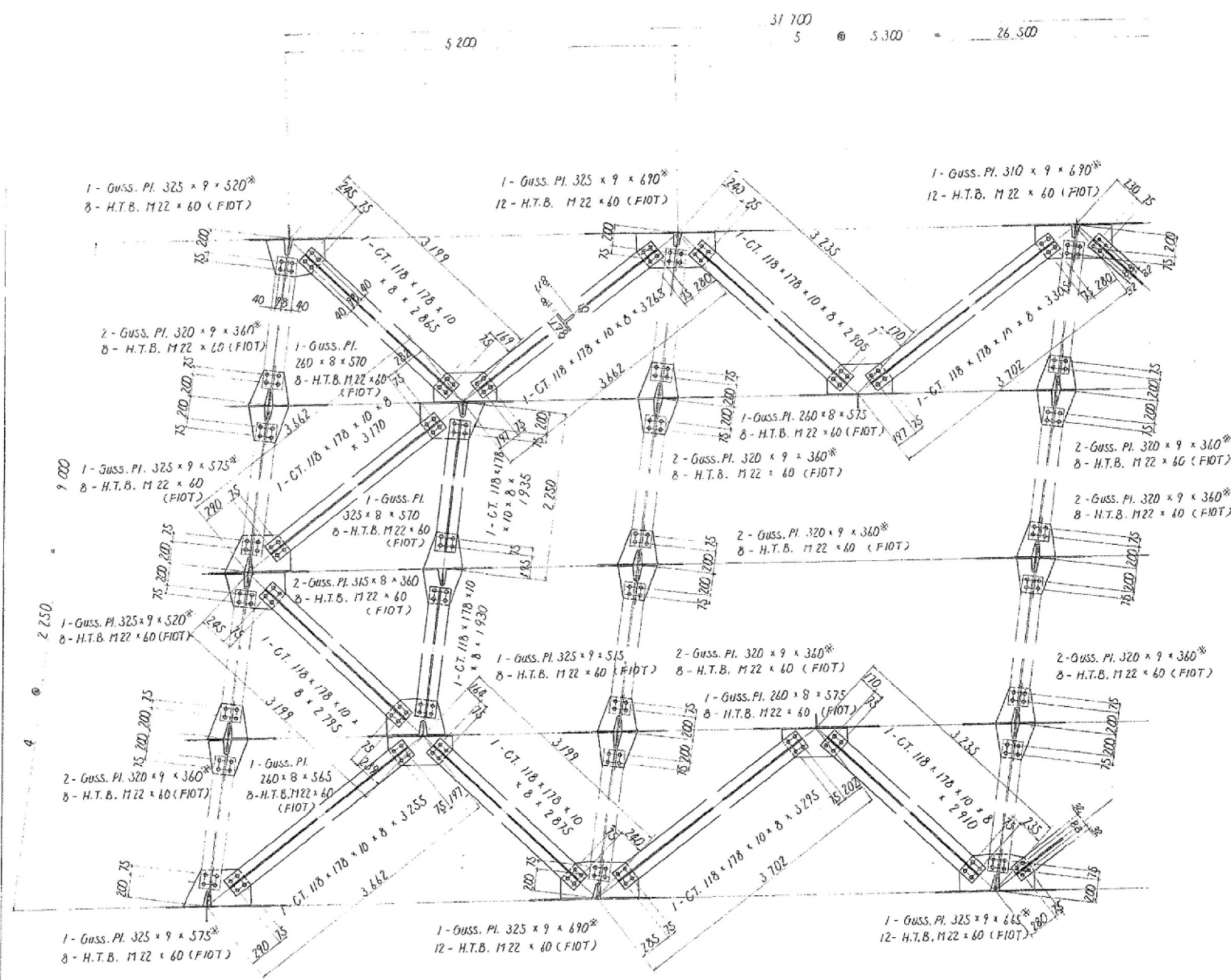
	IS-1	IS-2	IS-3	IS-4	IS-5	IS-6	IS-7	IS-8	IS-9	IS-10	IS-11	IS-12	IS-13	IS-14	IS-15	IS-16	IS-17	IS-18
LS1	2250	2250	2250	2250	2250	2250	2250	2250	2250	2250	2250	2250	2250	2250	2250	2250	2250	2250
LS2	1030	1030	1030	1030	1030	1030	1030	1030	1030	1030	1030	1030	1030	1030	1030	1030	1030	1030
LS3	1758	1758	1758	1758	1758	1758	1758	1758	1758	1783	1783	1783	1783	1783	1783	1783	1783	1783
LS4	185	185	185	185	185	185	185	185	185	185	185	185	185	185	185	185	185	185
LS5	1450	1450	1450	1450	1450	1450	1450	1450	1450	1470	1470	1470	1470	1470	1470	1470	1470	1470
LS6	123	123	123	123	123	123	123	123	123	128	128	128	128	128	128	128	128	128
LS7	1783	1783	1783	1783	1783	1783	1783	1783	1783	1757	1757	1757	1757	1757	1757	1757	1757	1757
LS8	128	128	128	128	128	128	128	128	128	122	122	122	122	122	122	122	122	122
LS9	1470	1470	1470	1470	1470	1470	1470	1470	1470	1450	1450	1450	1450	1450	1450	1450	1450	1450
LS10	185	185	185	185	185	185	185	185	185	185	185	185	185	185	185	185	185	185
H	31	31	31	31	31	31	31	31	31	-32	-32	-32	-32	-32	-32	-32	-32	-32
LM1	1940	1940	1940	1940	1940	1940	1940	1940	1940	1940	1940	1940	1940	1940	1940	1940	1940	1940
LM2	1940	1940	1940	1940	1940	1940	1940	1940	1940	1940	1940	1940	1940	1940	1940	1940	1940	1940
GUSS	E	G	A	G	A	B	E	G	A	G	A	B	E	G	A	G	A	B
HARK	C	D	C	D	C	D	C	D	C	D	C	D	C	D	C	D	C	D



- 寸法表
1. GUSS, PL 尺 寸 表
 2. 工 程 材 料 表
 3. 材 料 表

道 央 自 動 車 道			
苫小牧川橋床版取替工事			
図面の種類	錦多峰川橋		
	中間対傾構 (下り線)		
縮 尺	図 示	図面番号	／
設計会社名	安藤ハザマ・岩田地崎JV		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 北広島管理事務所		

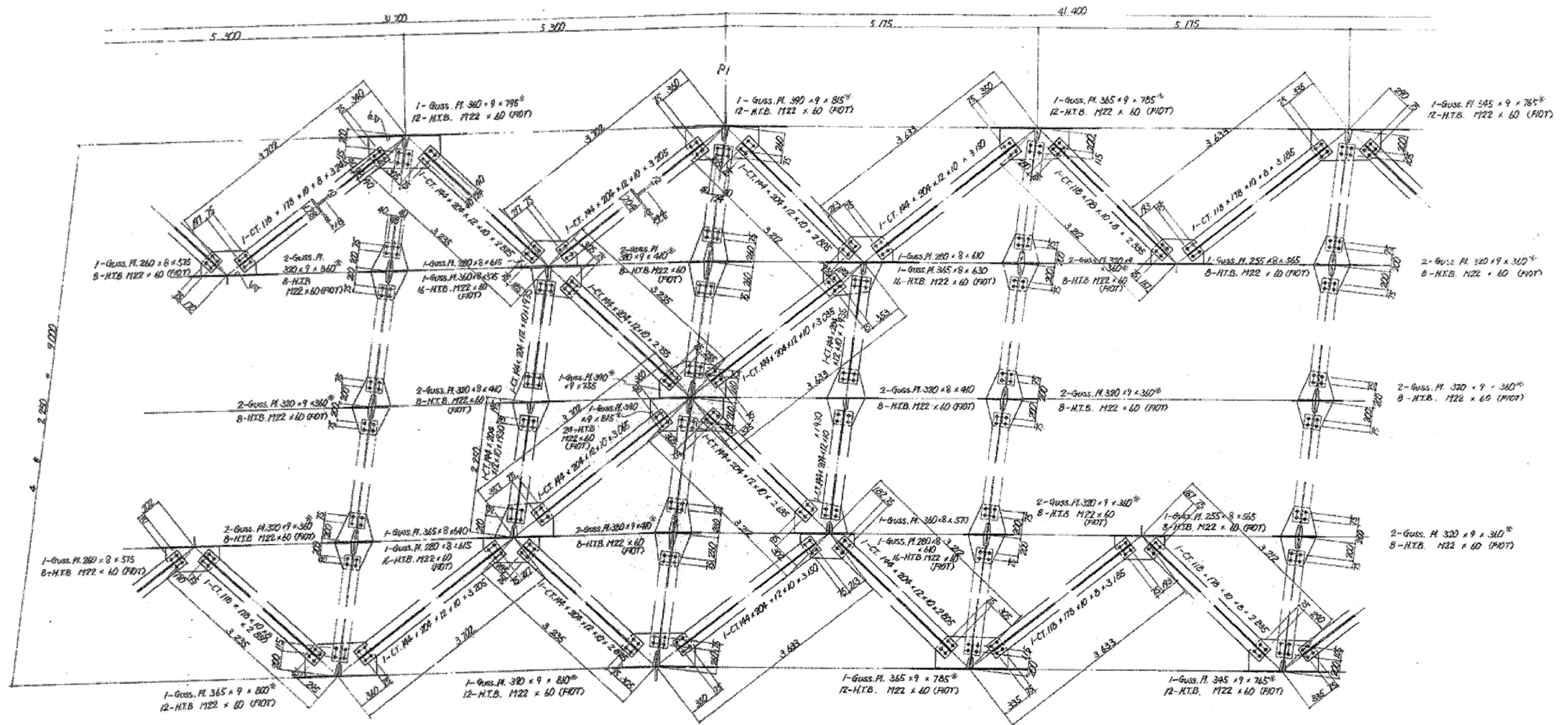
横構 4/5 S = 1/30, 1/20



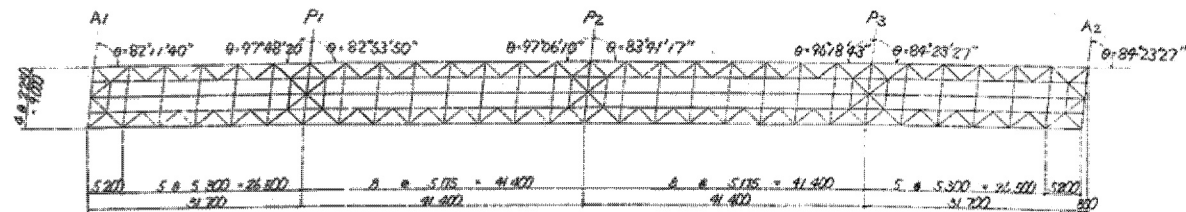
- 注意事項
- 1. Guss. Pl. は SM41A 材とする
 - 2. " * 無しは 今?SS41TF とする
 - 3. C.T. は 今?SS41TF とする
 - 4. H.T. Bolt. M22 (FIOT) とする

道央自動車道 苫小牧川橋床版取替工事			
図面の種類	錦多峰川橋 横構 (1/5)		
縮尺	図示	図面番号	/
設計会社名	安藤ハザマ・岩田地味JV		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 北広島管理事務所		

樓 樑 (P/4) $S = \frac{1}{30}, \frac{1}{20}$



紀 實 圖

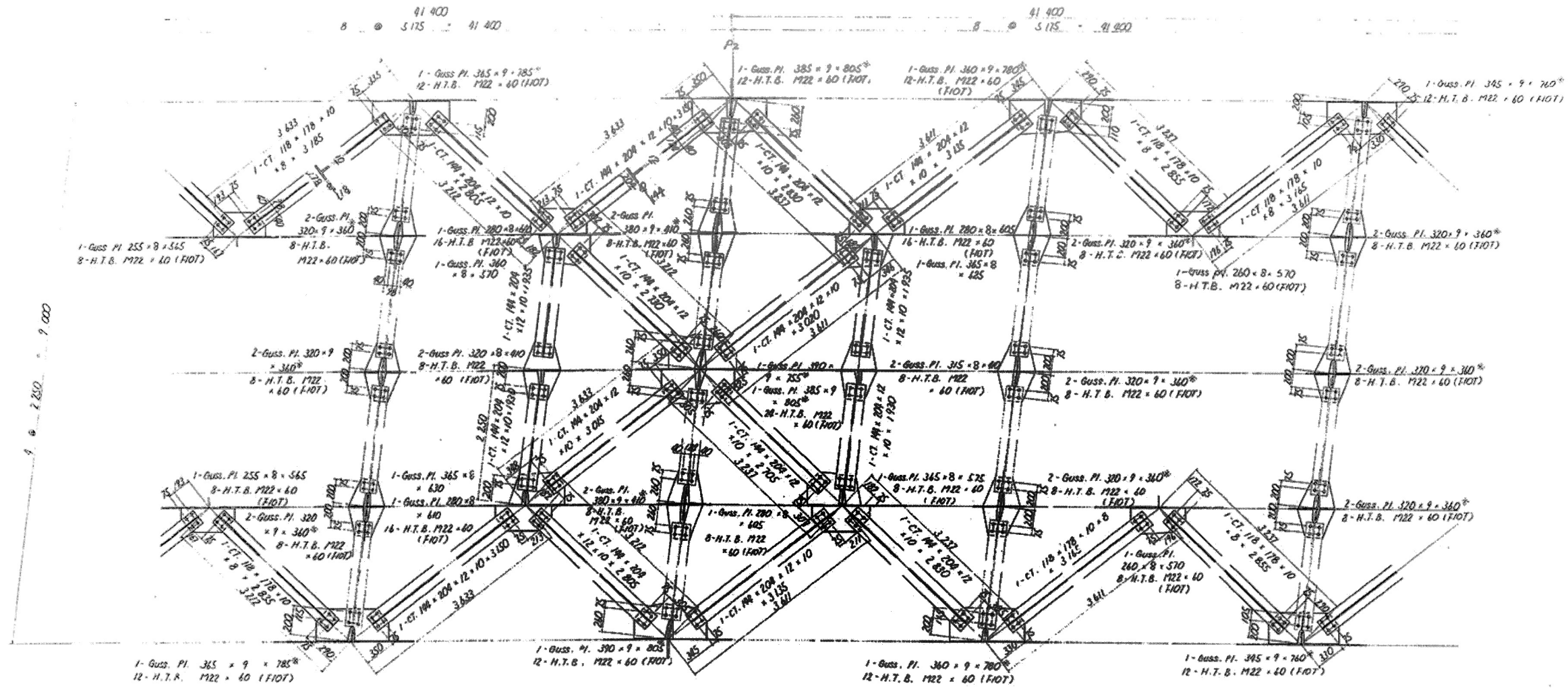


注意事項

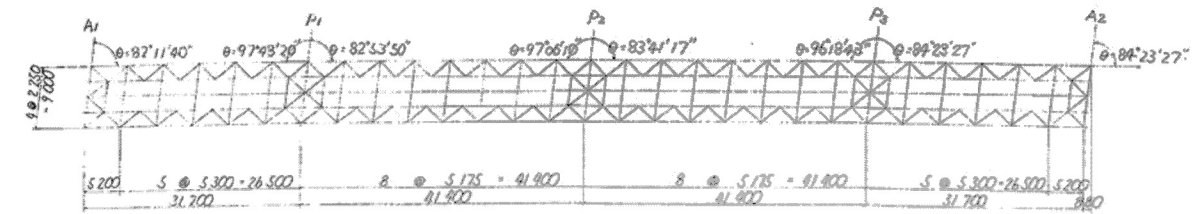
1. *Crassp.* 8月 SM41A 材と殆ど。
2. " 8月 11日 SS41/F 材と殆ど。
3. C.T は全? SS41/F 材と殆ど。
4. + ... H.T. Bolt M22 (F107) と殆ど。

道 央 自 動 車 道			
吉小牧川橋床版取替工事			
図面の種類	綿多峰川橋 横構 (2/5)		
縮 尺	図 示	図面番号	/
設計会社名	安藤ハザマ・岩田地味JV		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 北広島管理事務所		

縮 尺 (3/4) 5 - 1/80, 1/30



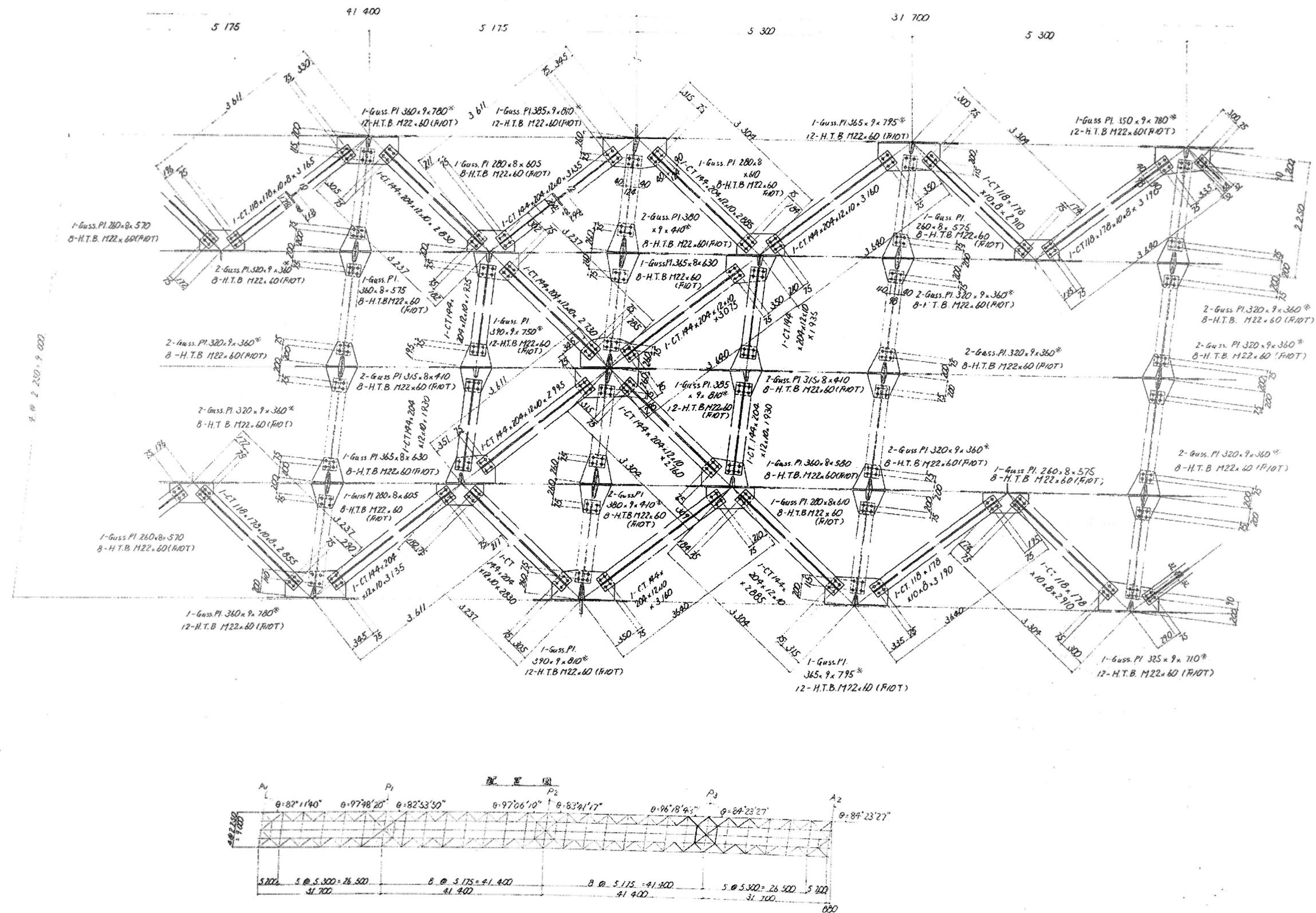
配 置 図



- 注 意 事 項
- 1. Gusset Pl. 及び SM/A17 とする。
 - 2. 本図には全々 S.S.A. として示す。
 - 3. 本図には H.T.B. M22 (FIOT) とする。

道 央 自 動 車 道			
苫小牧川橋床版取替工事			
図面の種類	錦多峰川橋 橋構 (3/5)		
縮 尺	図 示	図面番号	/
設計会社名	安藤ハザマ・岩田地崎JV		
施工会社名	東日本高速道路株式会社 北海道支社		
事務所名	北広島管理事務所		

横 構 架 図 (1/5) S=60 1/20

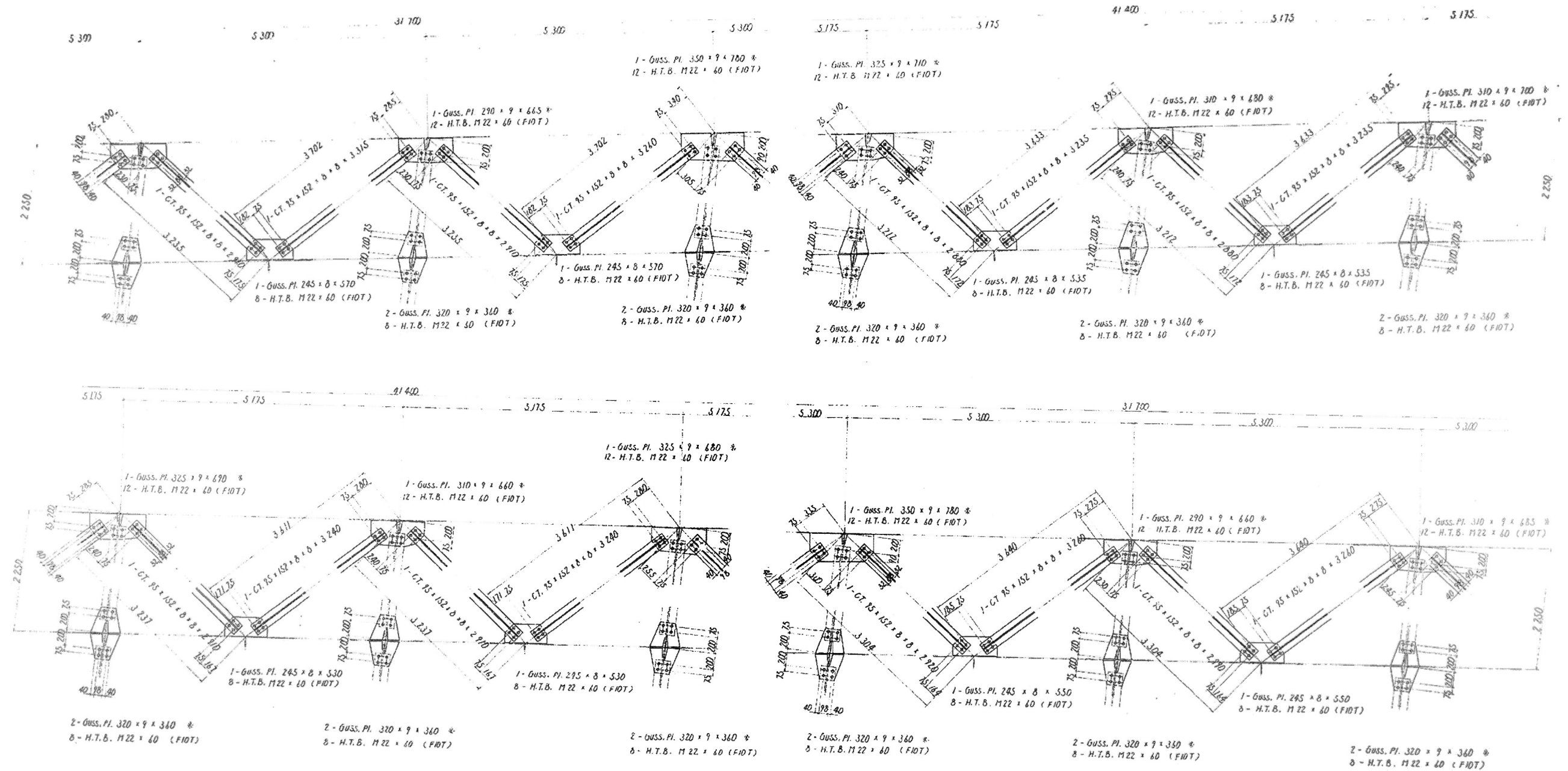


注意事項

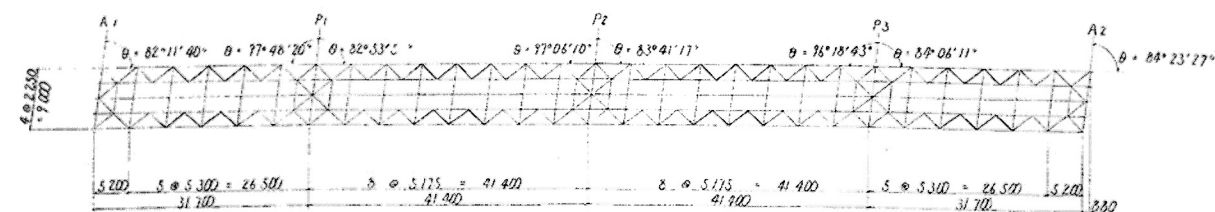
1. Guss pl. には SM490C を用いる。
2. 鋼材は、すべて S55 以上とする。
3. H.T.B. には、M22 (F10T) とする。

道央自動車道 苫小牧川橋床版取替工事			
図面の種類	錦多峰川橋 横構 (4/5)		
縮 尺	図 示	図面番号	/
設計会社名	安藤ハザマ・岩田地崎JV		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 北広島管理事務所		

模 積 (5/5) $S = 1/30, 1/20$



配置图

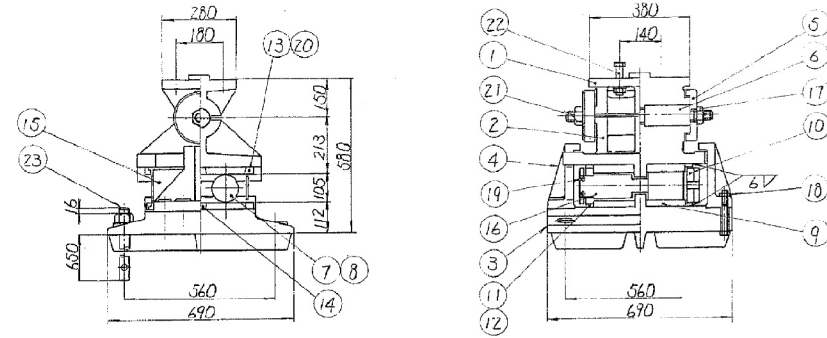
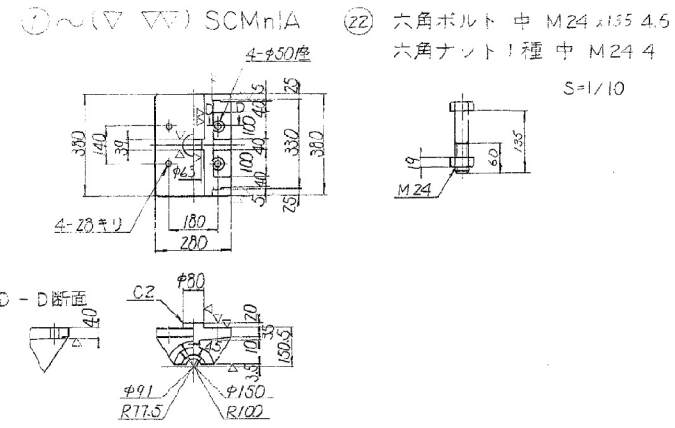


注意事项

1. Guss, Pl を SS41材とする
2. " を無しは全てSS41材とする
3. C.T. は全てSS41材とする
4. " H.T. Bolt, M22 (FUT) とする

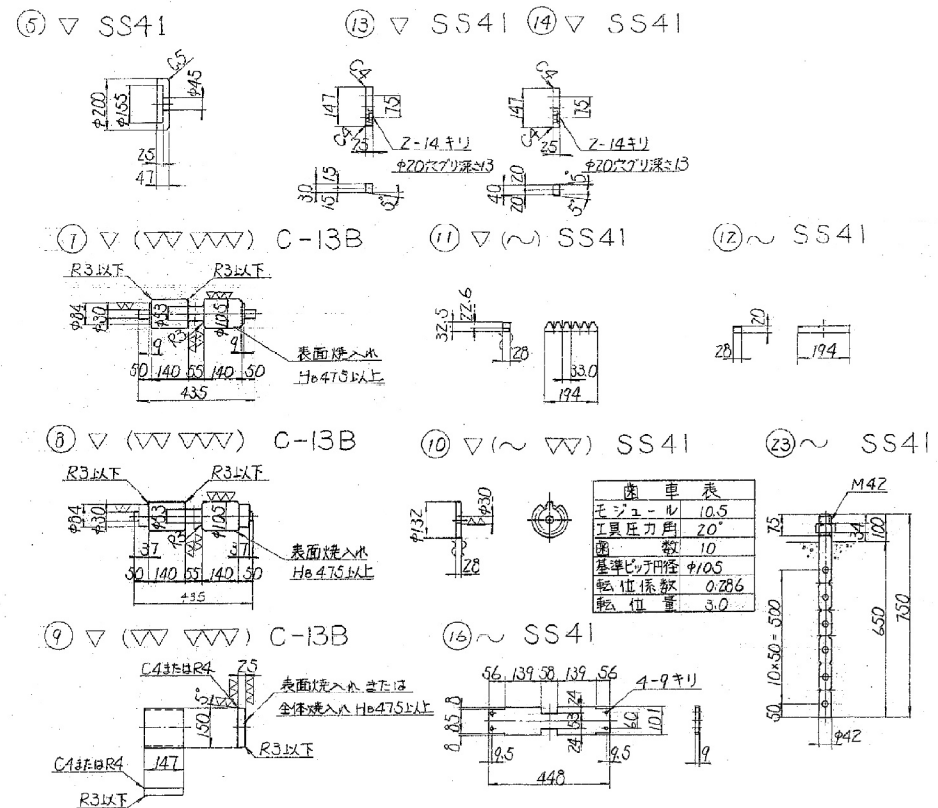
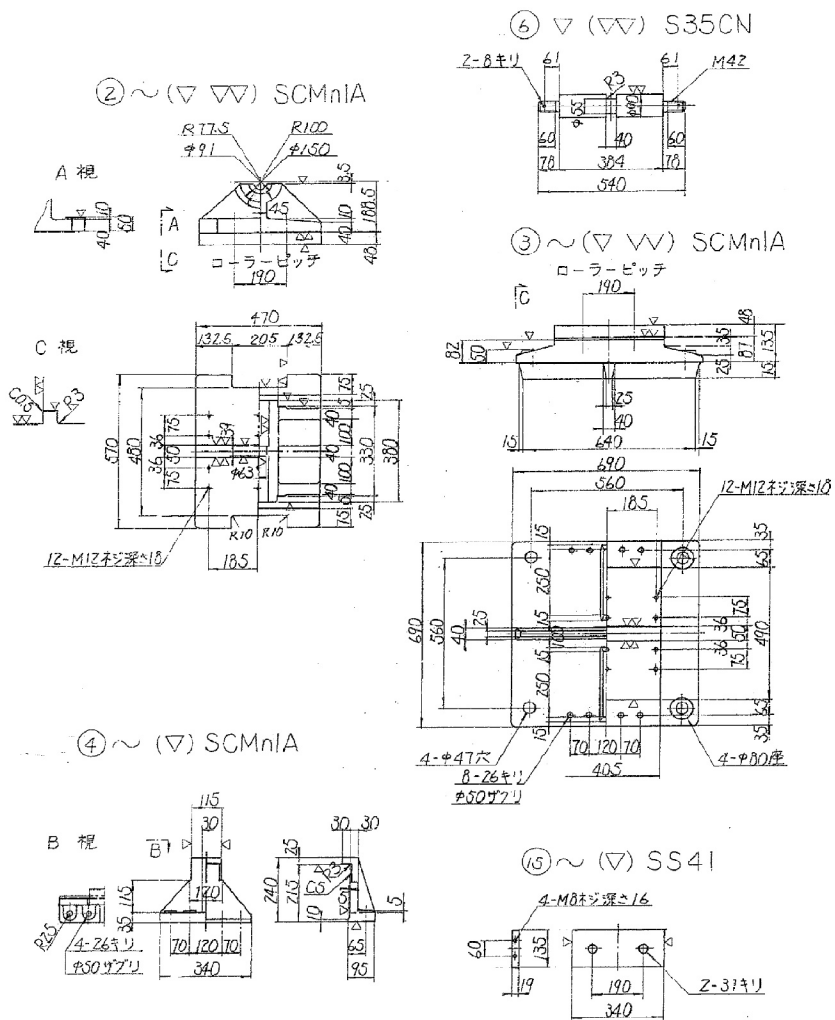
道央自動車道 苫小牧川橋床施設管工事			
図面の種類	錦多峰川橋 横構 (5/5)		
縮 尺	図 示	図面番号	／
設計会社名	安藤ハザマ・岩田地崎JV		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 北広島管理事務所		

支承 (その2) (P_1, P_3 可動査)



設計条件

全反力	R	239.0	ton
死荷重反力	R _d	156.1	ton
活荷重反力	R _{live}	82.9	ton
橋軸方向水平力(移動時)	R _{live}	12.0	ton
橋軸方向水平力(地震時)	R _{me}	37.5	ton
橋軸直角方向水平力(地震時)	R _{me}	37.5	ton
上揚力(地震時)	V	15.6	ton
移動量			
計算移動量	e ₁	80	mm
設計移動量	e ₂	50	mm
全移動可能量	e	90	mm
水平震度	K _h	0.24	
設計摩擦係數	f	0.05	
許容支圧応力度	σ _{ba}	80	N/cm ²
下部工との許容支圧応力度	σ _{ba}	2100	N/cm ²

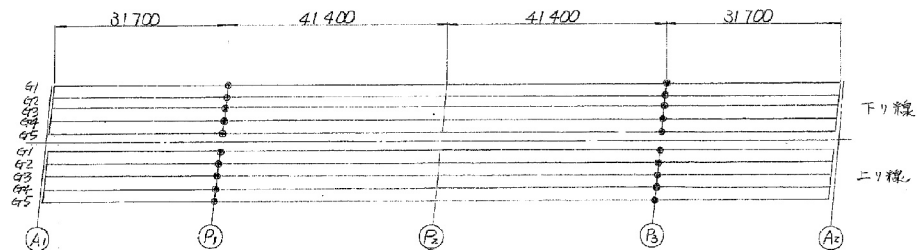


材料表

部番	品名	材質	個数	重量 (kg)	備考
1	上	咨 SCMn1A	1	68.2	
2	下	咨 SCMn1A	1	152.5	
3	底	板 SCMn1A	1	277.9	
4	サイド「プロ」	SCMn1A	2	38.0	
5	キ ャ ッ プ	SS41	2	15.2	
6	ピ ン	ソ S35CN	1	19.6	
7	ロ ー ラ ー (A)	C-13 B	1	21.2	
8	ロ ー ラ ー (B)	C-13 B	1	23.3	
9	支 圧 板	C-13 B	8	34.1	
10	ピ ニ ス ン	SS41	2	3.5	
11	ラ ッ ク	SS41	4	3.6	
12	端	片 SS41	4	3.4	
13	サイドプレート (A)	SS41	8	6.4	
14	サイドプレート (B)	SS41	4	4.5	
15	通 給 板	SS41	2	13.2	
16	カ バ ー	SS41	2	5.7	
17	六角 ナット	—	2	0.8	JIS B1817 JIS B1742
18	六角ボルト・ナット	—	8	6.2	JIS B1700 JIS B1701
19	六角 ボルト	ステンレス鋼	8	0.1	JIS B1700 JIS B1701
20	六角穴付ボルト	—	24	0.6	JIS B1700 JIS B1701
21	割 付 ピ ン	ステンレス鋼	2	—	8×5.6 JIS B1700
22	六角ボルト・ナット	—	4	2.7	JIS B1700 JIS B1701
23	アナカボルト・ナット	SS41	4	35.2	JIS B1742 JIS B1743
全 重 量				736.1 (kg)	

⑬ 六角ボルト 中 M 24 x 160 10.9
六角ナット 1種 中 M 24 10

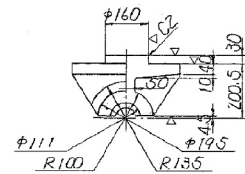
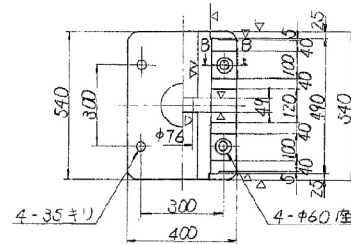
配置図



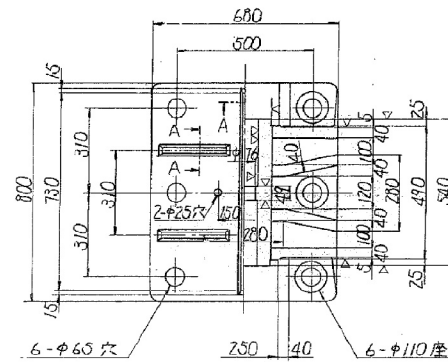
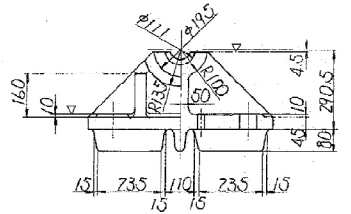
道 央 自 動 車 道			
吉小牧川橋床施設管工事			
図面の種類	錦多峰川橋 支 承 (その2)		
縮 尺	図 示	図面番号	／
設計会社名	安藤ハザマ・岩田地崎JV		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 北広島管理事務所		

支承(その3) (P₂固定部)

①~(▽▽) SCMn1A



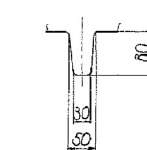
②~(▽▽) SCMn1A



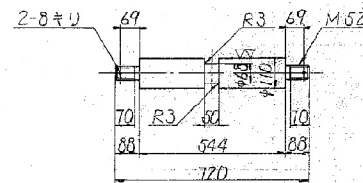
B-B断面



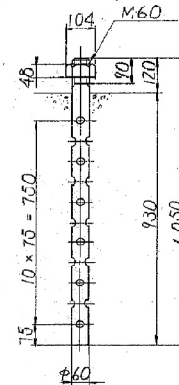
A-A断面 S=1/10



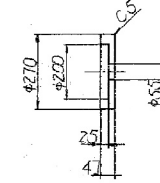
③▽(▽▽) S35CN



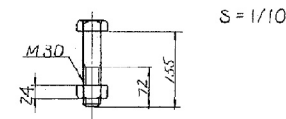
⑦~ SS41



④▽ SS41



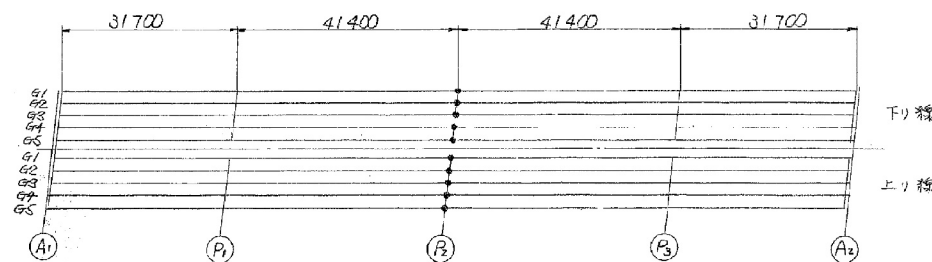
⑧ 六角ボルト 中 M30×155 10.9
六角ナット1種 中 M30 10



⑤ 2-六角ナット1種 中 M52

⑥ 2-割りピン 8×71

配置図



設計条件

反		力	
全	反	R	251.4 ton
死	荷重反力	R _d	163.3 ton
活	荷重反力	R _h	88.1 ton
橋軸方向	水平力(地震時)	R _{me}	134.8 ton
橋軸直角方向	水平力(地震時)	R _{me}	39.2 ton
上	揚力(地震時)	V	16.3 ton
水		平	
設計水平		震度	
設計水平		震度	
許容		支圧応力度	
下部工との許容		支圧応力度	
上部工との許容		支圧応力度	

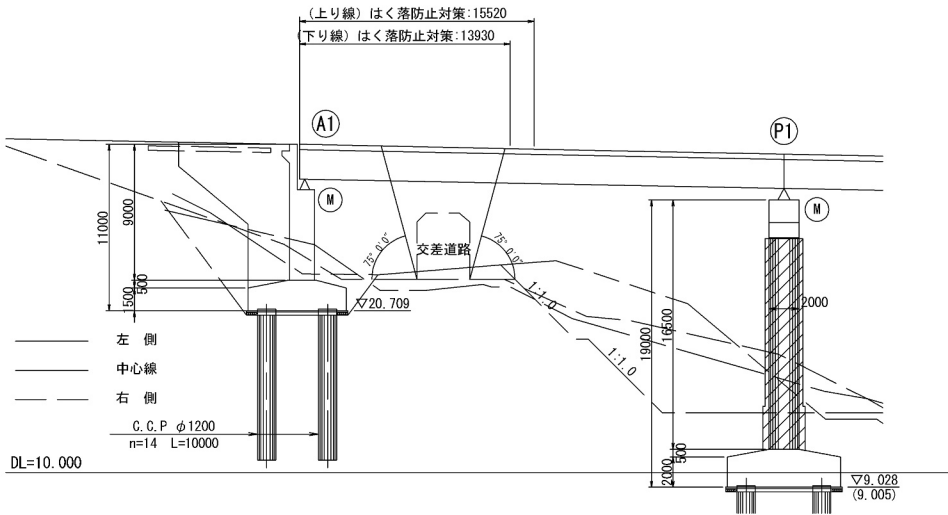
材料表

部番	品名	材質	個数	重量 (kg)	備考
1	上	ホ SCMn1A	1	172.3	
2	下	ホ SCMn1A	1	445.7	
3	ピ ン	S35CN	1	41.2	
4	キ ャ ッ プ	SS41	2	29.1	
5	ナ ッ ト	SS41	2	24	JIS B1181
6	割 リ ピ ン	ステンレス鋼	2	—	JIS B1351
7	ア ンカボルトナット	SS41	6	149.6	JIS B1181 JIS B1351 JIS B1351
8	六 角ボルトナット	—	4	5.2	JIS B1181 JIS B1181
全重量				845.5 (kg)	

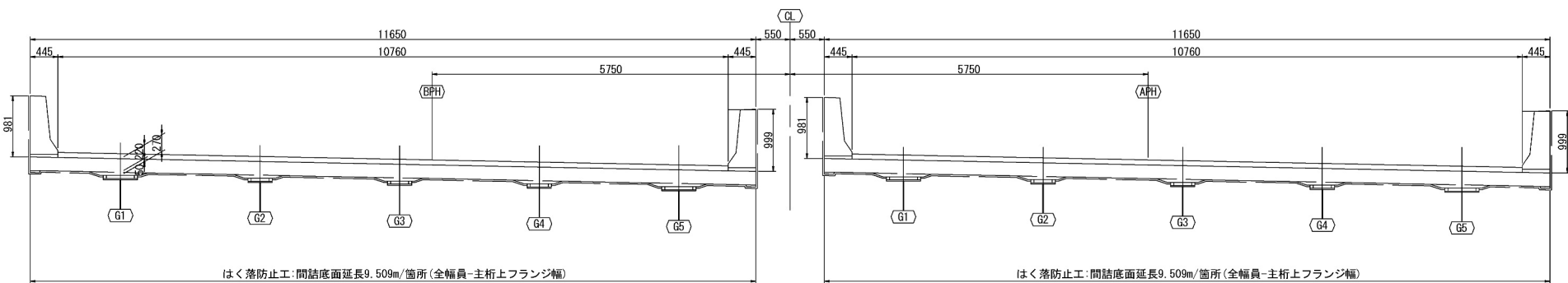
道央自動車道 苫小牧川橋床版取替工事			
図面の種類	錦多峰川橋 支承(その3)		
縮尺	図示	図面番号	/
設計会社名	安藤ハザマ・岩田地崎JV		
施工会社名	東日本高速道路株式会社 北海道支社		
事務所名	北広島管理事務所		

道 央 自 動 車 道			
吉小牧川橋床版取替工事			
図面の種類	錦多峰川橋		
	耐震連結装置		
縮 尺	図 示	図面番号	／
設計会社名	安藤ハザマ・岩田地崎JV		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 北広島管理事務所		

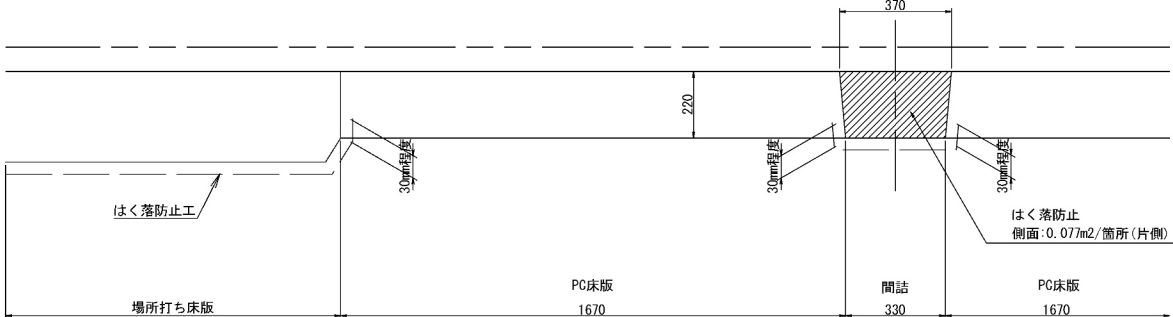
側面図 縮尺 1:500



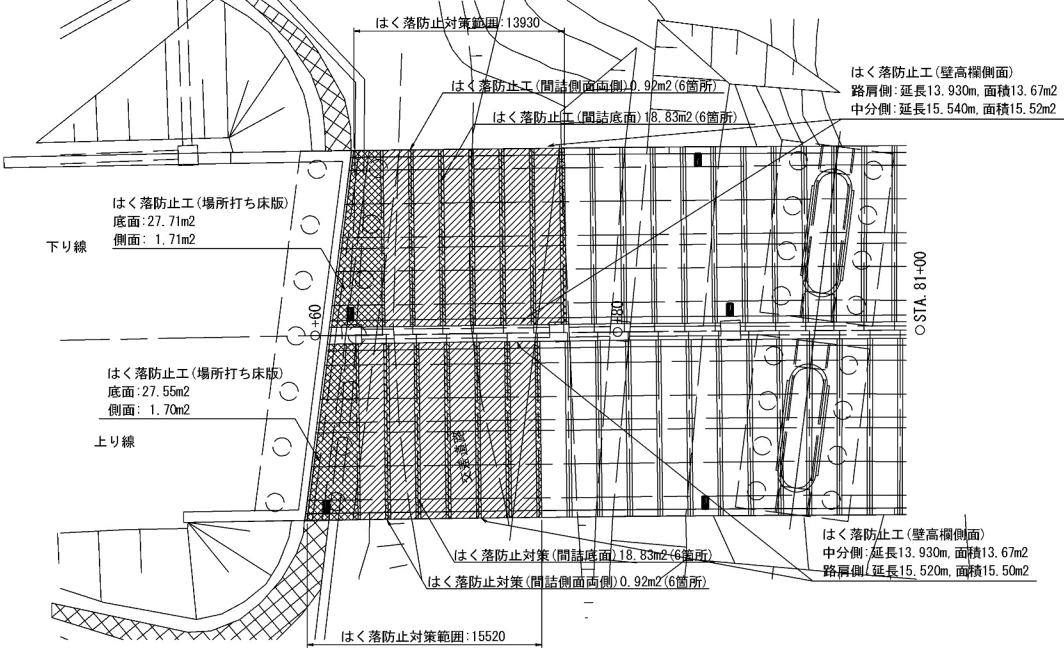
断面図 S=1:100



場所打ち床版、間詰断面図 S=1:25



平面図 縮尺 1:500



下り線				
	単位	路肩側	中分側	合計
はく落防止工	間詰側面	m2	-	0.92
	間詰底面	"	-	18.83
	場所打ち床版底面	"	-	27.71
	場所打ち床版側面	"	-	1.71
	壁高欄側面	"	13.67	15.52

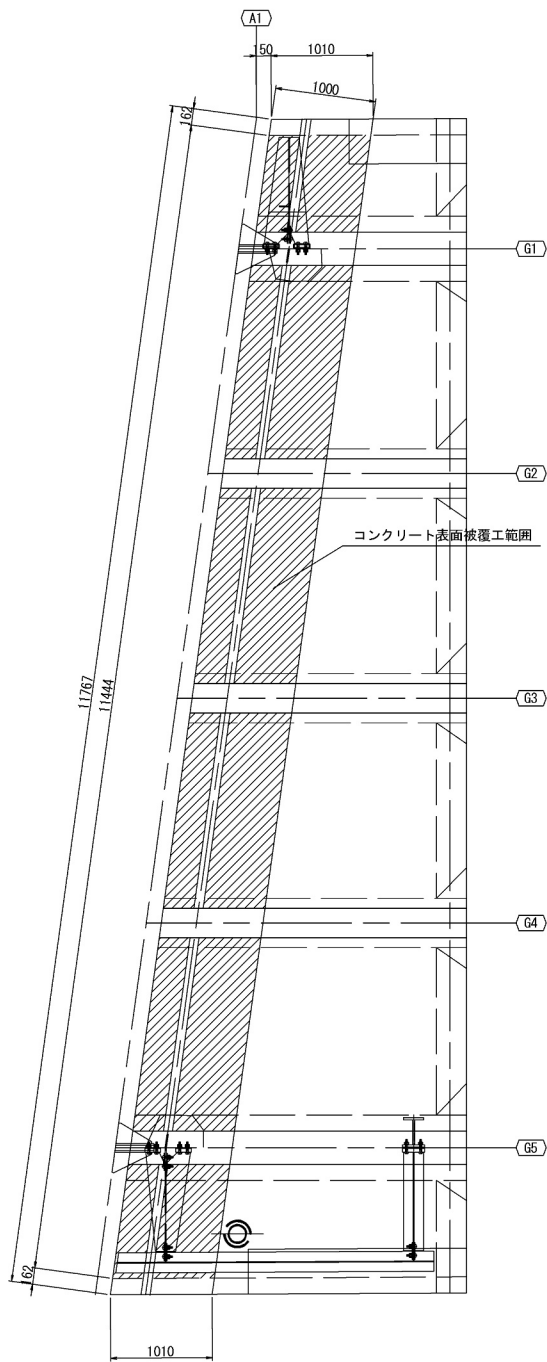
上り線				
	単位	路肩側	中分側	合計
はく落防止工	間詰側面	m2	-	0.92
	間詰底面	"	-	18.83
	場所打ち床版底面	"	-	27.55
	場所打ち床版側面	"	-	1.70
	壁高欄側面	"	15.50	13.67

項目	単位	数量	備考
はく落防止対策工A	下り線	m2	78.4
	上り線	m2	78.2
	合計	m2	156.6

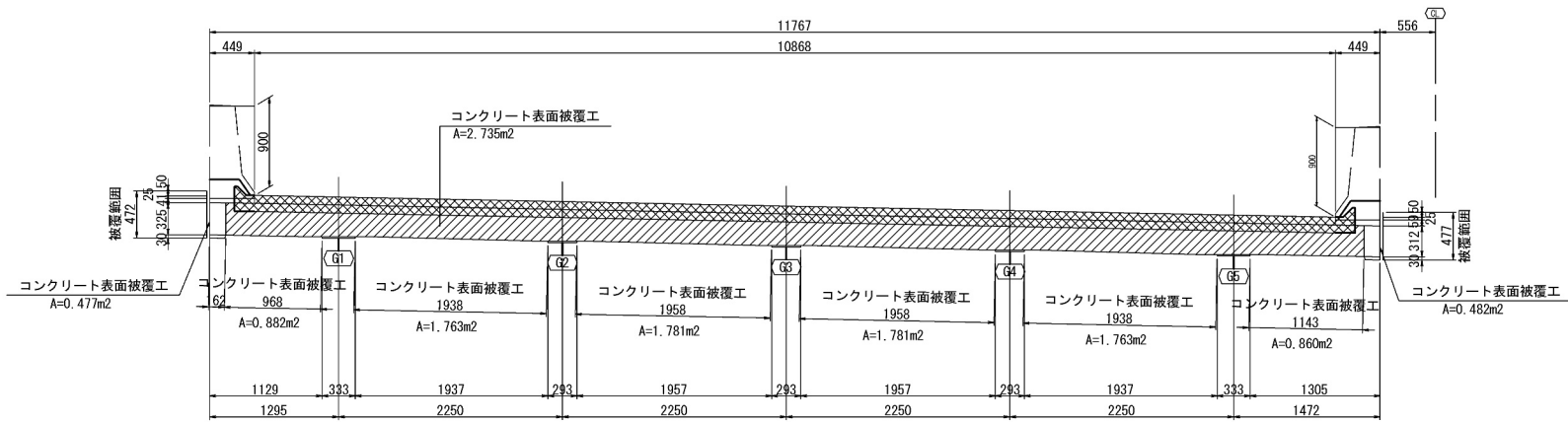
道央自動車道 苫小牧川橋床版取替工事			
図面の種類	錦多峰川橋 はく落防止対策工図		
	縮尺	図示	図面番号
設計会社名	安藤ハザマ・岩田地崎JV		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 北広島管理事務所		

錦多峰川橋(下り線) コンクリート表面被覆工図(その1)
 (A1側)

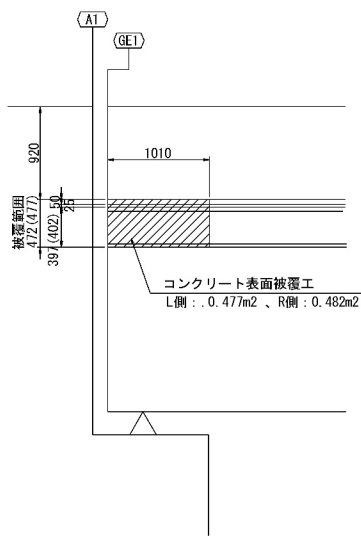
平面図 S=1:75



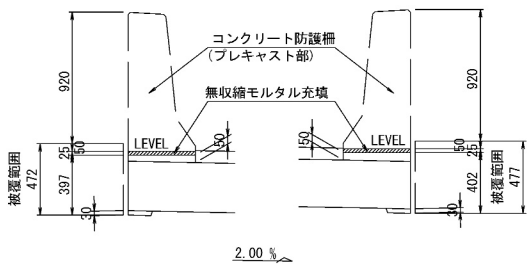
断面図 S=1:75



側面図 S=1:75



側面 表面被覆範囲 S=1:50



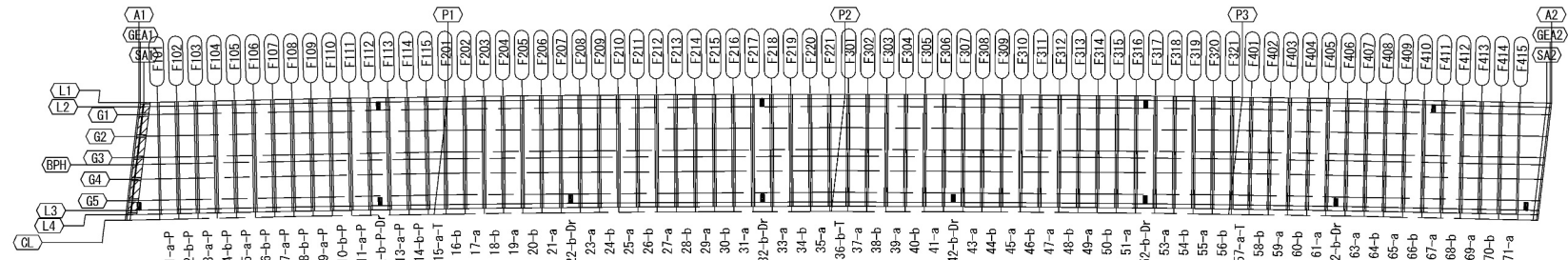
項目	単位	数量	備考
上り線	m2	24.9	
下り線	m2	25.1	
合計	m2	50.0	

数量表

項目	単位	数量	備考
表面保護工			
コンクリート表面被覆工	m2	12.524	表面被覆材

コンクリート表面被覆工

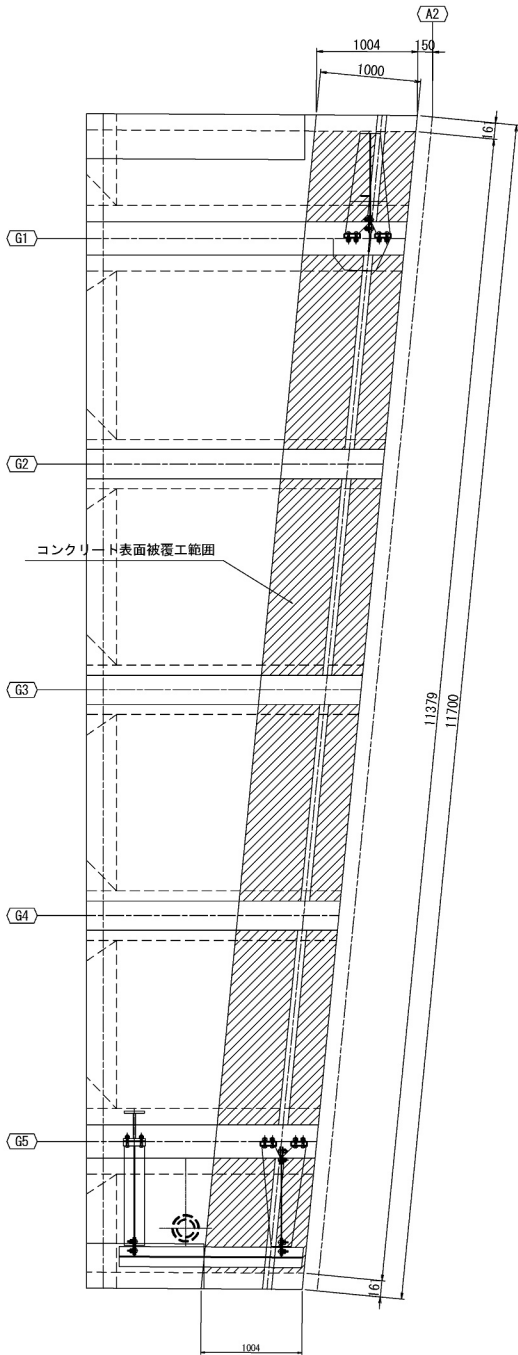
位置図 S=1:750



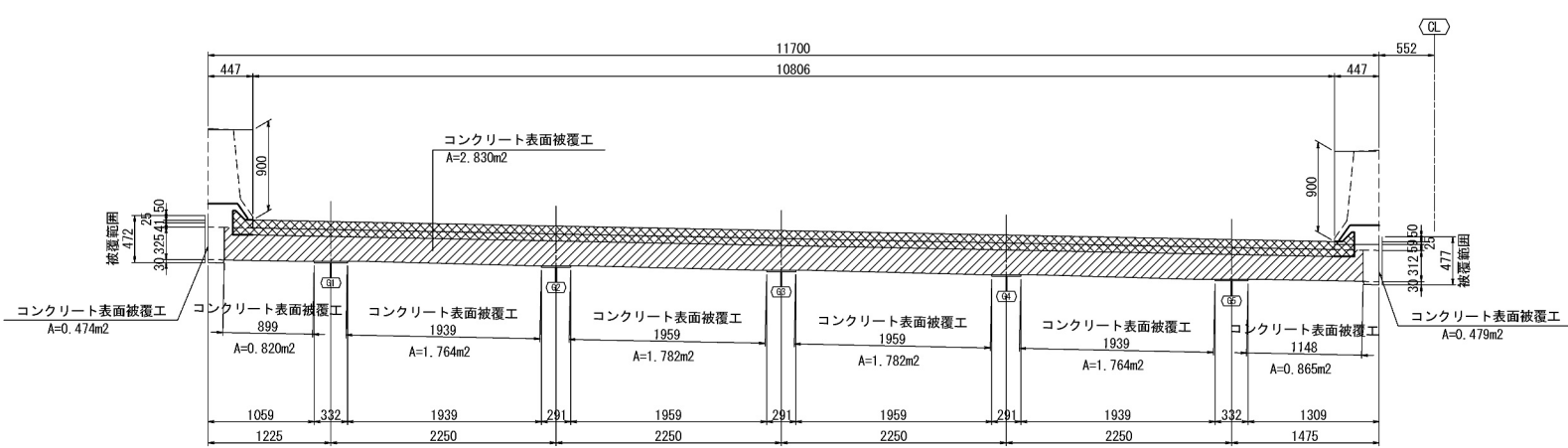
道央自動車道 苫小牧川橋床版取替工事			
図面の種類	錦多峰川橋(下り線) コンクリート表面被覆工図(その1)		
縮尺	図示	図面番号	/
設計会社名	安藤ハザマ・岩田地崎JV		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 北広島管理事務所		

錦多峰川橋(下り線) コンクリート表面被覆工図(その2)
(A2側)

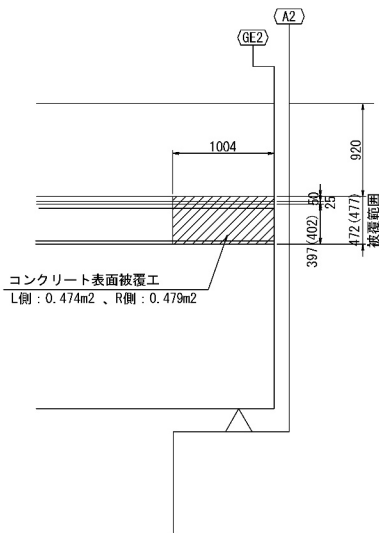
平面図 S=1:75



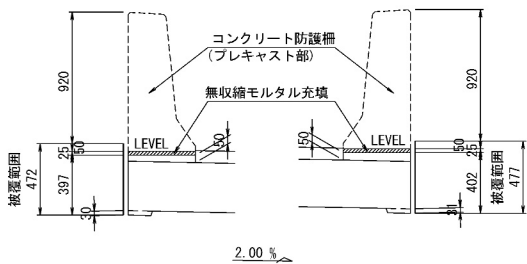
断面図 S=1:75



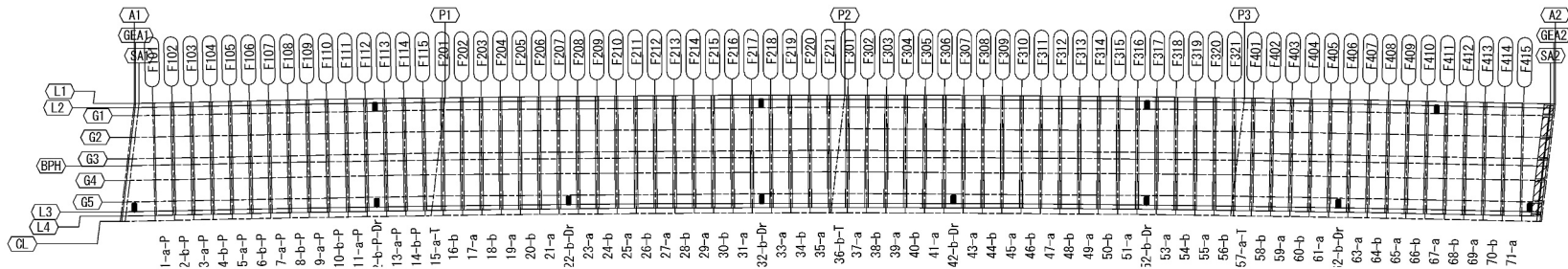
側面図 S=1:75



側面 表面被覆範囲 S=1:50



位置図 S=1:750



数量表

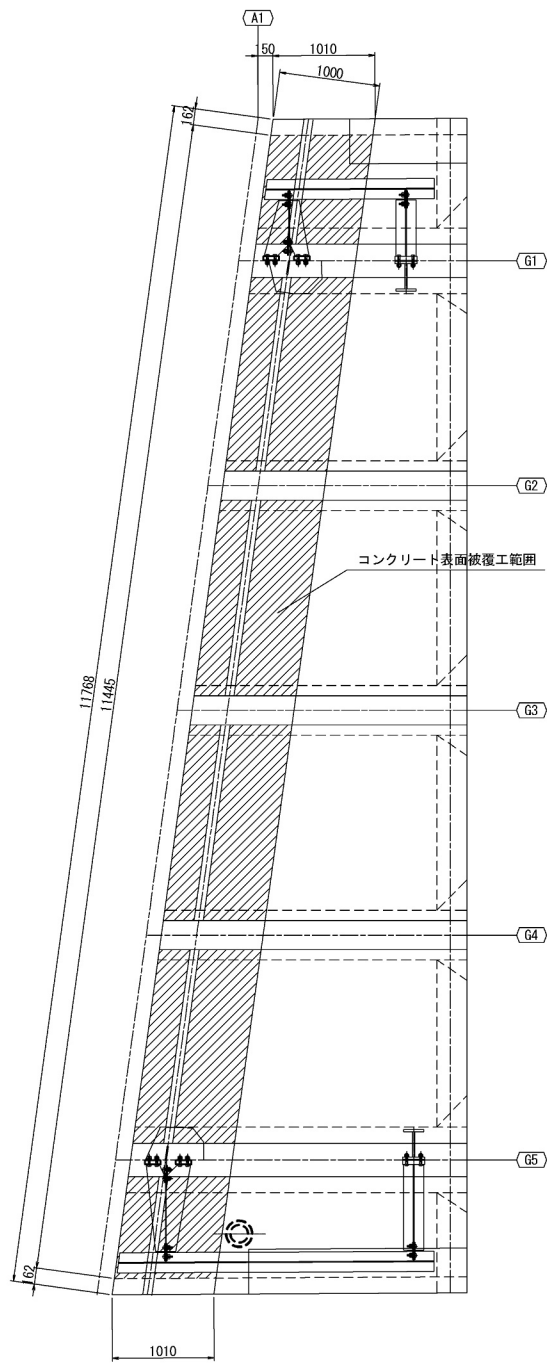
項目	単位	数量	備考
表面保護工			
コンクリート表面被覆工	m2	12,560	表面被覆材

コンクリート表面被覆工

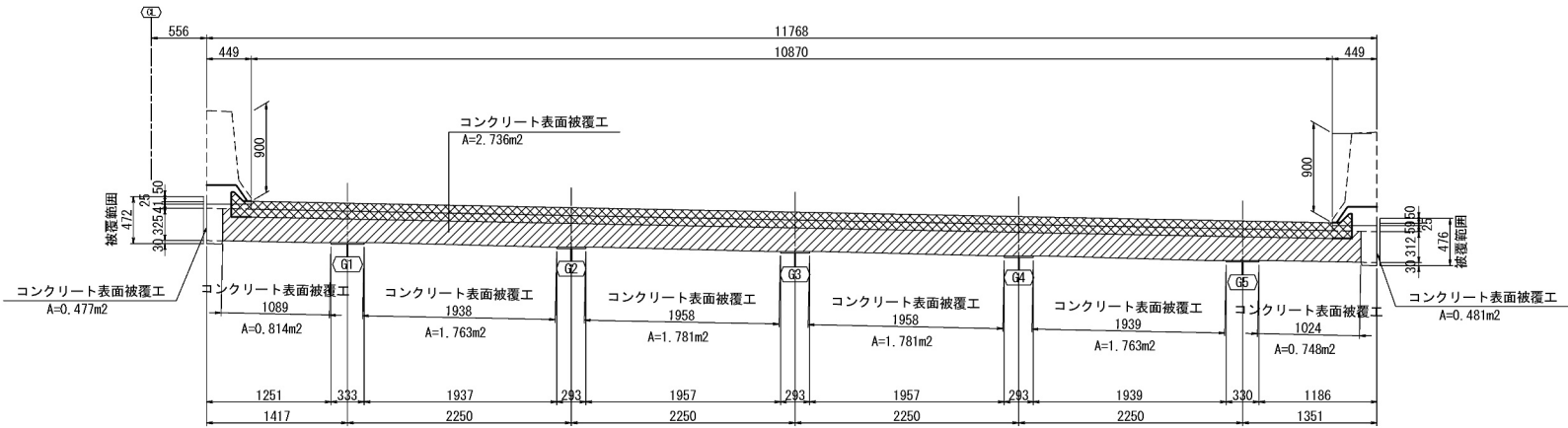
道央自動車道 苫小牧川橋床版取替工事			
図面の種類	錦多峰川橋(下り線) コンクリート表面被覆工図(その2)		
縮尺	図示	図面番号	/
設計会社名	安藤ハザマ・岩田地崎JV		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 北広島管理事務所		

錦多峰川橋(上り線) コンクリート表面被覆工図(その1)
(A1側)

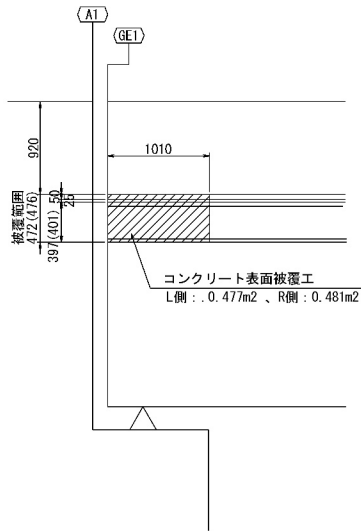
平面図 S=1:75



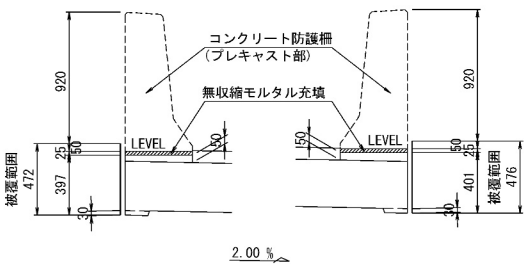
断面図 S=1:75



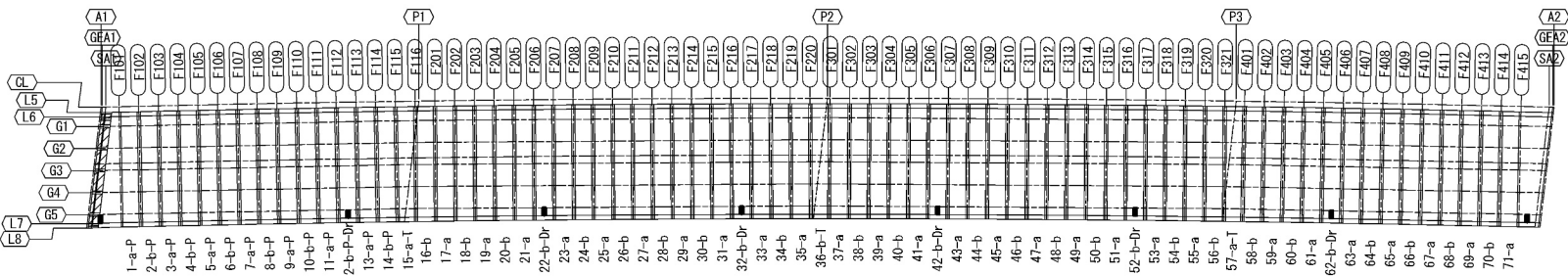
側面図 S=1:75



側面 表面被覆範囲 S=1:50



位置図 S=1:750



数量表

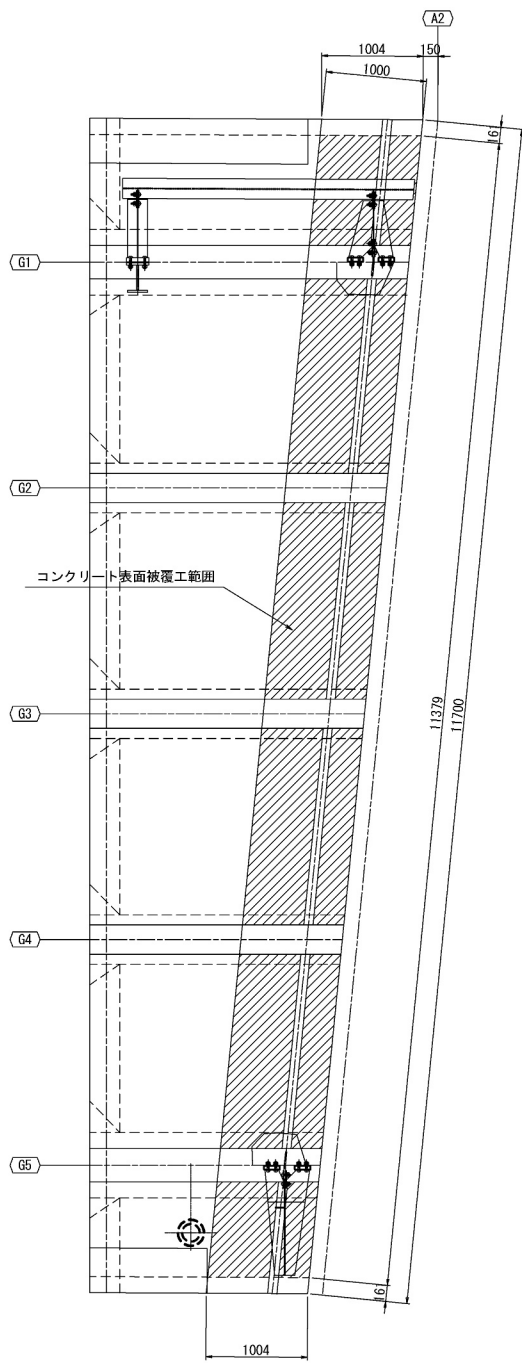
項目	単位	数量	備考
表面保護工			
コンクリート表面被覆工	m2	12.344	表面被覆材

コンクリート表面被覆工

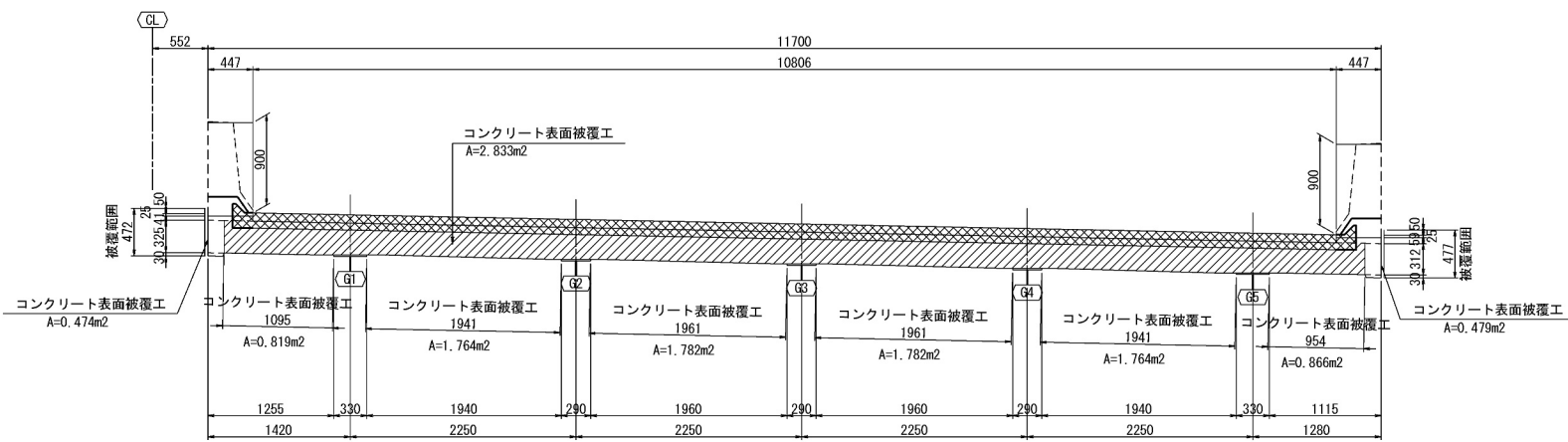
道央自動車道 苫小牧川橋床版取替工事			
図面の種類	錦多峰川橋(上り線) コンクリート表面被覆工図(その1)		
縮尺	図示	図面番号	/
設計会社名	安藤ハザマ・岩田地崎JV		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 北広島管理事務所		

錦多峰川橋(上り線) コンクリート表面被覆工図(その2)
 (A2側)

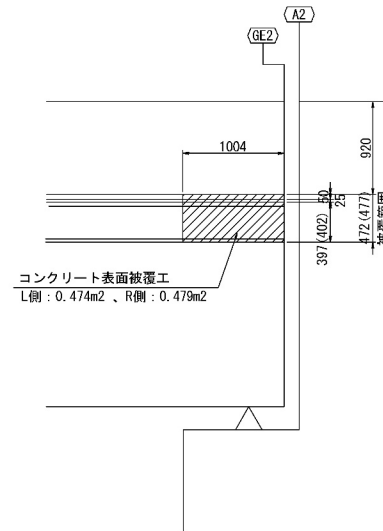
平面図 S=1:75



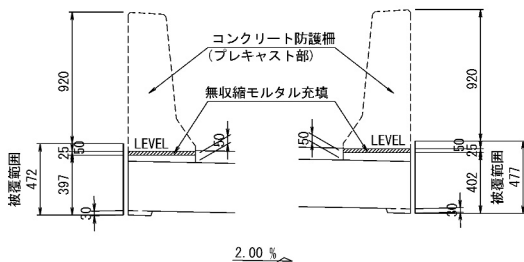
断面図 S=1:75



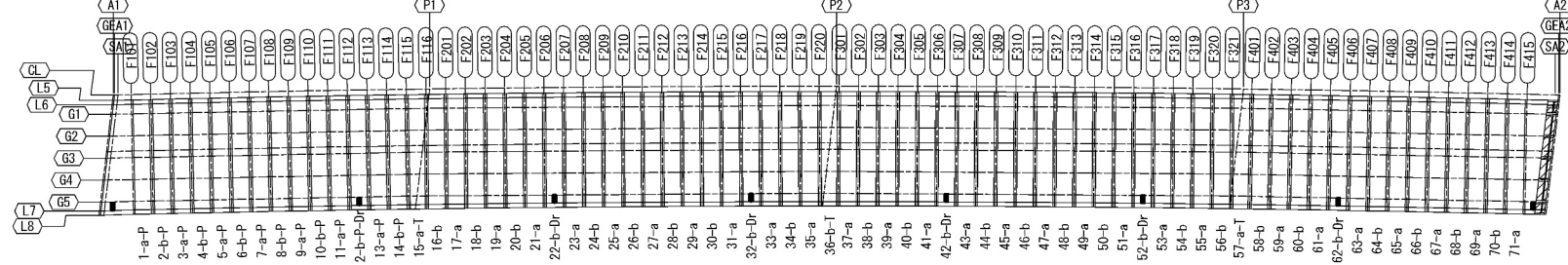
側面図 S=1:75



側面 表面被覆範囲 S=1:50



位置図 S=1:750

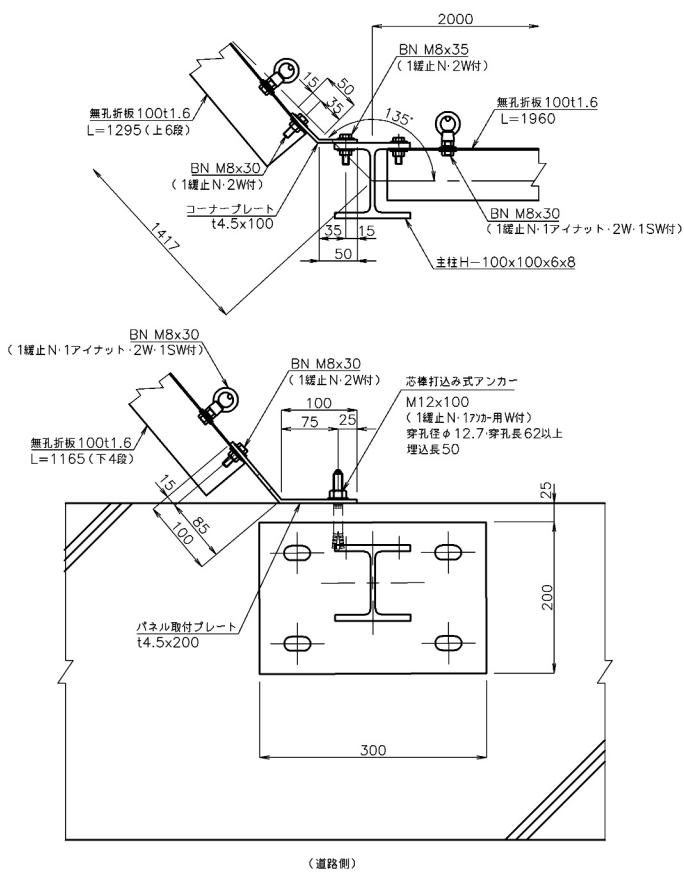
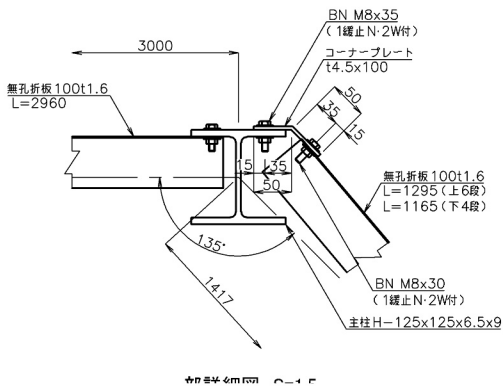
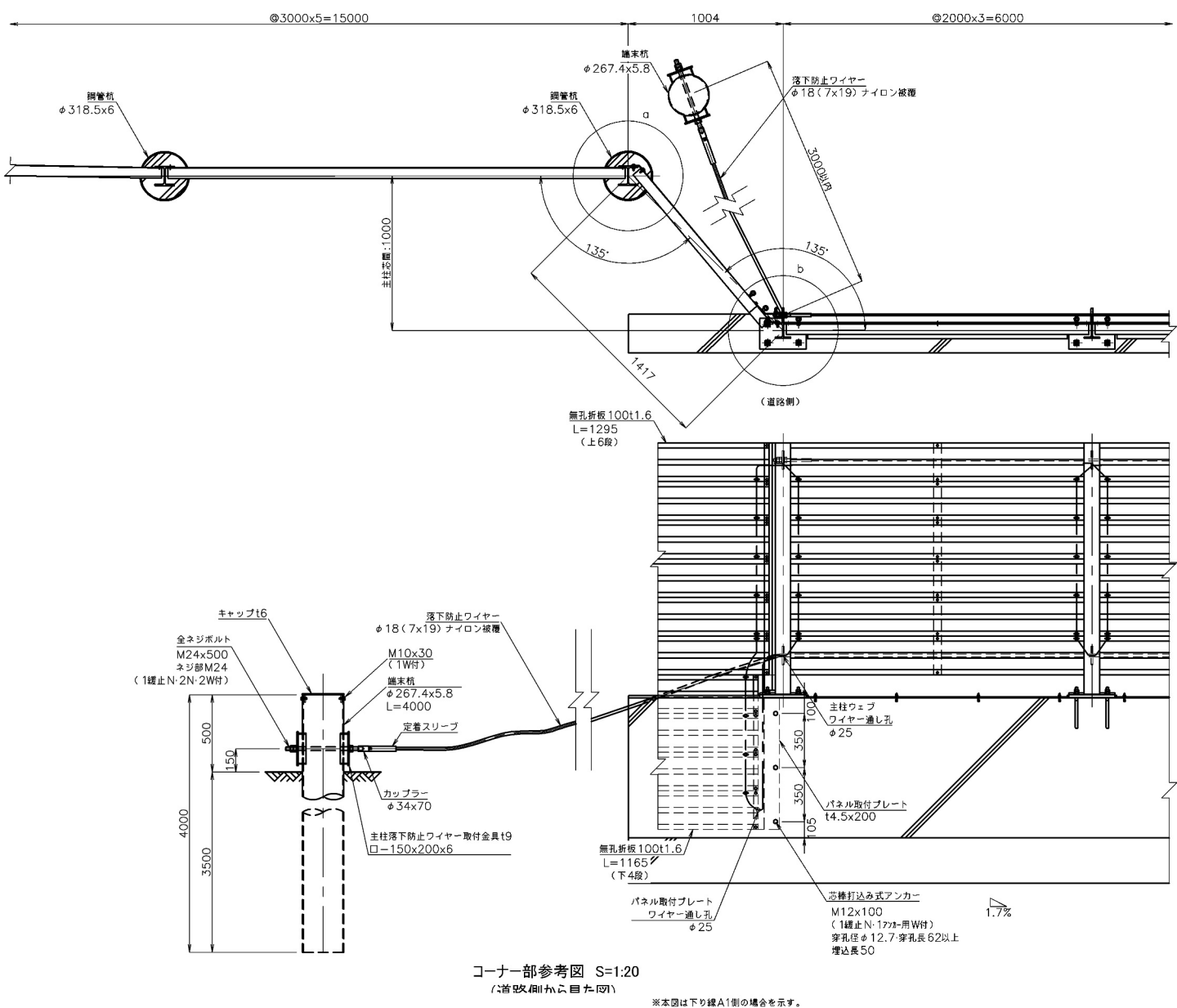
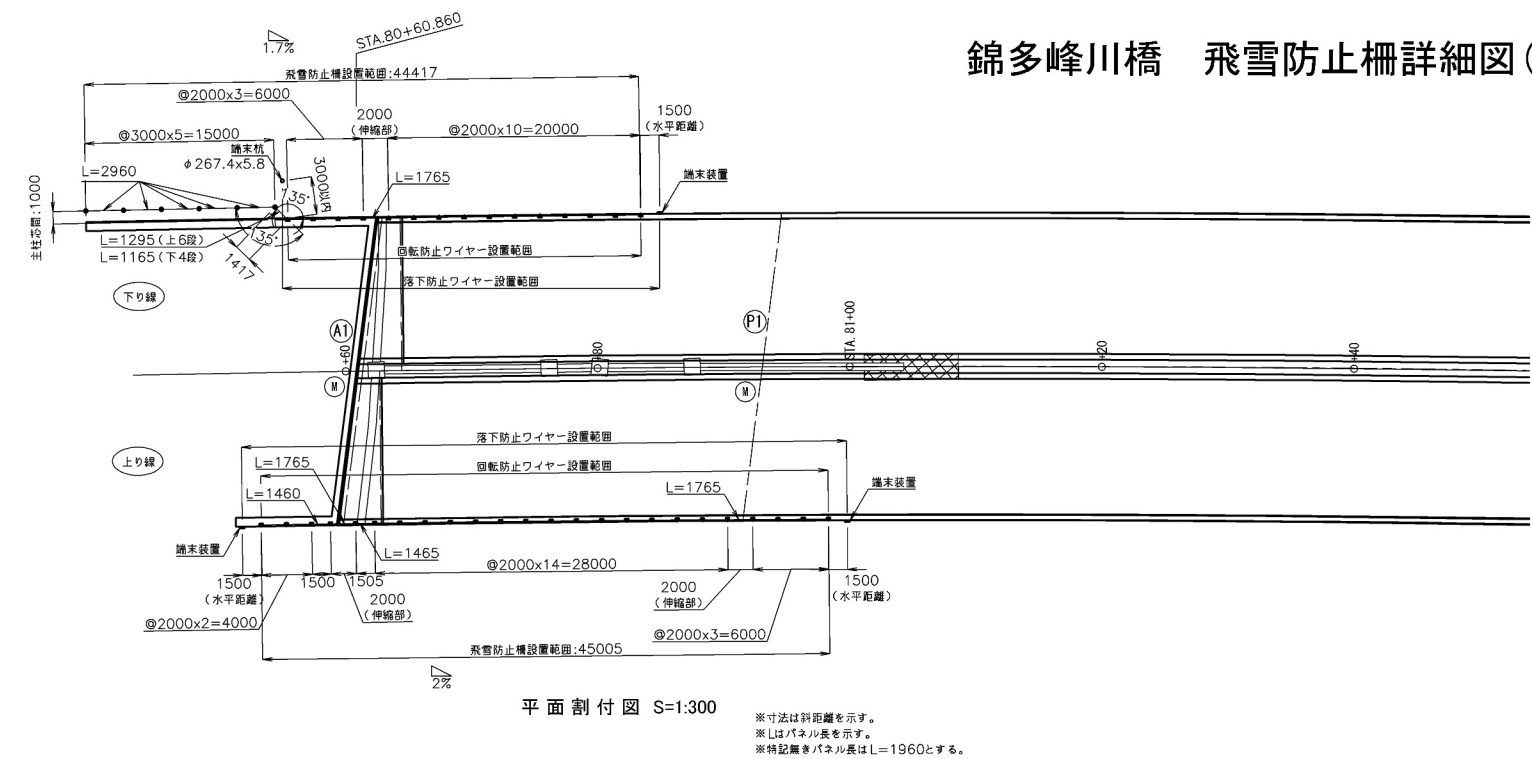


項目	単位	数量	備考
表面保護工			
コンクリート表面被覆工	m2	12,563	表面被覆材

コンクリート表面被覆工

道央自動車道 苫小牧川橋床版取替工事	錦多峰川橋(上り線) コンクリート表面被覆工図(その2)	縮尺	図示	図面番号	/
設計会社名	安藤ハザマ・岩田地崎JV	施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 北広島管理事務所				

錦多峰川橋 飛雪防止柵詳細図(その1)



b部詳細図 S=1:5

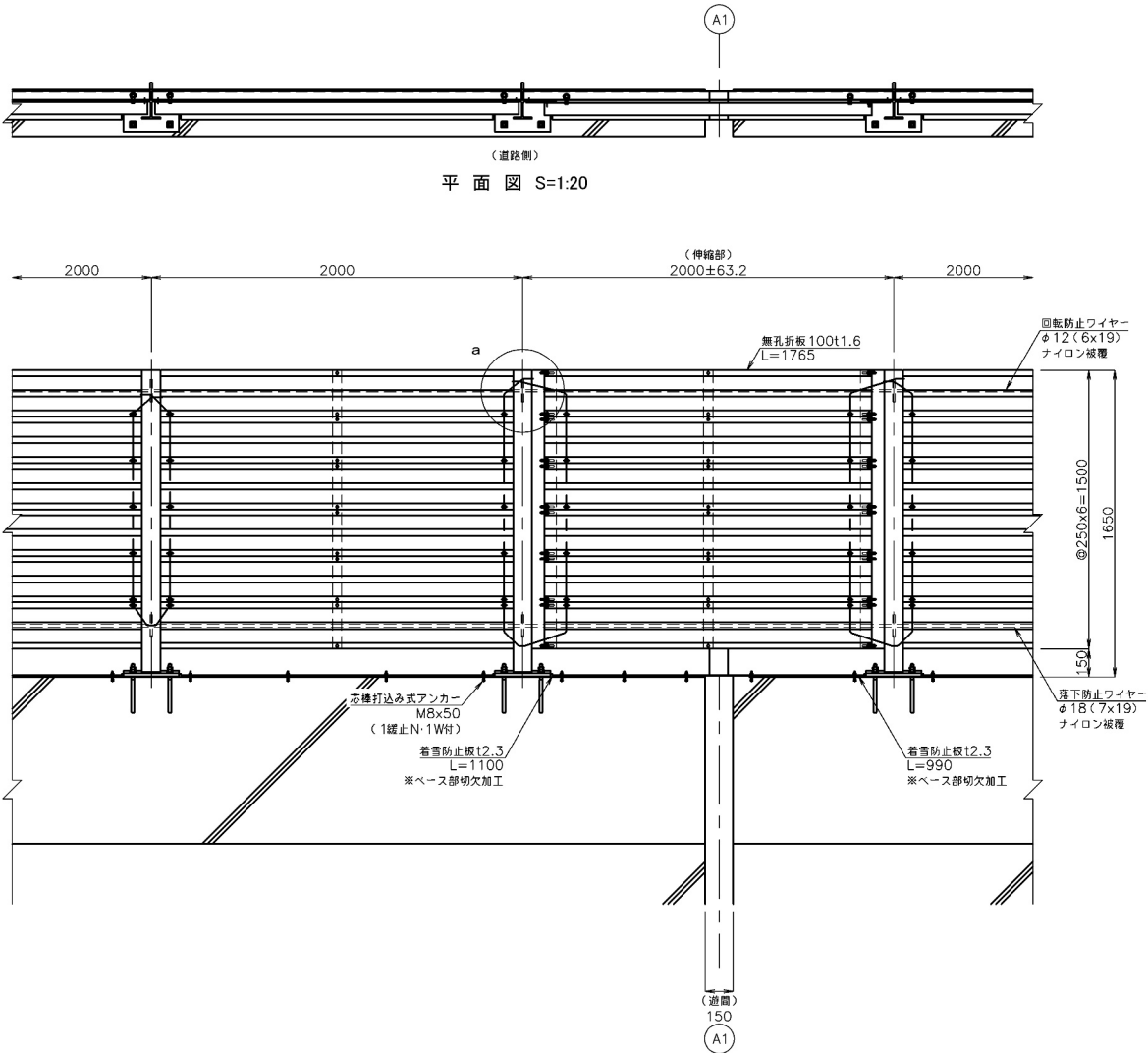
数量表

項目	単位	数量	適用
飛雪防止柵	下り線	m	44.4
	上り線	m	45.0

【注記】1.主柱はレベル用(水勾配加工有り)を壁高欄端に垂直に設置する。
2.緩止ナットは、NAS3350/3354基準適合品とする。
3.落下防止ワイヤーφ18(7x19)の適用長さは11m～398mとする。
4.折板・着雪防止板はJIG G 3323 に準ずる SGMH400相当 高耐候性めっき鋼板 T30※1
※1 高耐候性めっき鋼板(Al-19%、Mg-6%)めっき付着量両面300g/m²以上とする。

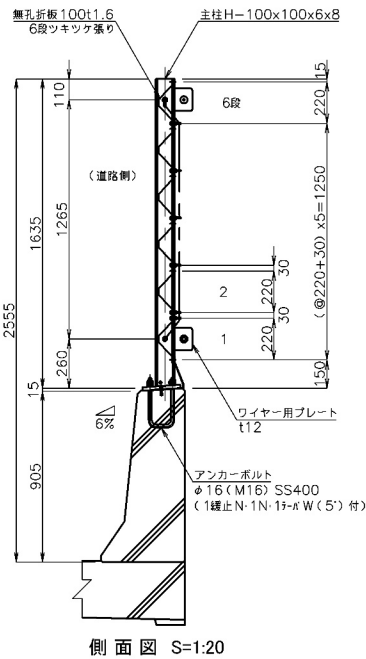
道央自動車道 苫小牧川橋床版取替工事			
図面の種類	錦多峰川橋 飛雪防止柵詳細図(その1)		
縮尺	図示	図面番号	/
設計会社名	安藤ハザマ・岩田地崎JV		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 北広島管理事務所		

錦多峰川橋 飛雪防止柵詳細図(その2)

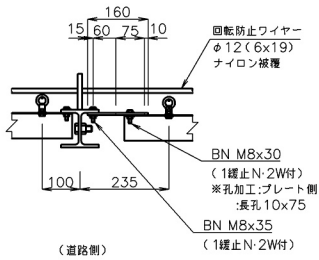


立面図 S=1:20

※本図は下り線の場合を示す。
※芯棒打込み式アンカー位置は現地確認の上決めること。



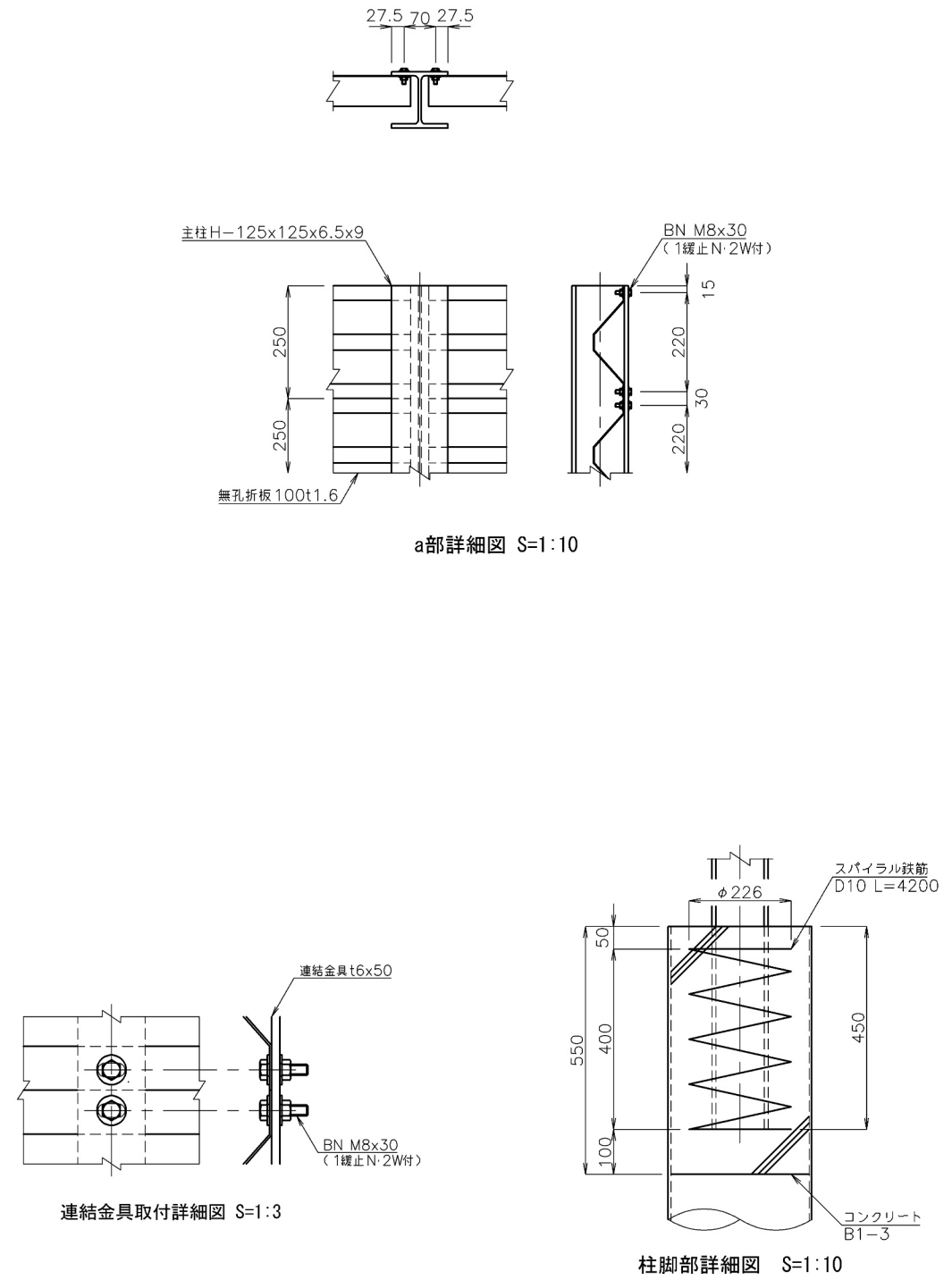
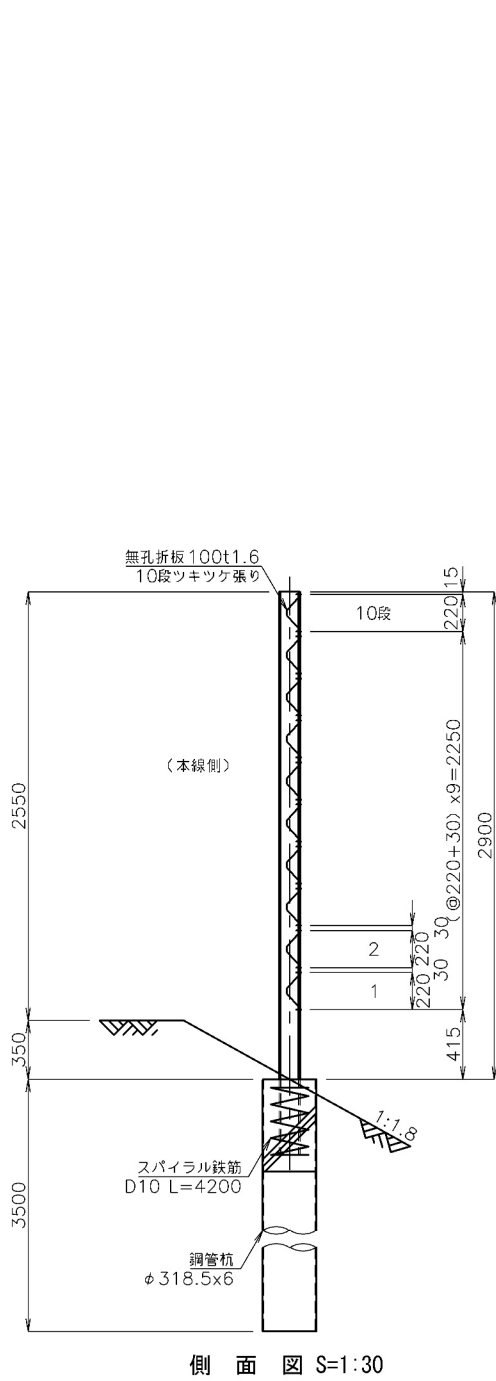
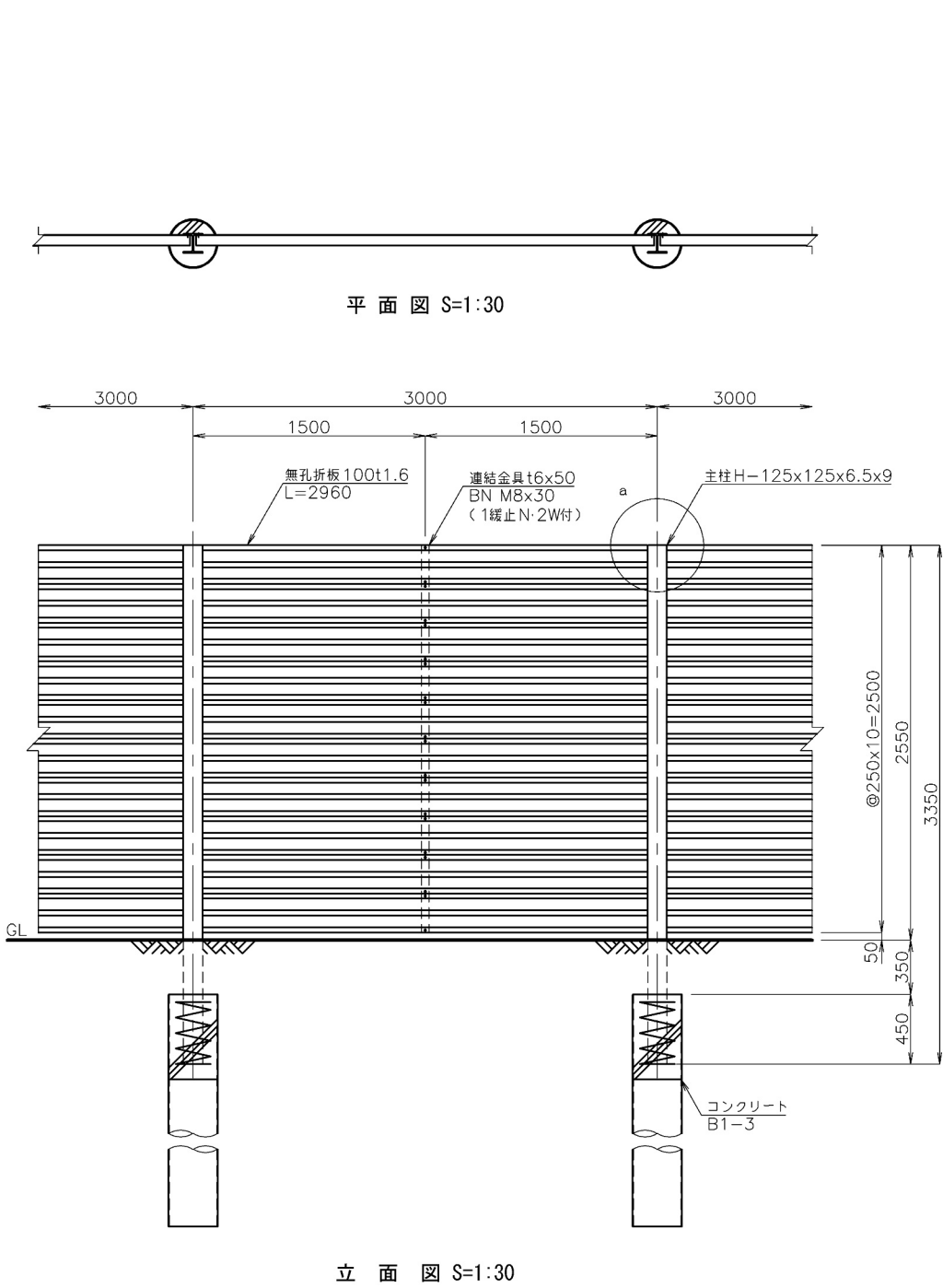
側面図 S=1:20



a部詳細図 S=1:10

【注記】1. 主柱はレベル用(水勾配加工有り)を壁高欄天端に垂直に設置する。
2. 緩止サットは、NAS3350/3354基準適合品とする。
3. 落下防止ワイヤーφ18(7x19)の適用長さは11m～398mとする。
4. 折板・着雪防止板はJIS G 3323に準ずるSGMH400相当 高耐候性めっき鋼板 T30※1
※1 高耐候性めっき鋼板(Al-19%、Mg-6%)めっき付着量両面300g/m²以上とする。

道央自動車道 苫小牧川橋床版取替工事			
図面の種類	錦多峰川橋 飛雪防止柵詳細図(その2)		
	縮尺	図示	図面番号
設計会社名	安藤ハザマ・岩田地蔵JV		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 北広島管理事務所		



【注記】 1. 緩止ナットは、NAS3350/3354基準適合品とする。
2. 折板はJIS G 3323に準ずるSGMH400相当 高耐候性めっき鋼板 T30※1
※1 高耐候性めっき鋼板 (Al-19%、Mg-6%)めっき付着量両面300g/m²以上とする。

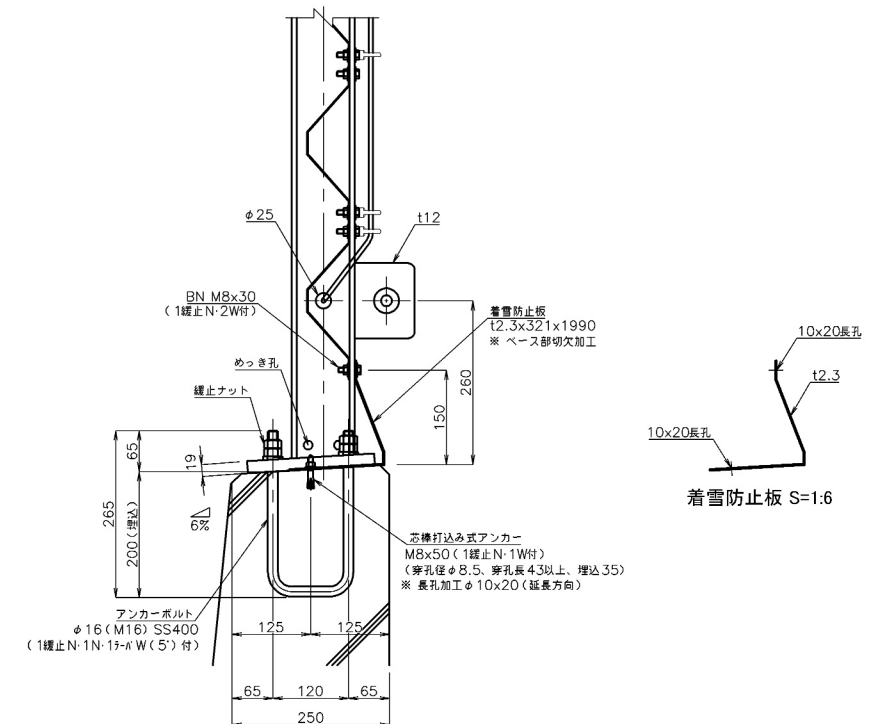
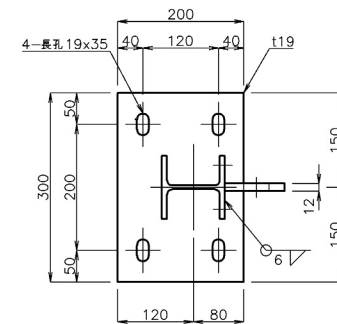
道央自動車道 苫小牧川橋床版取替工事			
図面の種類	錦多峰川橋 飛雪防止柵詳細図(その3)		
	縮尺	図示	図面番号 /
設計会社名	安藤ハザマ・岩田地崎JV		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 北広島管理事務所		

平面图 S=1:20

立面図 S=1:20
(道路側から見た図)

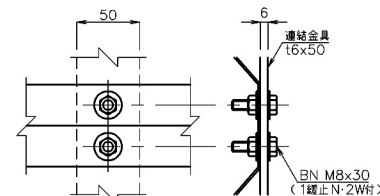
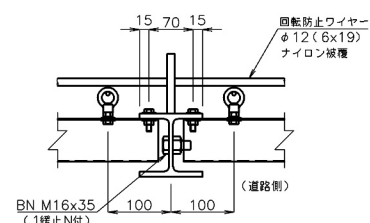
※本図は下り線P1側の場合を示す。
※本図は標準スパンを示す。

側面図 S=1:20



着雪防止板 S=1:6

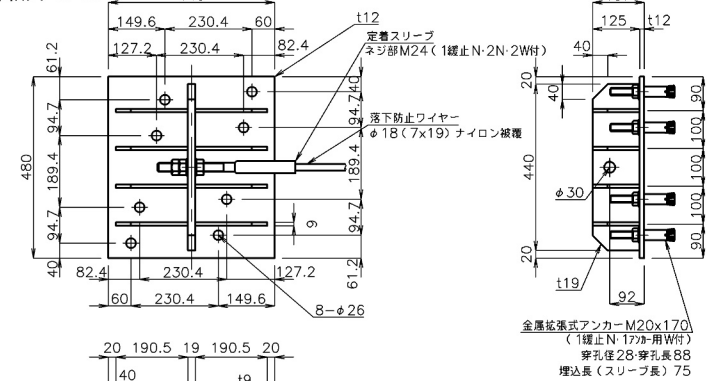
a(端末)部詳細図 S=1:6



イヤー用プレート詳細図 S=1:6

(落下防止・回転防止共通)

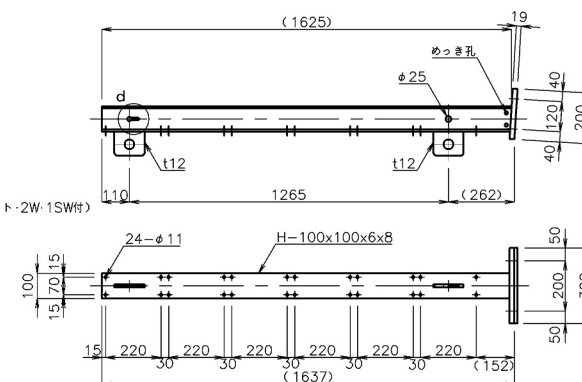
柱脚部詳細図 S=1:6



金属拡張式アンカー M20×170
(1緩止N・170用W付)
穿孔径28・穿孔長88
埋込長(スリーブ長)75

着雪防止板取付詳細図 S=1:6

b・c部詳細図 S=1:6



落下防止ワイヤー端末装置詳細図 S=1:10

※本図は下り線P1側・上り線A1側を示す
上り線P1側は対称形とする。

- 【注記】1. 主柱はレール用(水勾配加工有り)を壁高欄天端に垂直に設置する。
2. 緩止ナットは、NAS3350/3354基準適合品とする。
3. 落下防止ワイヤーφ18(7x19)の適用長さは11m～398mとする。
4. 折板・着雪防止板はJIS G 3232に準ずるSGMH400相当 高耐候性めっき鋼板 T30※1
※1 高耐候性めっき鋼板(Al-19%、Mg-6%)めっき付着量両面300g/m²以上とする。

道 央 自 動 車 道			
苫小牧川橋床版取替工事			
図面の種類	錦多峰川橋 飛雪防止柵詳細図(その4)		
縮 尺	図 示	図面番号	／
設計会社名	安藤ハザマ・岩田地味JV		
施工会社名			
事務所名	東日本高速道路株式会社 北海道支社 北広島管理事務所		